

こころの健康に関する市民アンケート調査
「東大和市自殺対策計画」策定のための
事業者等アンケート調査

報 告 書

令和 8 年 3 月

東大和市

第1章 こころの健康に関する市民アンケート調査

I 調査概要

1. 調査の目的	3
2. 調査の方法	3
3. 回収結果	3
4. 調査の内容	3
5. 報告書の見方	3

II 調査結果

1. 回答者の属性

(1) 性別	4
(2) 年齢	4
(3) 居住地区	5
(4) 居住年数	6
(5) 世帯構成	6
(6) 職業	7
(7) 家計の状況	7
(8) 幸福度	8

2. 悩みやストレスについて

(1) 悩みやストレス、不満を感じていること	9
(2) 日々の生活の中で感じることとその頻度	11
(3) 日常生活の悩みや苦勞、ストレス、不満解消の内容と程度	14

3. 人に相談することについて

(1) 悩みやストレスを感じた時の考え方	22
(2) 相談したい人、または実際に相談したことがある人	24
(3) 相談したいと思わない理由	25
(4) 過去に相談したことがある人	26
(5) 悩みやストレスを感じた時の対処方法	27

4. 相談を受けることについて

(1) 身近な人がつらそうに見えた時の対応	32
-----------------------	----

5. 自殺に関する考えについて

(1) 「自殺」について思うこと	34
(2) 身近な人から「死にたい」と打ち明けられた時の対応	50

目次

6. 自殺対策・予防等について	
(1) 自殺対策に関する啓発物を見聞きしたことの有無	52
(2) これまで見聞きしたことのある自殺対策に関する啓発物	54
(3) 自殺対策に関する啓発物を見た場所	55
(4) 自殺対策に関する啓発物を見た時の対応	56
(5) 講演会や講習会への参加の有無	57
(6) 自殺対策に関するPR活動	59
(7) ゲートキーパー（命の門番）の認知度	61
7. 自死遺族への支援について	
(1) 周りで自殺（自死）した人の有無	63
(2) 周りで自殺（自死）した人との関係	65
(3) 自死遺族の支援について知っていること	66
8. 自分自身が自殺を考えたことについて	
(1) 自殺をしたいと考えたことの有無	68
(2) 自殺をしたいと考えた理由や原因	70
(3) 自殺を思いとどまった理由	71
(4) 自殺をしたいと思った時の相談相手	72
Ⅲ 調査票	73
第2章 「東大和市自殺対策計画」策定のための事業者等アンケート調査	
Ⅰ 調査概要	
1. 調査の目的	85
2. 調査の方法	85
3. 回収結果	85
4. 調査の内容	85
5. 報告書の見方	85
Ⅱ 調査結果	
(1) 自殺を疑うような相談を受けたことの有無	86
(2) 自殺を疑うような相談を受けた時の具体的な対応	87
(3) 相談者との継続的な関わり	88
(4) 自殺予防対策・活動の取組みおよび取組みたい、取組む予定	89
(5) 自殺予防対策の問題点や課題	91
(6) 自殺予防対策としての関係機関の連携体制の必要性	92
(7) 連携先	93
(8) 具体的な連携方法	94
(9) 連携することの難しい理由	95
(10) 東大和市への意見・要望	96
Ⅲ 調査票	97

第1章

こころの健康に関する市民アンケート調査

I 調査概要

1. 調査の目的

東大和市では、「第2次東大和市自殺対策計画」の策定にあたり、日ごろの市民の皆様の「こころの健康に関する意識」を把握し、市民の皆様が心身ともに健康に暮らしていただけるように支援していくための基礎資料とするために調査を実施した。

2. 調査の方法

- (1) 調査地域 東大和市全域
- (2) 調査対象 東大和市在住の満18歳以上（令和7年10月1日現在）の市民
- (3) 標本数 3,000人
- (4) 抽出方法 住民基本台帳から無作為抽出
- (5) 調査方法 郵送配布、郵送回収及び電子申請によるインターネット回収
- (6) 調査期間 令和7年10月24日（金）～令和7年11月7日（金）

3. 回収結果

- (1) 標本数 3,000件
- (2) 有効回収数 1,032件（郵送回収623件、インターネット回収409件）
- (3) 有効回収率 34.4%

4. 調査の内容

- (1) 回答者の属性
- (2) 悩みやストレスについて
- (3) 人に相談することについて
- (4) 相談を受けることについて
- (5) 自殺に関する考えについて
- (6) 自殺対策・予防等について
- (7) 自死遺族への支援について
- (8) 自分自身が自殺を考えたことについて

5. 報告書の見方

- (1) 比率はすべて百分比で表し、小数点以下第2位を四捨五入して算出した。このために、百分比の合計が100.0%にならないことがある。
- (2) 基数となるべき実数は（n）として掲載した。その比率は件数を100.0%として算出した。
- (3) 1人の回答者が複数回答で行う設問では、その比率の合計が100.0%を上回ることがある。
- (4) クロス集計では、分析軸の「無回答」を掲載していないため、分析軸における各項目の（n）の合計値と全体の数値が合わない場合がある。
- (5) クロス集計時に、（n）が20未満のものは、基数が少なく誤差が大きくなるため、この報告書のなかでは特に取りあげていない。

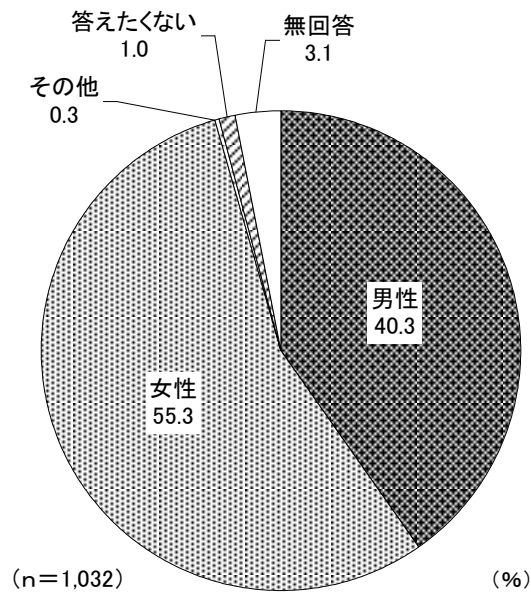
Ⅱ 調査結果

1. 回答者の属性

(1) 性別

問1 あなたの性別を教えてください。(○は1つ)

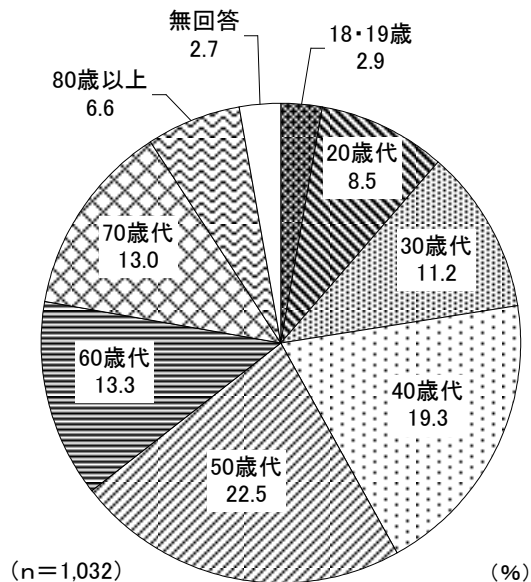
性別は、「男性」が40.3%、「女性」が55.3%、「その他」が0.3%、「答えたくない」が1.0%となっている。



(2) 年齢

問2 あなたの年齢（令和7年10月1日現在）を教えてください。(○は1つ)

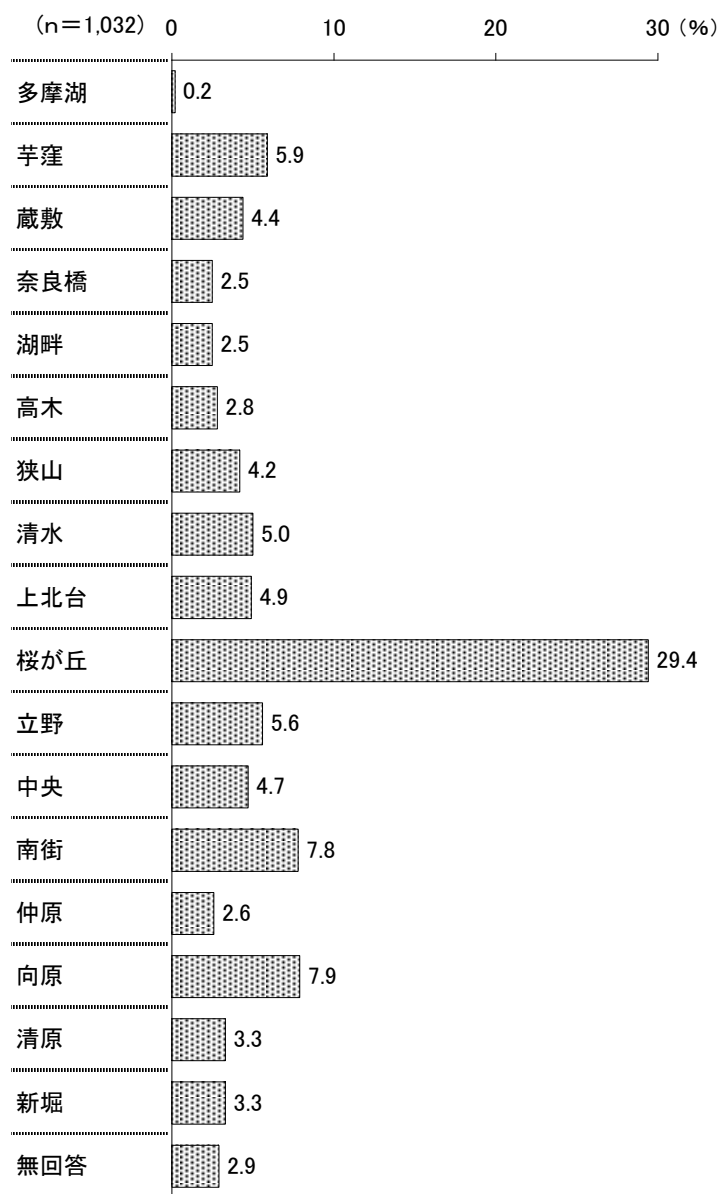
年齢は、「50歳代」が22.5%で最も高く、次いで「40歳代」(19.3%)、「60歳代」(13.3%)、「70歳代」(13.0%)、「30歳代」(11.2%)となっている。



(3) 居住地区

問3 あなたがお住まいの地区を教えてください。(〇は1つ)

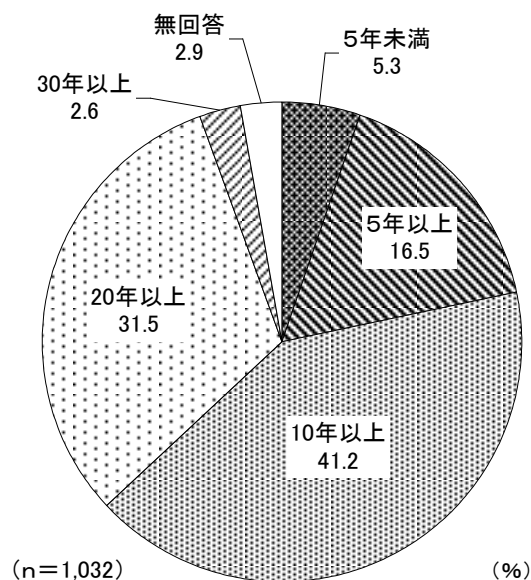
居住地区は、「桜が丘」が29.4%で最も高く、次いで「向原」(7.9%)、「南街」(7.8%)、「芋窪」(5.9%)、「立野」(5.6%)となっている。



(4) 居住年数

問4 東大和市での居住年数はどのくらいですか。(○は1つ)

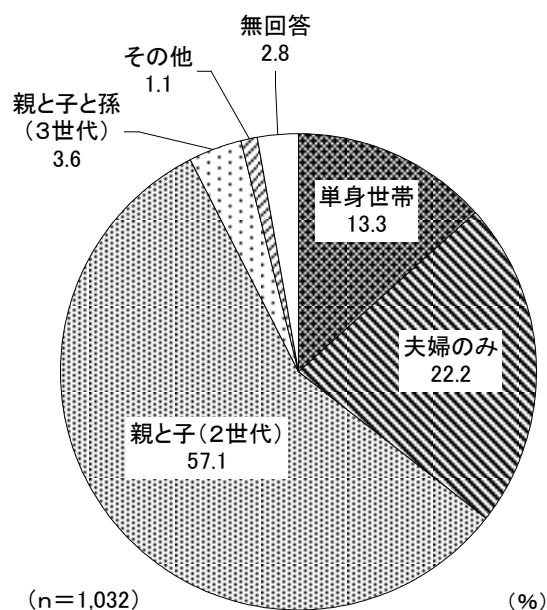
居住年数は、「10年以上」が41.2%で最も高く、次いで「20年以上」(31.5%)、「5年以上」(16.5%)、「5年未満」(5.3%)、「30年以上」(2.6%) となっている。



(5) 世帯構成

問5 あなたの家の世帯構成を教えてください。(○は1つ)

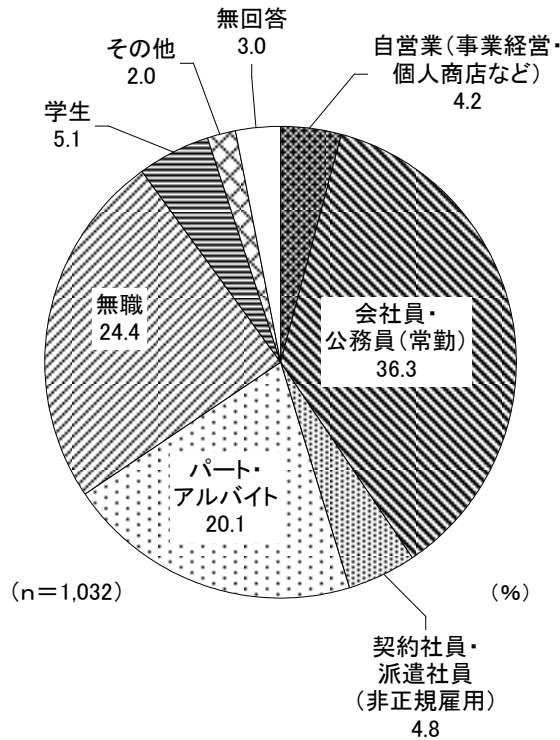
世帯構成は、「親と子(2世代)」が57.1%で最も高く、次いで「夫婦のみ」(22.2%)、「単身世帯」(13.3%)、「親と子と孫(3世代)」(3.6%) となっている。



(6) 職業

問6 あなたの主たる職業を教えてください。(〇は1つ)

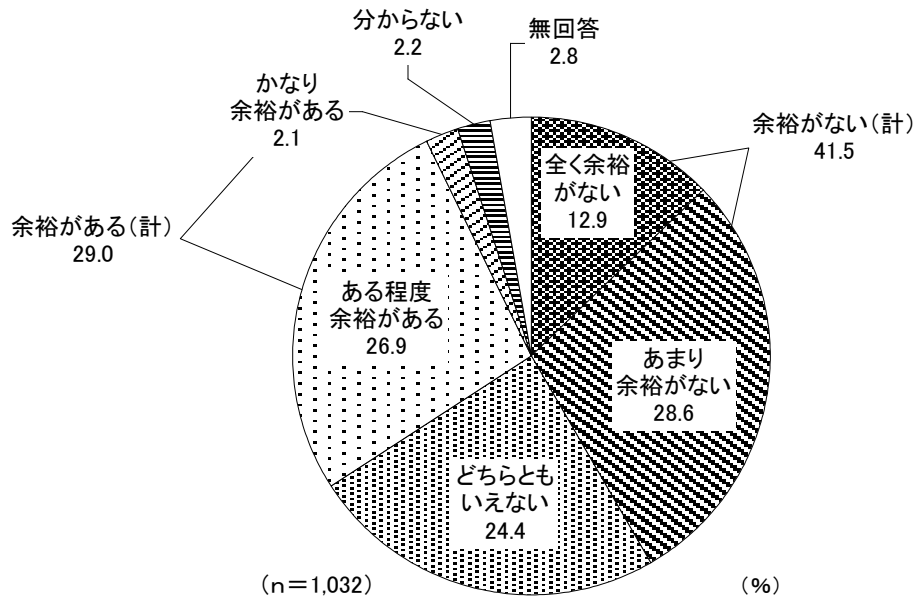
職業は、「会社員・公務員(常勤)」が36.3%で最も高く、次いで「無職」(24.4%)、「パート・アルバイト」(20.1%)、「学生」(5.1%)となっている。



(7) 家計の状況

問7 ご家庭の家計の余裕はどの程度ありますか。(〇は1つ)

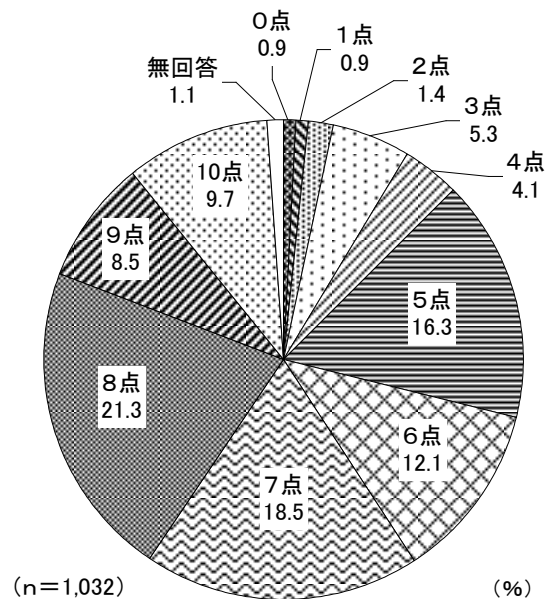
家計の状況は、「全く余裕がない」(12.9%)と「あまり余裕がない」(28.6%)を合わせた『余裕がない(計)』は41.5%となっている。一方、「ある程度余裕がある」(26.9%)と「かなり余裕がある」(2.1%)を合わせた『余裕がある(計)』は29.0%となっている。また、「どちらともいえない」は24.4%となっている。



(8) 幸福度

問8 現在、あなたはどの程度幸せですか。「とても不幸せ(0点)」から「とても幸せ(10点)」の間で表すと、何点だと思いますか。数字に○を付けてください。(○は1つ)

幸福度は、「8点」が21.3%で最も高く、次いで「7点」(18.5%)、「5点」(16.3%)、「6点」(12.1%)、「10点」(9.7%)となっている。なお、平均点は「6.7点」となっている。

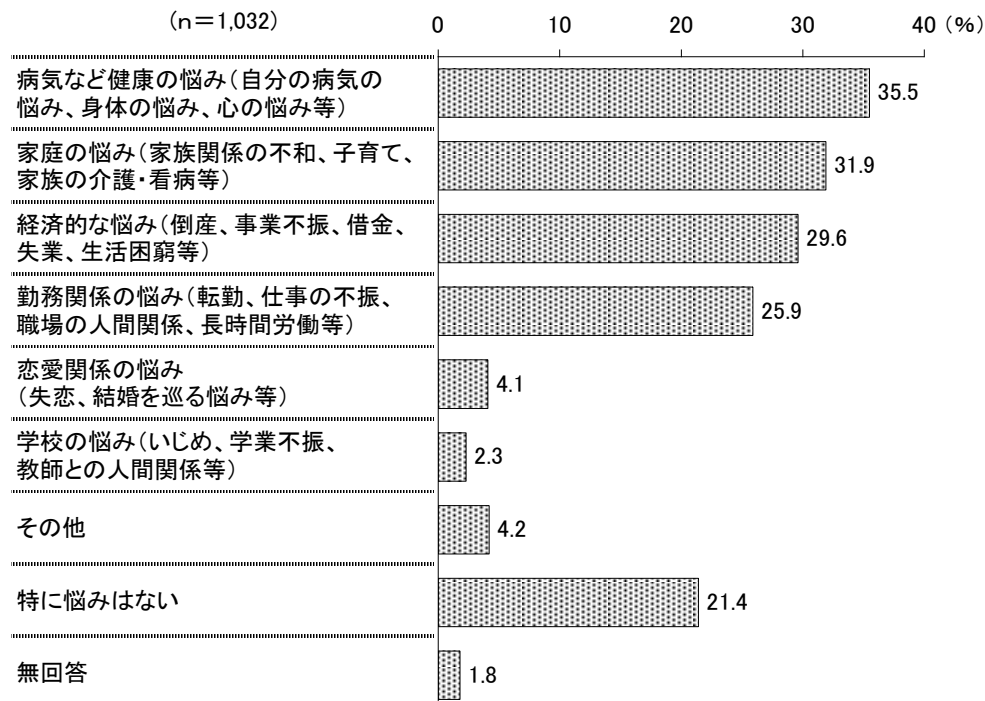


2. 悩みやストレスについて

(1) 悩みやストレス、不満を感じていること

問9 現在、あなたは悩みやストレス、不満を感じていることはありますか。
原因として当てはまるものがあれば教えてください。(〇はいくつでも)

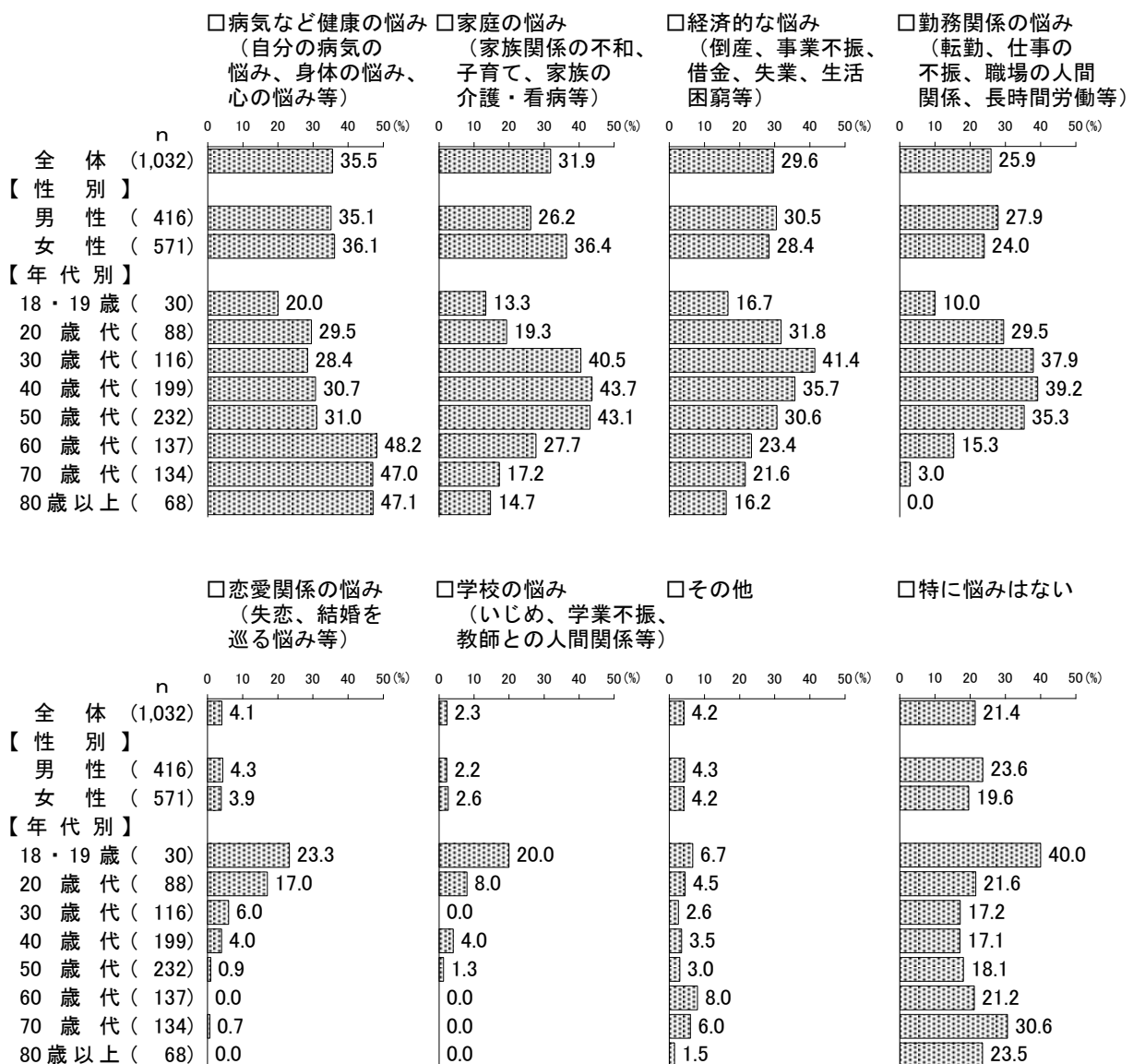
悩みやストレス、不満を感じていることは、「病気など健康の悩み(自分の病気の悩み、身体の悩み、心の悩み等)」が35.5%で最も高く、次いで「家庭の悩み(家族関係の不和、子育て、家族の介護・看病等)」(31.9%)、「経済的な悩み(倒産、事業不振、借金、失業、生活困窮等)」(29.6%)、「勤務関係の悩み(転勤、仕事の不振、職場の人間関係、長時間労働等)」(25.9%)となっている。一方、「特に悩みはない」は21.4%となっている。



【悩みやストレス、不満を感じていること（性別、年代別）】

性別でみると、「家庭の悩み（家族関係の不和、子育て、家族の介護・看病等）」は女性（36.4%）が男性（26.2%）より10.2ポイント高くなっている。一方、「勤務関係の悩み（転勤、仕事の不振、職場の人間関係、長時間労働等）」は男性（27.9%）が女性（24.0%）より3.9ポイント高くなっている。

年代別でみると、「病気など健康の悩み（自分の病気の悩み、身体の悩み、心の悩み等）」は60歳代以上の年代で4割台と高くなっている。「家庭の悩み（家族関係の不和、子育て、家族の介護・看病等）」は30歳代から50歳代の年代で4割台と高くなっている。「経済的な悩み（倒産、事業不振、借金、失業、生活困窮等）」は30歳代で41.4%と高くなっている。

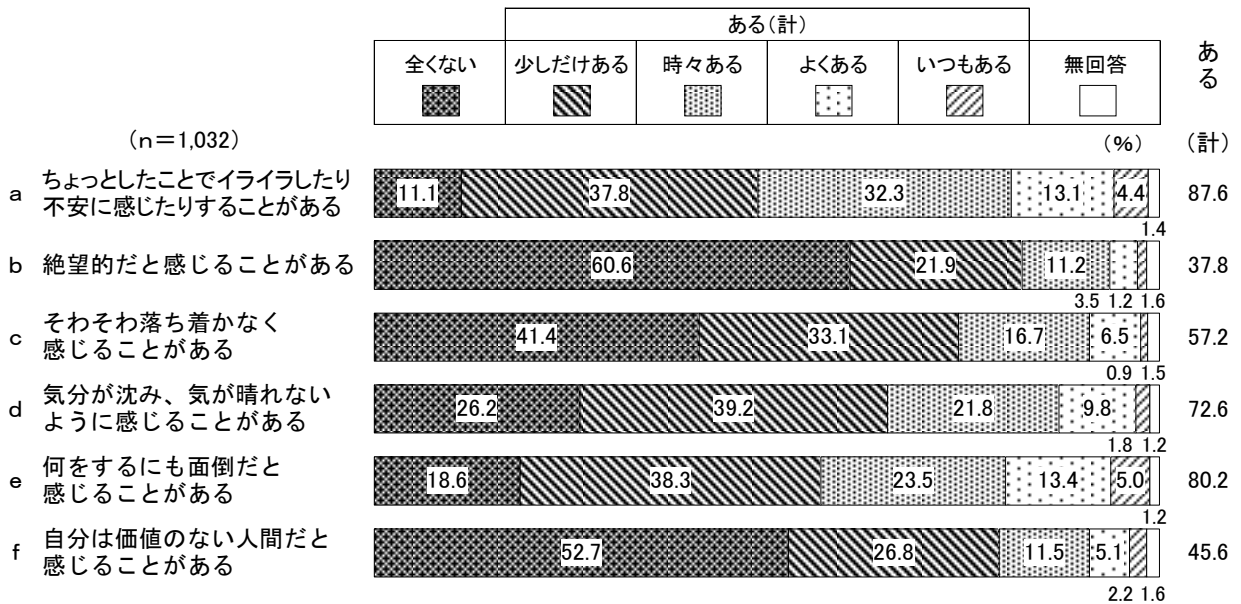


(2) 日々の生活の中で感じることとその頻度

問10 あなたは日々の生活の中で、次のように感じることはありませんか。
 (それぞれに○は1つ)

日々の生活の中で感じることとその頻度は、「少しだけある」、「時々ある」、「よくある」、「いつもある」の4つを合わせた『ある(計)』は、“ちょっとしたことでイライラしたり不安に感じたりすることがある”で87.6%と最も高く、次いで“何をやるにも面倒だと感じる” (80.2%)、
 “気分が沈み、気が晴れないように感じる” (72.6%) となっている。

一方、「全くない」は、“絶望的だと感じる”で60.6%と最も高く、次いで“自分は価値のない人間だと感じる” (52.7%)、“そわそわ落ち着かなく感じる” (41.4%) となっている。



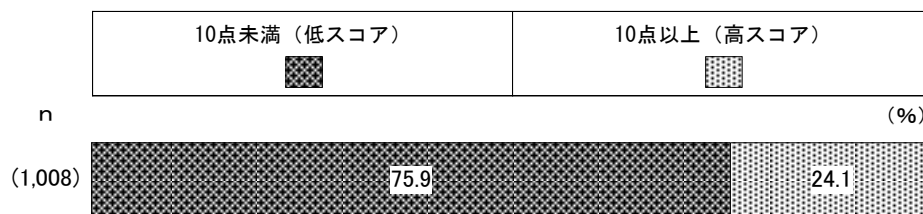
また、本設問では、国際的に広く用いられている精神的健康度の指標「K 6」を用いており、a～fの6項目の得点合計により、心理的ストレスを含む何らかの精神的な問題の程度を測定する。得点が高いほど精神的な問題が重い可能性を示す。

K 6の結果をみると、「10点未満（低スコア）」が75.9%、「10点以上（高スコア）」は24.1%となっている。

<点数の算出方法>

「全くない」0点、「少しだけある」1点、「時々ある」2点、「よくある」3点、「いつもある」4点

【K 6（心理的ストレスを含む何らかの精神的な問題の程度）】

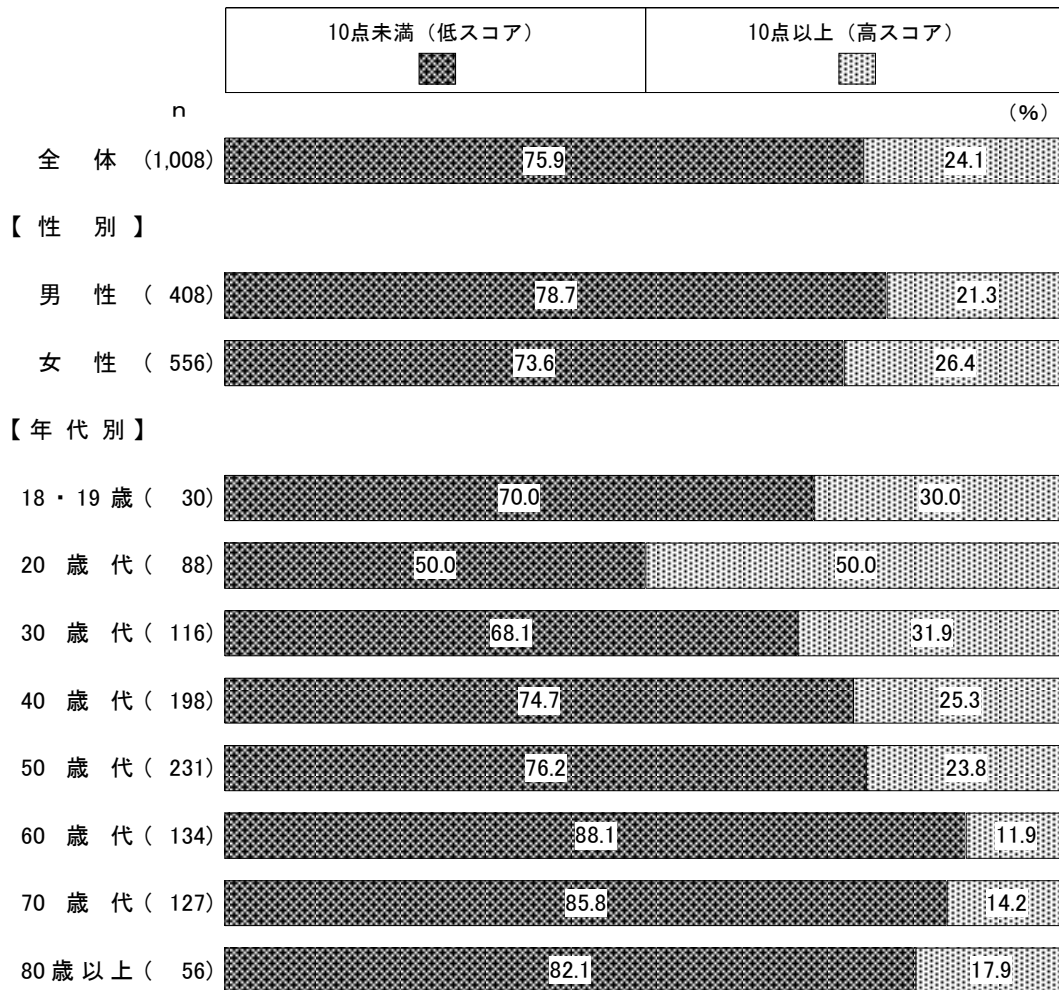


※ a～fのいずれかが無回答の回答は、母数から除外して集計

【K 6（心理的ストレスを含む何らかの精神的な問題の程度）（性別、年代別）】

性別でみると、「10点以上（高スコア）」は女性（26.4%）が男性（21.3%）より5.1ポイント高くなっている。

年代別でみると、「10点未満（低スコア）」は60歳代で88.1%、70歳代で85.8%と高くなっている。一方、「10点以上（高スコア）」は20歳代で50.0%と高くなっている。



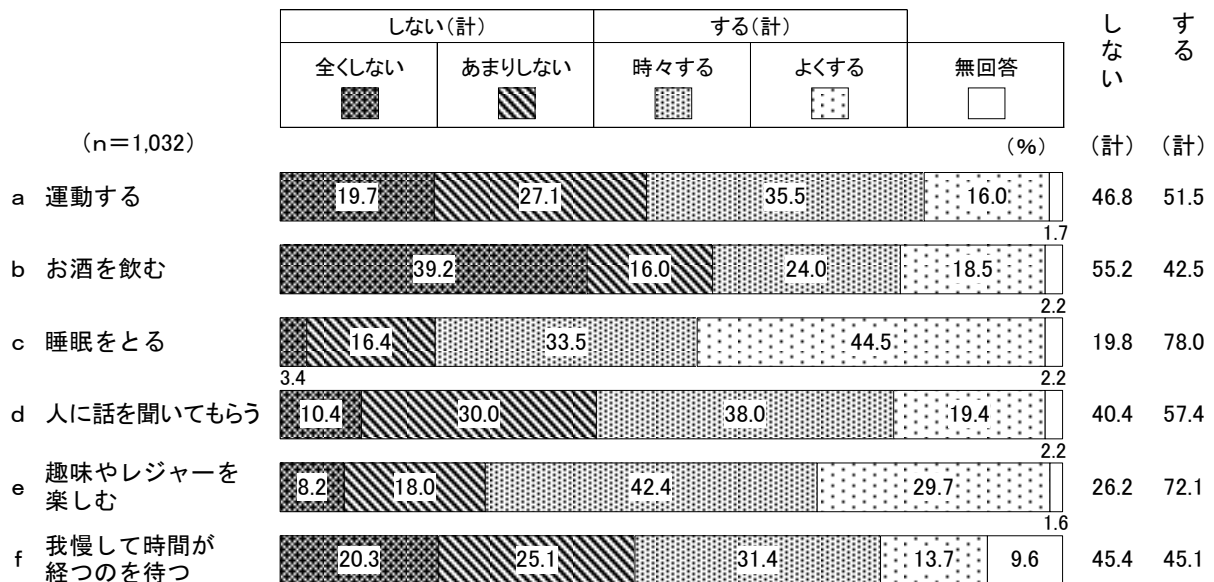
※ a～f のいずれかが無回答の回答は、母数から除外して集計

(3) 日常生活の悩みや苦勞、ストレス、不満解消の内容と程度

問11 あなたは日常生活の悩みや苦勞、ストレス、不満を解消するために、次のことをどのくらいしますか。(それぞれに○は1つ)

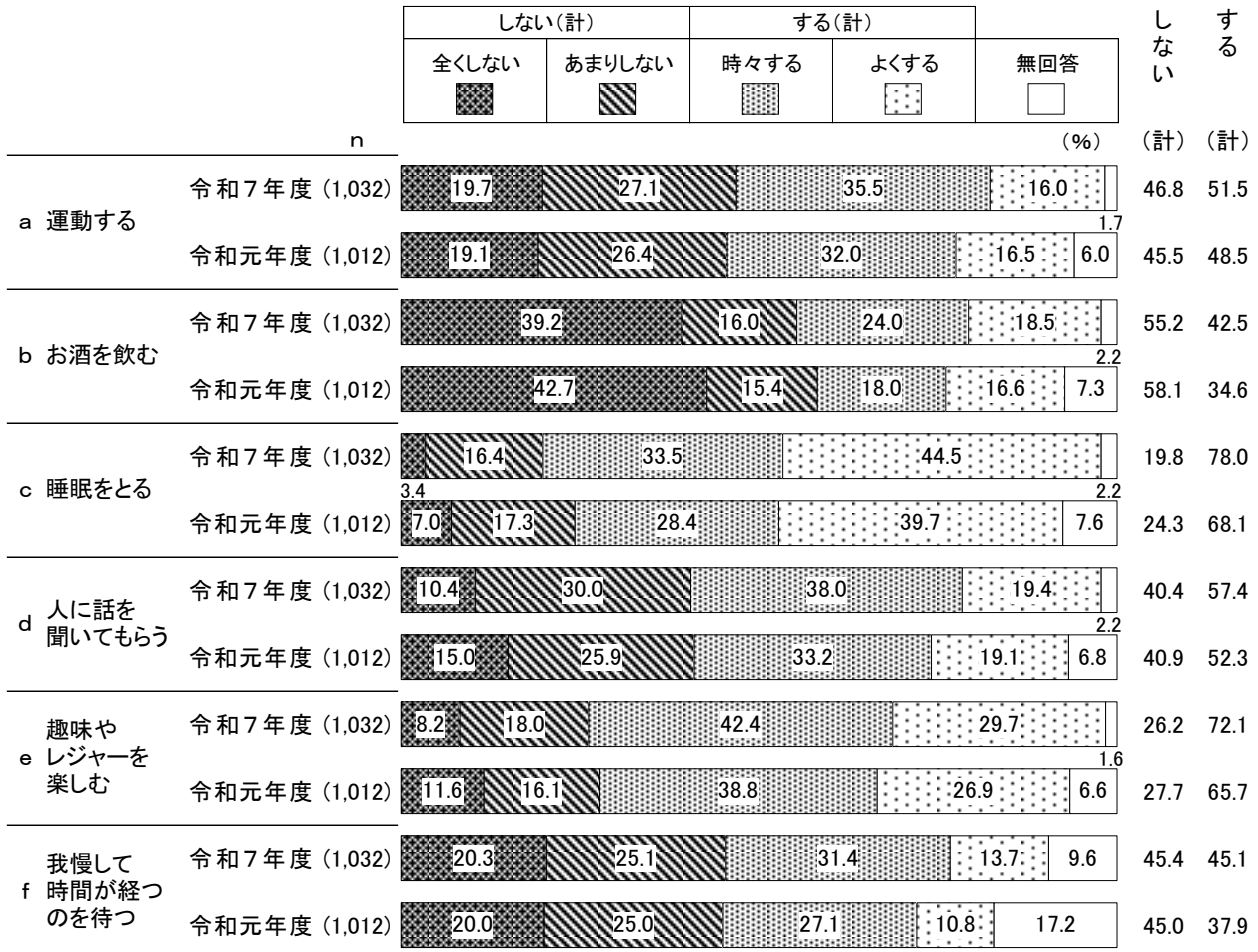
日常生活の悩みや苦勞、ストレス、不満解消の内容と程度は、「時々する」と「よくする」を合わせた『する(計)』は、“睡眠をとる”で78.0%と最も高く、次いで“趣味やレジャーを楽しむ”(72.1%)、“人に話を聞いてもらう”(57.4%)となっている。

一方、「全くしない」と「あまりしない」を合わせた『しない(計)』は、“お酒を飲む”で55.2%と最も高く、次いで“運動する”(46.8%)、“我慢して時間が経つのを待つ”(45.4%)となっている。



【経年比較】

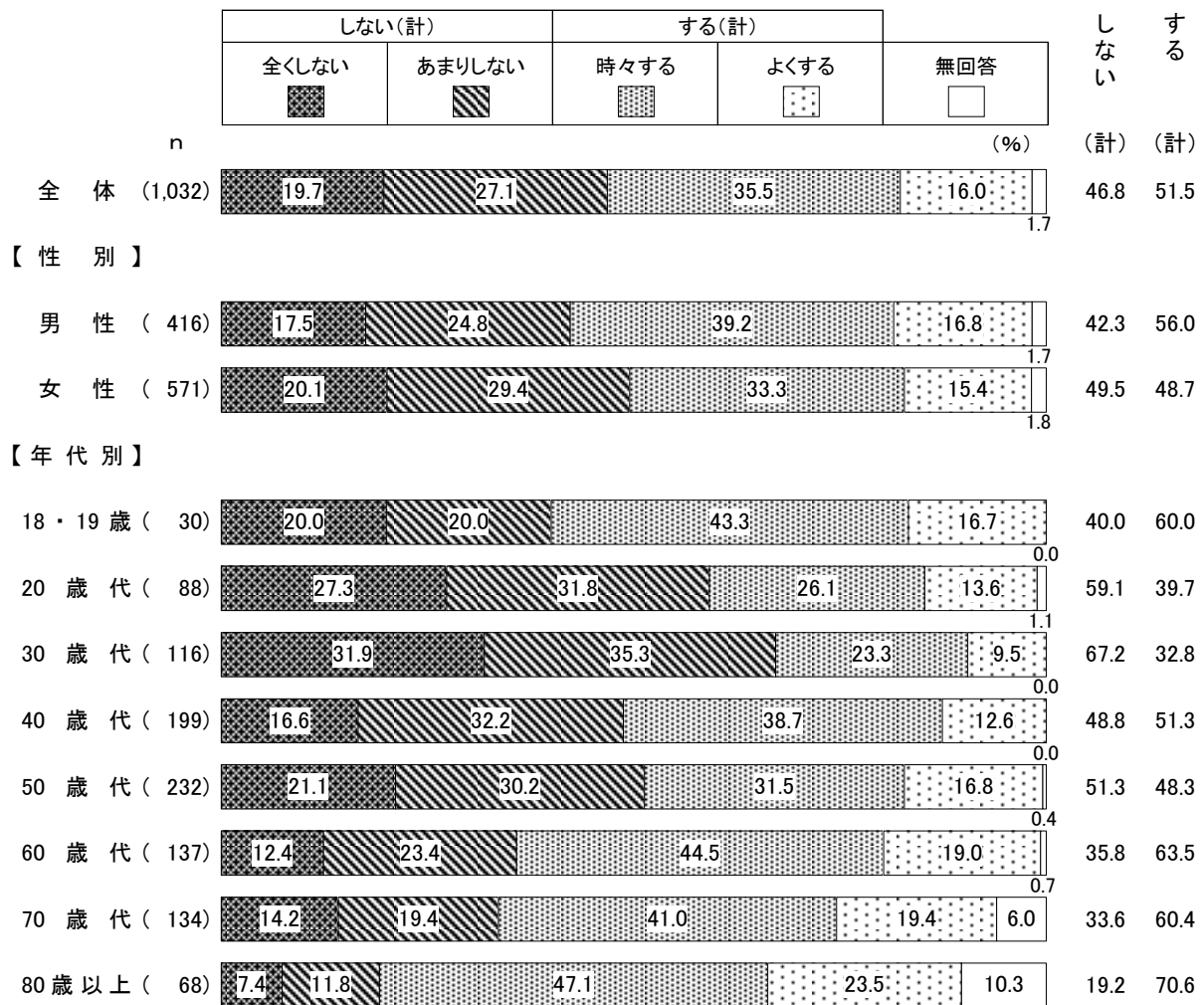
過去の調査と比較すると、『する（計）』は全ての項目が令和元年度調査より増加しており、特に“睡眠をとる”で9.9ポイント、“お酒を飲む”で7.9ポイント、“我慢して時間が経つのを待つ”で7.2ポイント、それぞれ増加している。一方、『しない（計）』は“睡眠をとる”で令和元年度調査より4.5ポイント減少している。



【日常生活の悩みや苦勞、ストレス、不満解消の内容と程度（性別、年代別）】

(a) 運動する

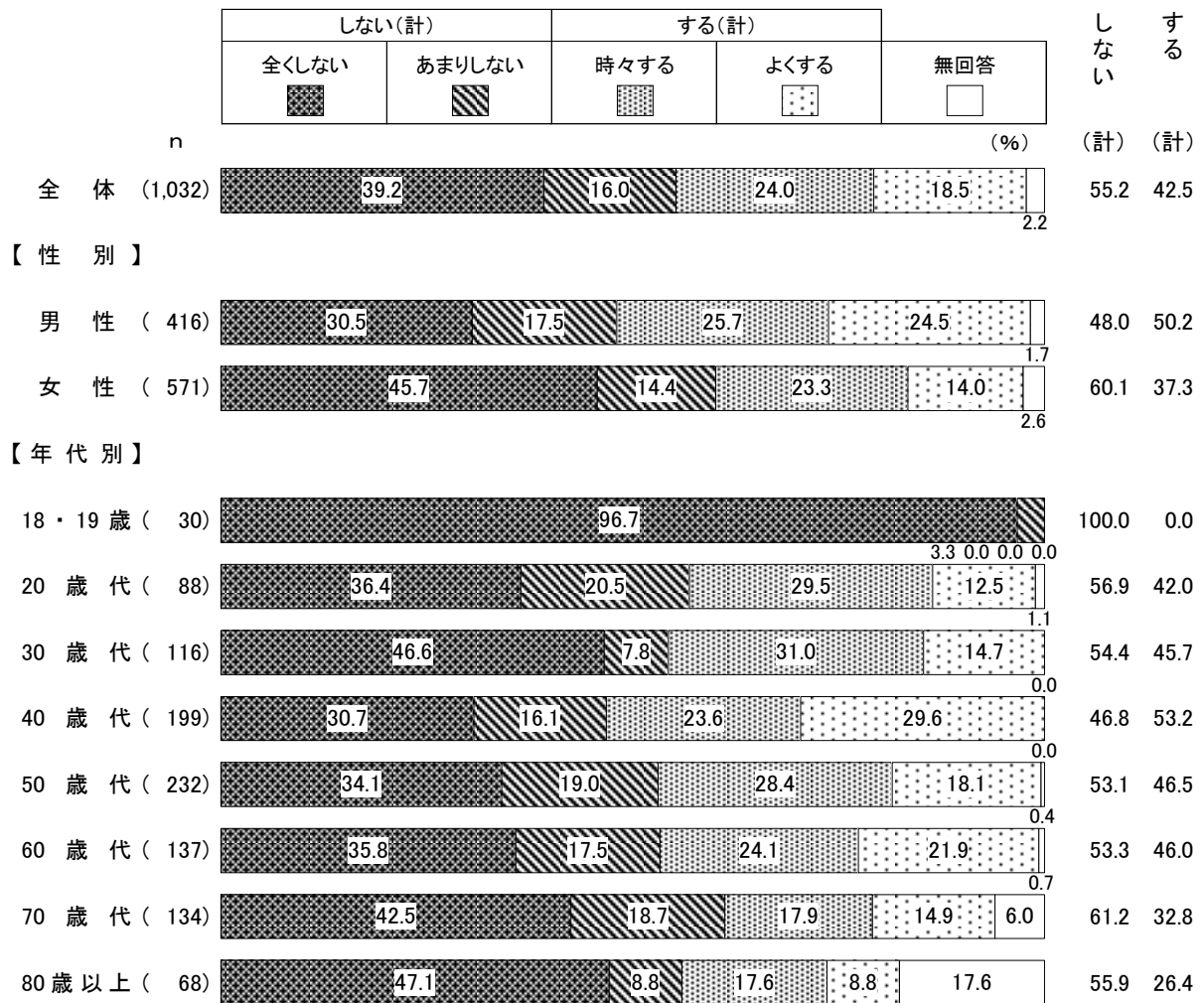
性別で見ると、『する（計）』は男性（56.0%）が女性（48.7%）より7.3ポイント高くなっている。
 年代別で見ると、『する（計）』は80歳以上で70.6%と高くなっている。一方、『しない（計）』は30歳代で67.2%と高くなっている。



(b) お酒を飲む

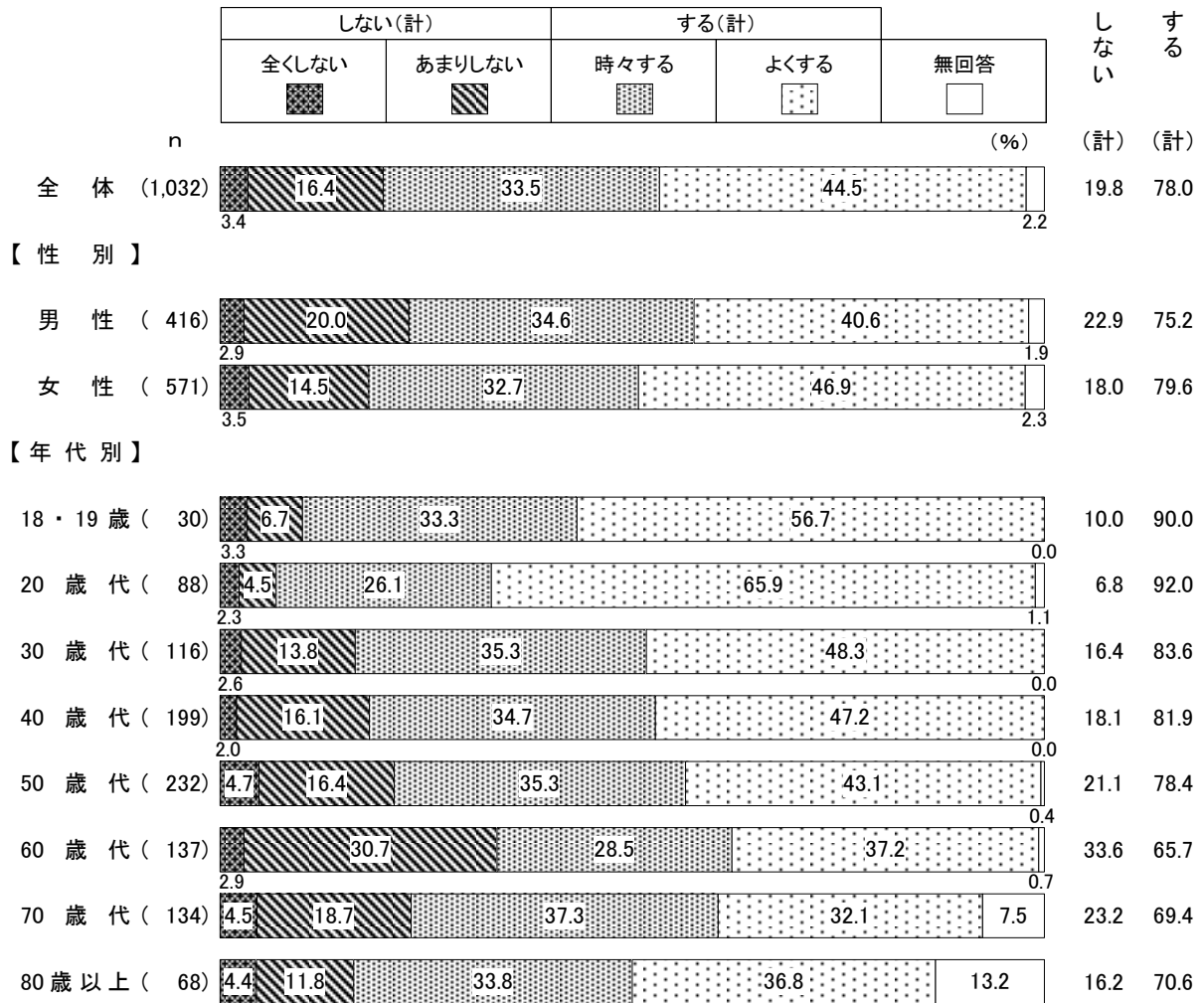
性別でみると、『する(計)』は男性(50.2%)が女性(37.3%)より12.9ポイント高くなっている。

年代別でみると、『する(計)』は40歳代で53.2%と高くなっている。一方、『しない(計)』は18・19歳で100.0%と高くなっている。



(c) 睡眠をとる

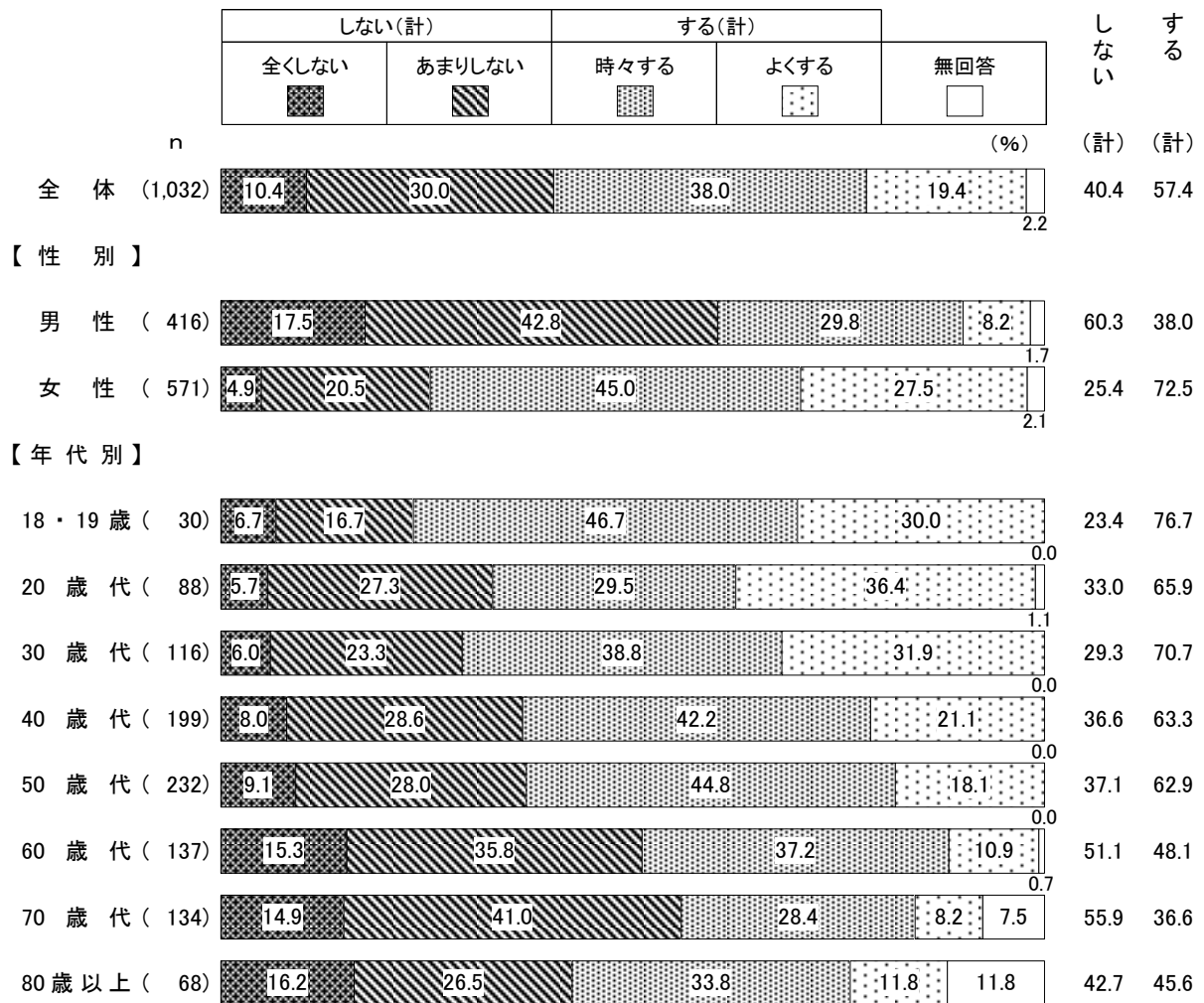
性別でみると、『する(計)』は女性(79.6%)が男性(75.2%)より4.4ポイント高くなっている。
 年代別でみると、『する(計)』は20歳代で92.0%、18・19歳で90.0%と高くなっている。一方、『しない(計)』は60歳代で33.6%と高くなっている。



(d) 人に話を聞いてもらう

性別でみると、『する(計)』は女性(72.5%)が男性(38.0%)より34.5ポイント高くなっている。

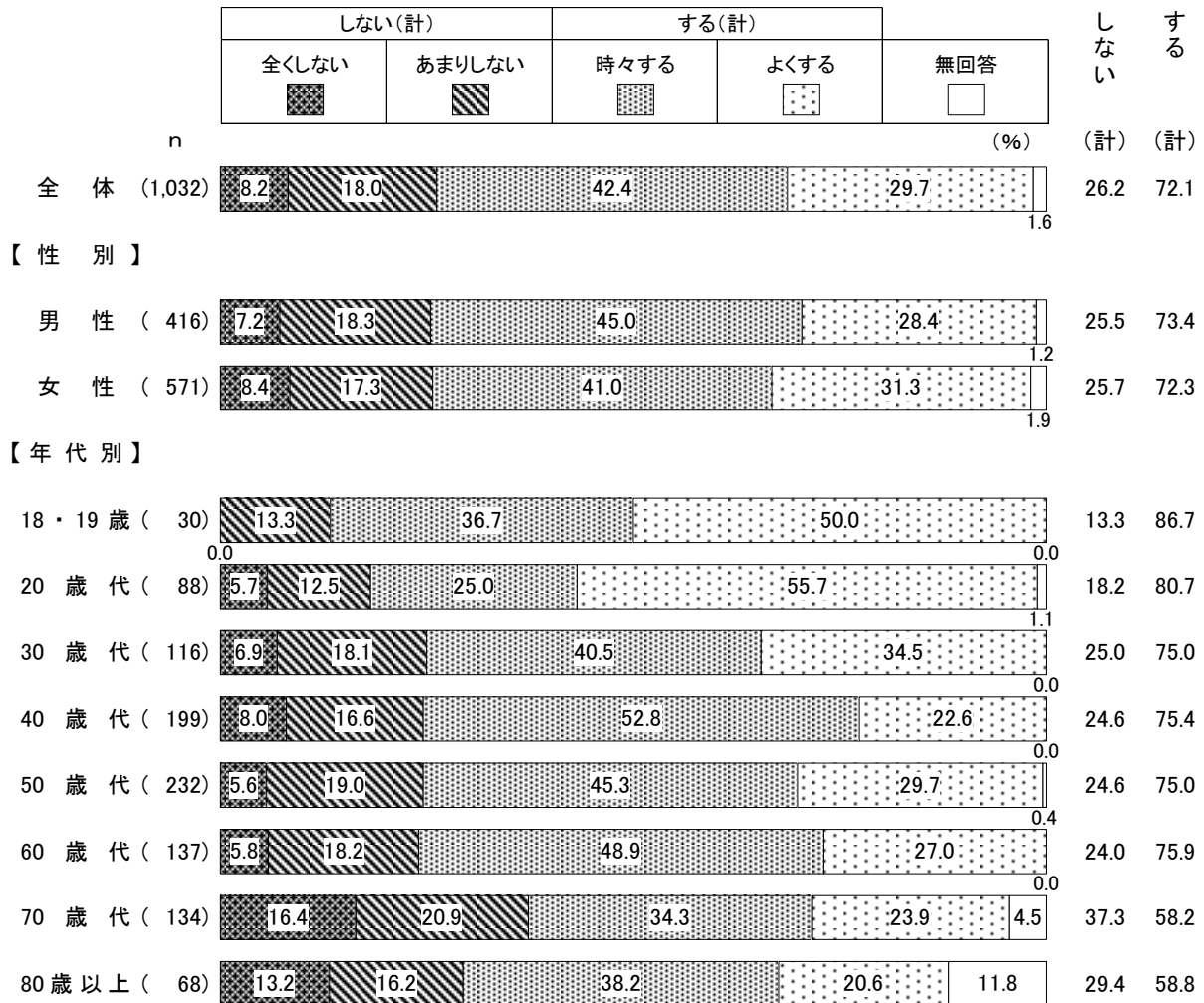
年代別でみると、『する(計)』は18・19歳で76.7%、30歳代で70.7%と高くなっている。一方、『しない(計)』は70歳代で55.9%、60歳代で51.1%と高くなっている。



(e) 趣味やレジャーを楽しむ

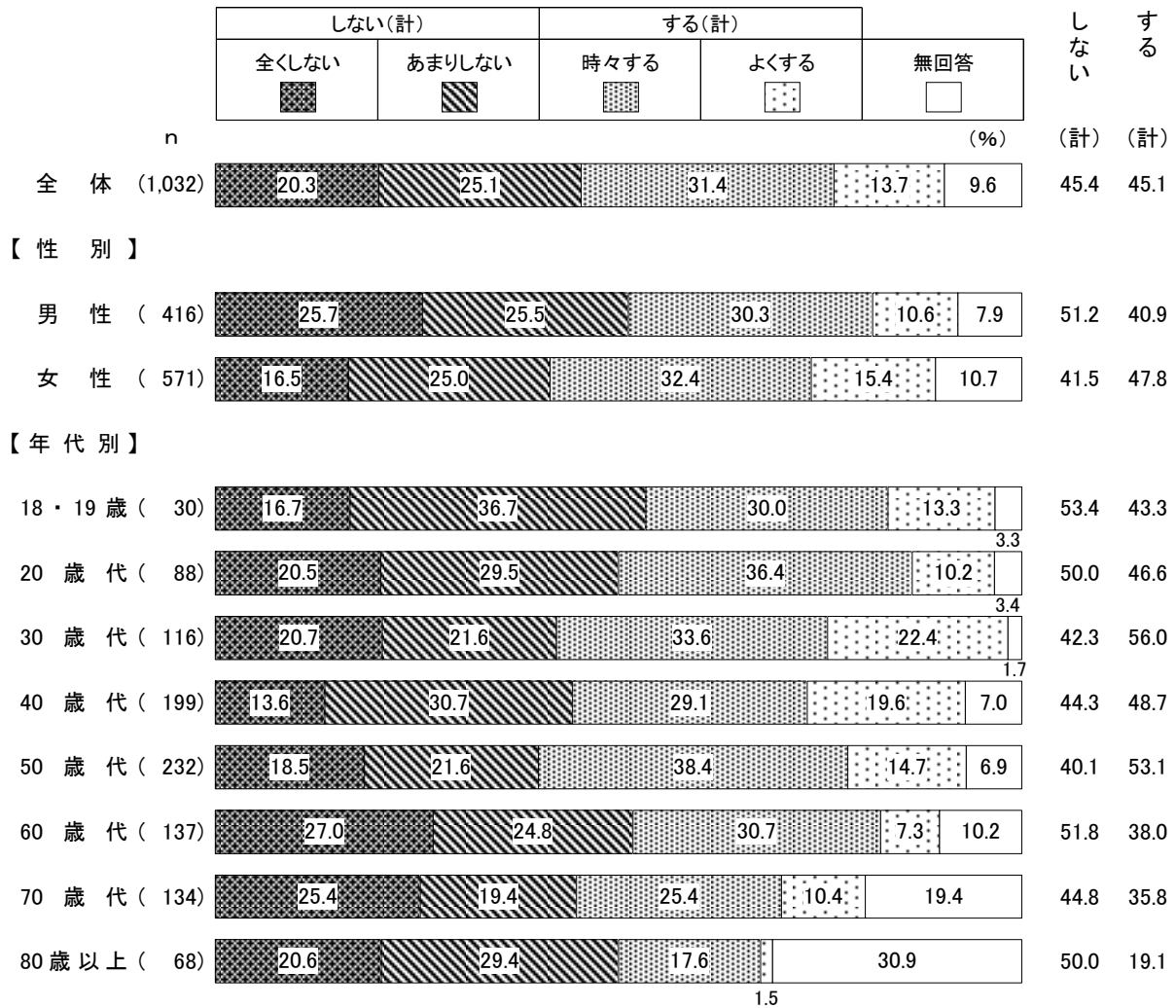
性別でみると、『する（計）』は男女間で大きな違いはみられない。

年代別でみると、『する（計）』は18・19歳で86.7%、20歳代で80.7%と高くなっている。一方、『しない（計）』は70歳代で37.3%と高くなっている。



(f) 我慢して時間が経つのを待つ

性別でみると、『する(計)』は女性(47.8%)が男性(40.9%)より6.9ポイント高くなっている。
 年代別でみると、『する(計)』は30歳代で56.0%、50歳代で53.1%と高くなっている。一方、『しない(計)』は18・19歳で53.4%と高くなっている。

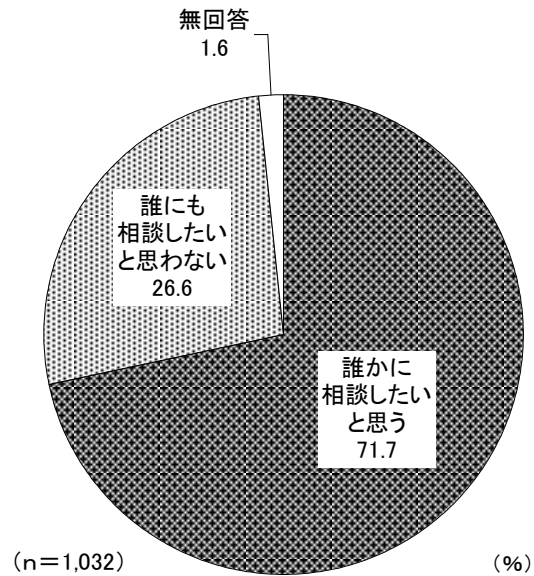


3. 人に相談することについて

(1) 悩みやストレスを感じた時の考え方

問12 あなたは悩みがある時やストレスを感じた時に、どう考えますか。(○は1つ)

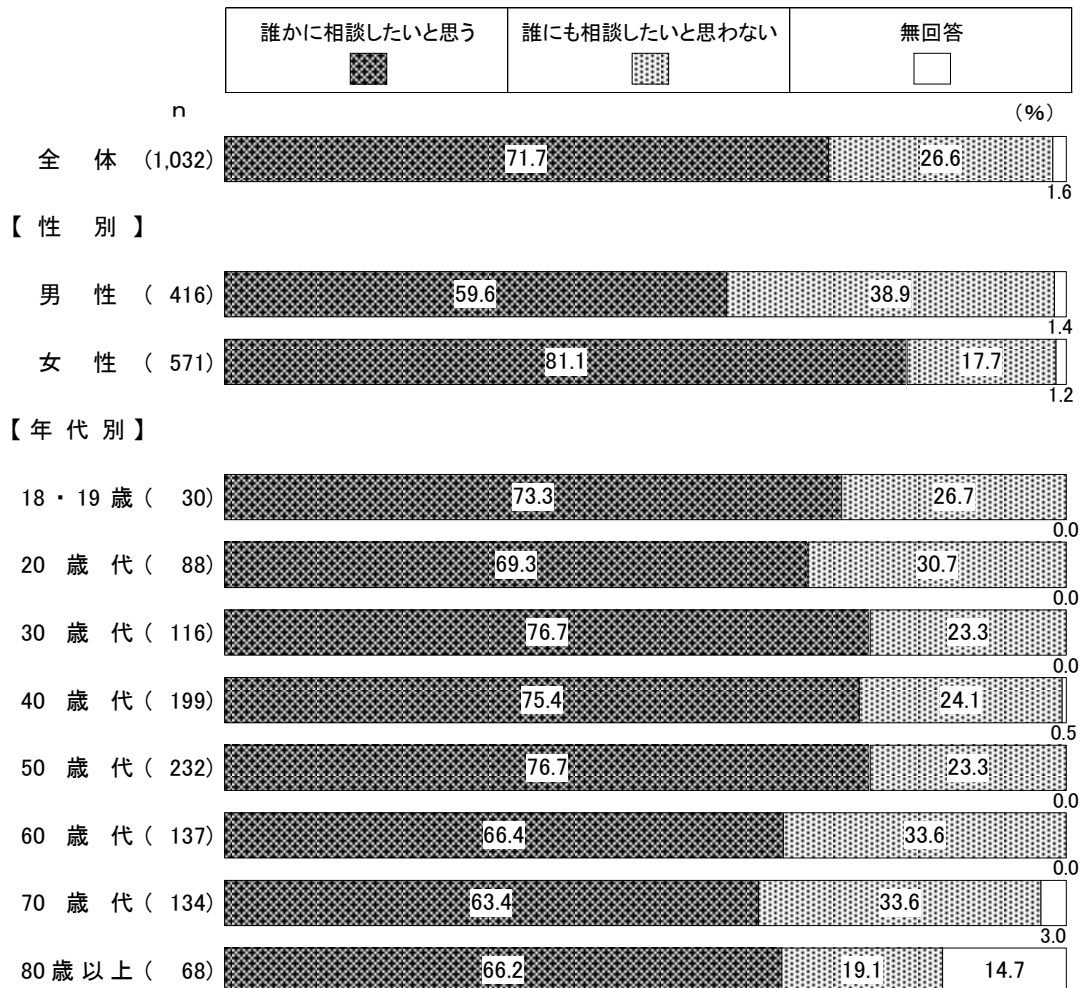
悩みやストレスを感じた時の考え方は、「誰かに相談したいと思う」が71.7%、「誰にも相談したいと思わない」は26.6%となっている。



【悩みやストレスを感じた時の考え方（性別、年代別）】

性別で見ると、「誰かに相談したいと思う」は女性（81.1%）が男性（59.6%）より21.5ポイント高くなっている。

年代別で見ると、「誰かに相談したいと思う」は30歳代と50歳代でともに76.7%と高くなっている。一方、「誰にも相談したいと思わない」は60歳代と70歳代でともに33.6%と高くなっている。



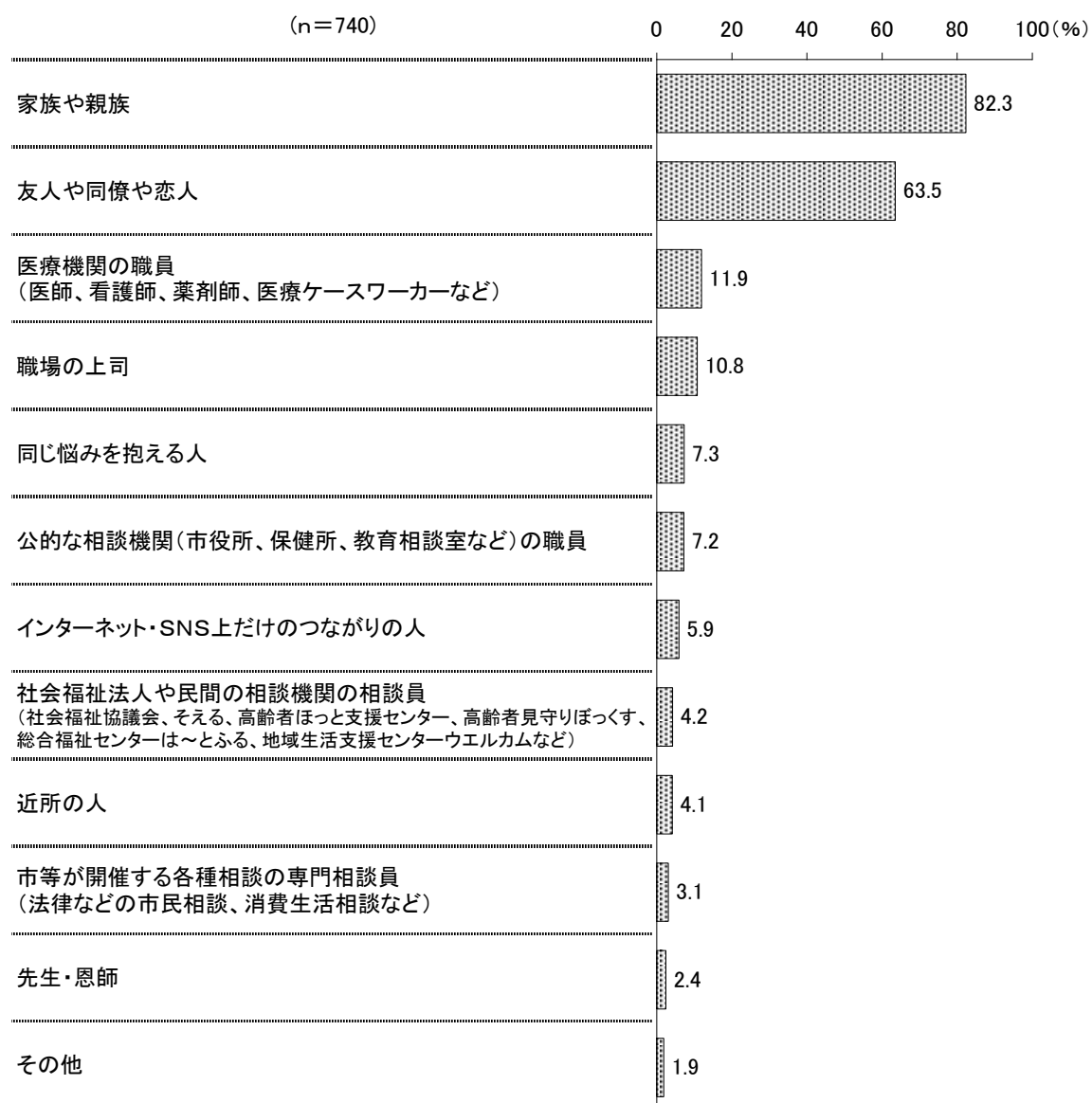
(2) 相談したい人、または実際に相談したことがある人

(問12で「誰かに相談したいと思う」に○をつけた方に質問です)

問12-1 あなたが相談したい人、または実際に相談したことがある人はどなたですか。

(○はいくつでも)

相談したい人、または実際に相談したことがある人は、「家族や親族」が82.3%で最も高く、次いで「友人や同僚や恋人」(63.5%)、「医療機関の職員(医師、看護師、薬剤師、医療ケースワーカーなど)」(11.9%)、「職場の上司」(10.8%)、「同じ悩みを抱える人」(7.3%)となっている。

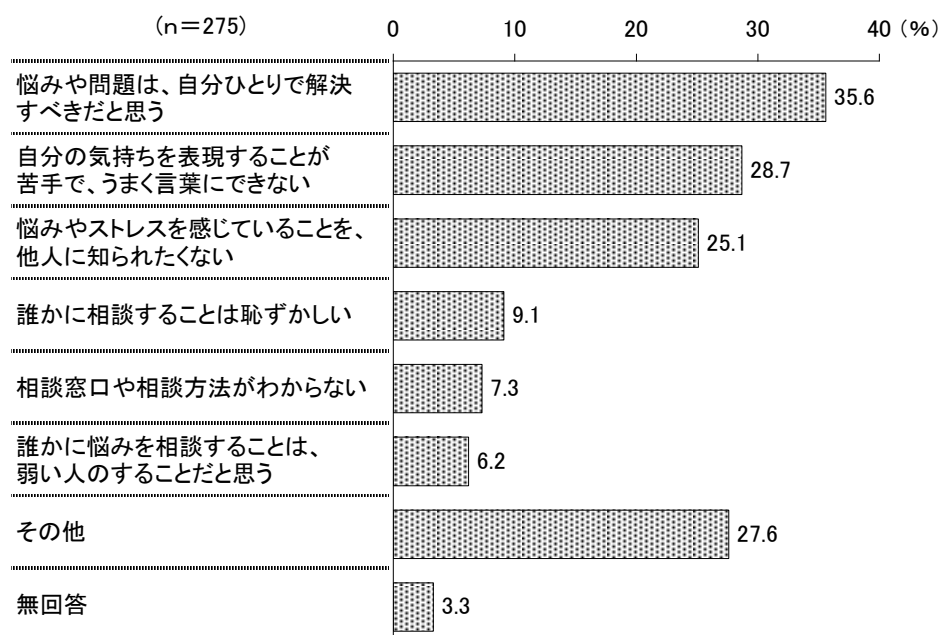


(3) 相談したいと思わない理由

(問12で「誰にも相談したいと思わない」に○をつけた方に質問です)

問12-2 相談したいと思わない理由はなんですか。(○はいくつでも)

相談したいと思わない理由は、「悩みや問題は、自分ひとりで解決すべきだと思う」が35.6%で最も高く、次いで「自分の気持ちを表現することが苦手で、うまく言葉にできない」(28.7%)、「悩みやストレスを感じていることを、他人に知られたくない」(25.1%)、「誰かに相談することは恥ずかしい」(9.1%)となっている。



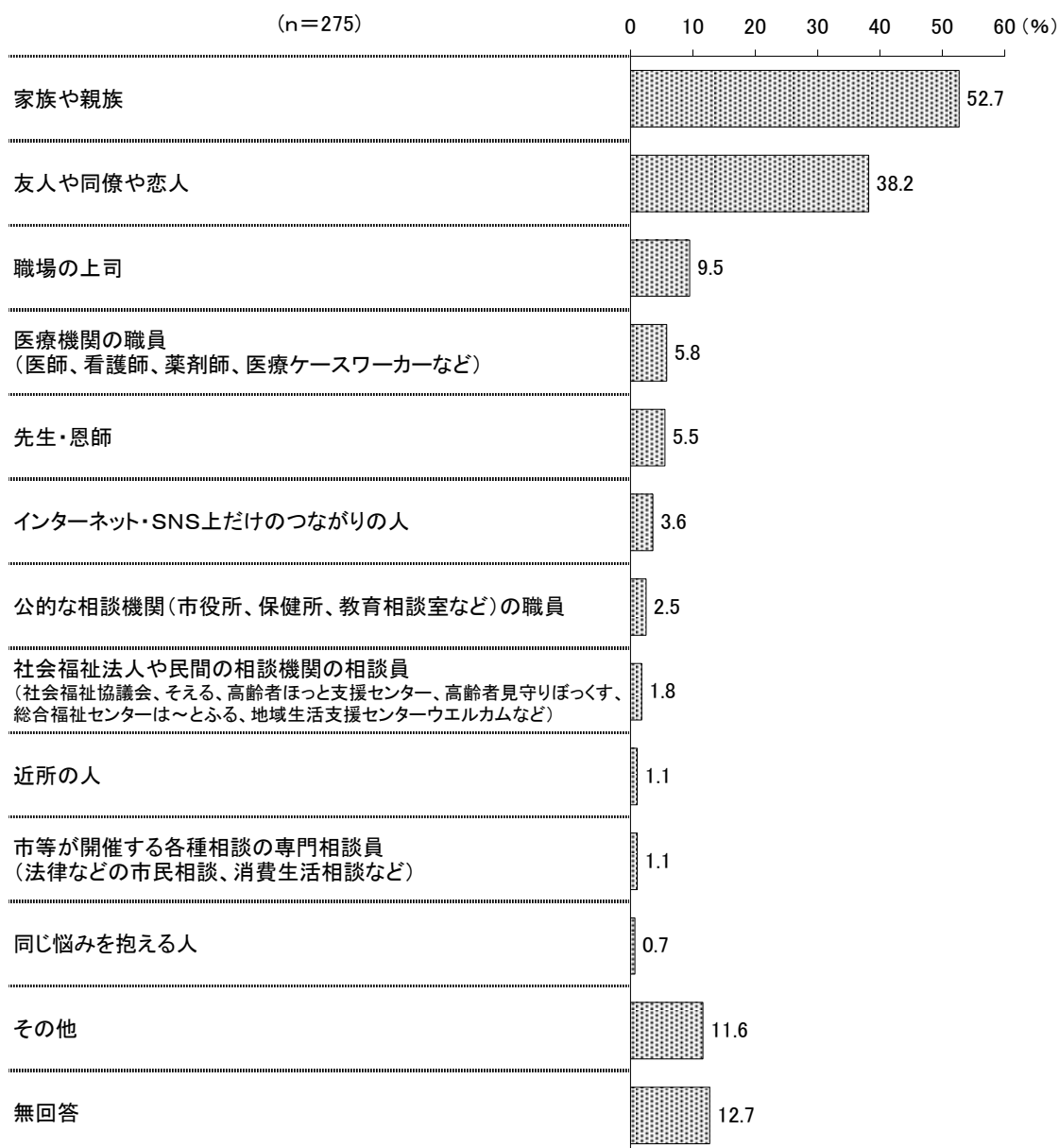
「その他」の内容 (抜粋)

- ・自分で解決できるから
- ・相談しても解決しないから
- ・相談するほどの悩みではないから
- ・時間がないから

(4) 過去に相談したことがある人

(問12で「誰にも相談したいと思わない」に○をつけた方に質問です)
 問12-3 あなたが過去に相談したことがある人はいますか。(○はいくつでも)

過去に相談したことがある人は、「家族や親族」が52.7%で最も高く、次いで「友人や同僚や恋人」(38.2%)、「職場の上司」(9.5%)、「医療機関の職員(医師、看護師、薬剤師、医療ケースワーカーなど)」(5.8%)となっている。



「その他」の内容(抜粋)

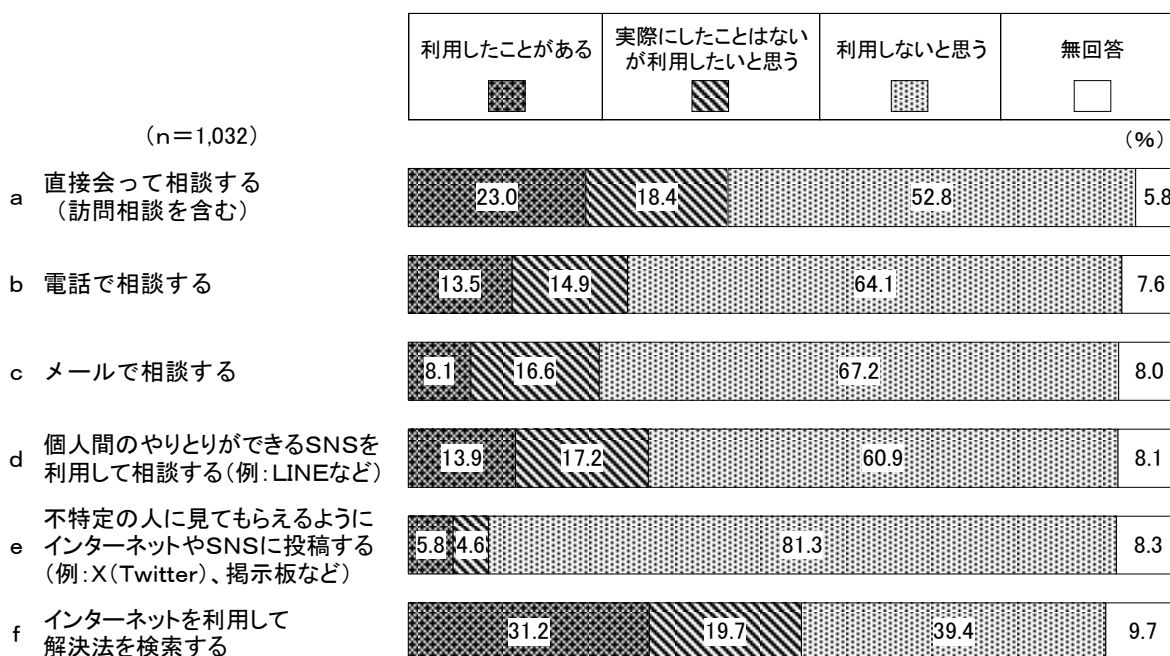
- ・ ChatGPT
- ・ カウンセラー
- ・ 相談したことがない

(5) 悩みやストレスを感じた時の対処方法

問13 あなたは悩みやストレスを感じた時に、以下 a～f の方法を利用したことがありますか。または、利用したいと思いますか。(それぞれに○は1つ)

悩みやストレスを感じた時の対処方法について、「利用したことがある」は“インターネットを利用して解決法を検索する”で31.2%と最も高く、次いで“直接会って相談する(訪問相談を含む)”(23.0%)、“個人間のやりとりができるSNSを利用して相談する(例:LINEなど)”(13.9%)となっている。

一方、「利用しないと思う」は“不特定の人に見てもらえるようにインターネットやSNSに投稿する(例:X(Twitter)、掲示板など)”で81.3%と最も高く、次いで“メールで相談する”(67.2%)、“電話で相談する”(64.1%)となっている。

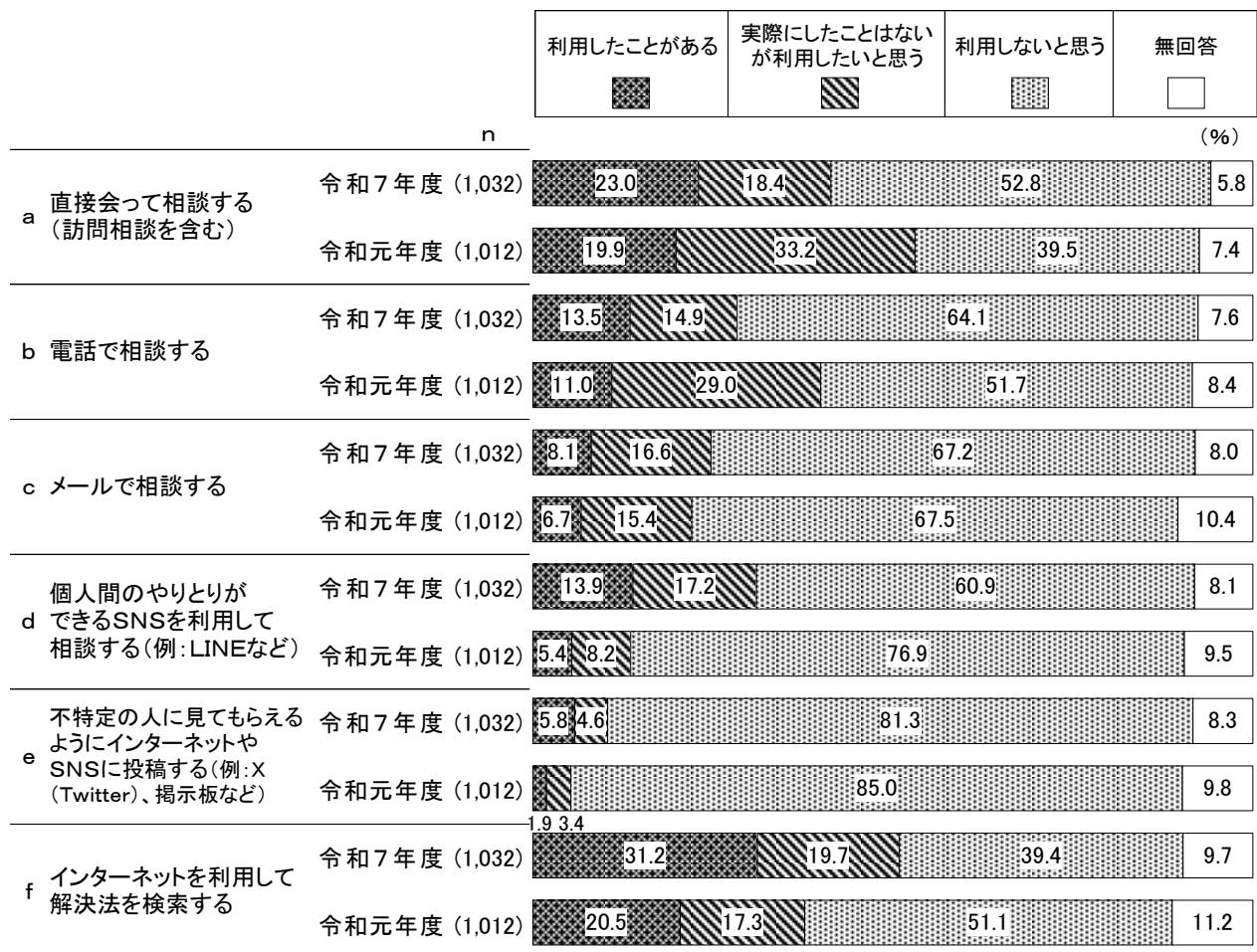


【経年比較】

過去の調査と比較すると、「利用したことがある」は“インターネットを利用して解決法を検索する”で10.7ポイント、“個人間のやりとりができるSNSを利用して相談する（例：LINEなど）”で8.5ポイント、それぞれ令和元年度調査より増加している。

「実際にしたことはないが利用したいと思う」は“個人間のやりとりができるSNSを利用して相談する（例：LINEなど）”で令和元年度調査より9.0ポイント増加している。一方、“直接会って相談する（訪問相談を含む）”で14.8ポイント、“電話で相談する”で14.1ポイント、それぞれ令和元年度調査より減少している。

「利用しないと思う」は“直接会って相談する（訪問相談を含む）”で13.3ポイント、“電話で相談する”で12.4ポイント、それぞれ令和元年度調査より増加している。一方、“個人間のやりとりができるSNSを利用して相談する（例：LINEなど）”で16.0ポイント、“インターネットを利用して解決法を検索する”で11.7ポイント、それぞれ令和元年度調査より減少している。



【悩みやストレスを感じた時の対処方法（性別、年代別）】

(a) 直接会って相談する（訪問相談を含む）

性別で見ると、「利用しないと思う」は男性（59.4%）が女性（49.0%）より10.4ポイント高くなっている。一方、「利用したことがある」は女性（27.5%）が男性（17.5%）より10.0ポイント高くなっている。

年代別で見ると、「利用したことがある」は30歳代で35.3%と高くなっている。一方、「利用しないと思う」は60歳代で62.8%と高くなっている。

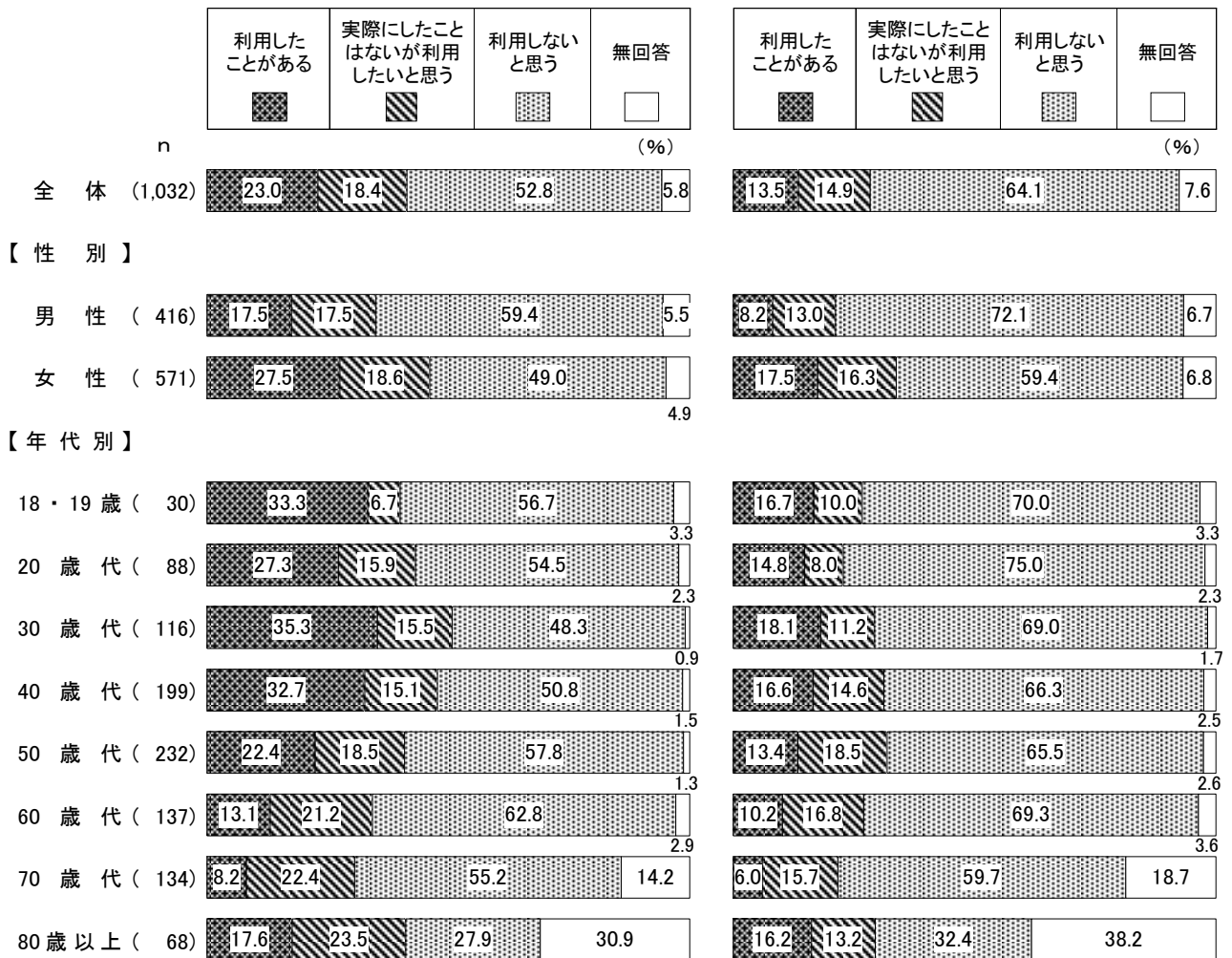
(b) 電話で相談する

性別で見ると、「利用しないと思う」は男性（72.1%）が女性（59.4%）より12.7ポイント高くなっている。一方、「利用したことがある」は女性（17.5%）が男性（8.2%）より9.3ポイント高くなっている。

年代別で見ると、「利用しないと思う」は20歳代で75.0%と高くなっている。

(a) 直接会って相談する（訪問相談を含む）

(b) 電話で相談する



(c) メールで相談する

性別で見ると、「利用しないと思う」は男性（72.1%）が女性（64.1%）より8.0ポイント高くなっている。一方、「利用したことがある」は女性（10.2%）が男性（5.5%）より4.7ポイント高くなっている。

年代別で見ると、「実際にしたことはないが利用したいと思う」は50歳代で22.4%と高くなっている。一方、「利用しないと思う」は18・19歳で76.7%、20歳代で75.0%と高くなっている。

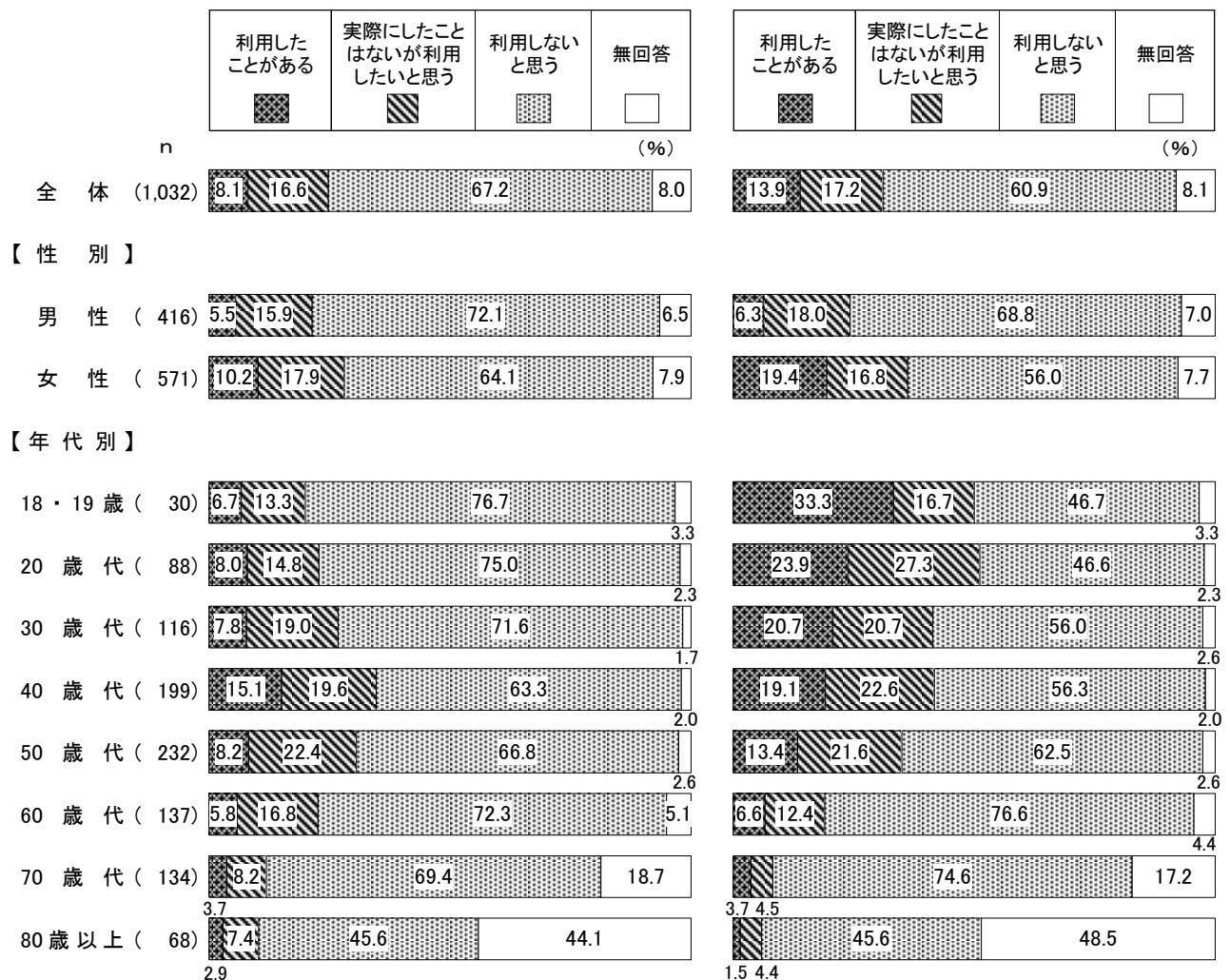
(d) 個人間のやりとりができるSNSを利用して相談する

性別で見ると、「利用したことがある」は女性（19.4%）が男性（6.3%）より13.1ポイント高くなっている。一方、「利用しないと思う」は男性（68.8%）が女性（56.0%）より12.8ポイント高くなっている。

年代別で見ると、「利用したことがある」は年代が下がるほど割合が高くなっており、18・19歳で33.3%と高くなっている。一方、「利用しないと思う」は60歳代で76.6%、70歳代で74.6%と高くなっている。

(c)メールで相談する

(d)個人間のやりとりができるSNSを利用して相談する



(e) 不特定の人に見てもらえるようにインターネットやSNSに投稿する

性別でみると、「利用したことがある」は女性（7.4%）が男性（3.1%）より4.3ポイント高くなっている。一方、「利用しないと思う」は男性（84.1%）が女性（80.9%）より3.2ポイント高くなっている。

年代別でみると、「利用しないと思う」は50歳代で91.4%と高くなっている。

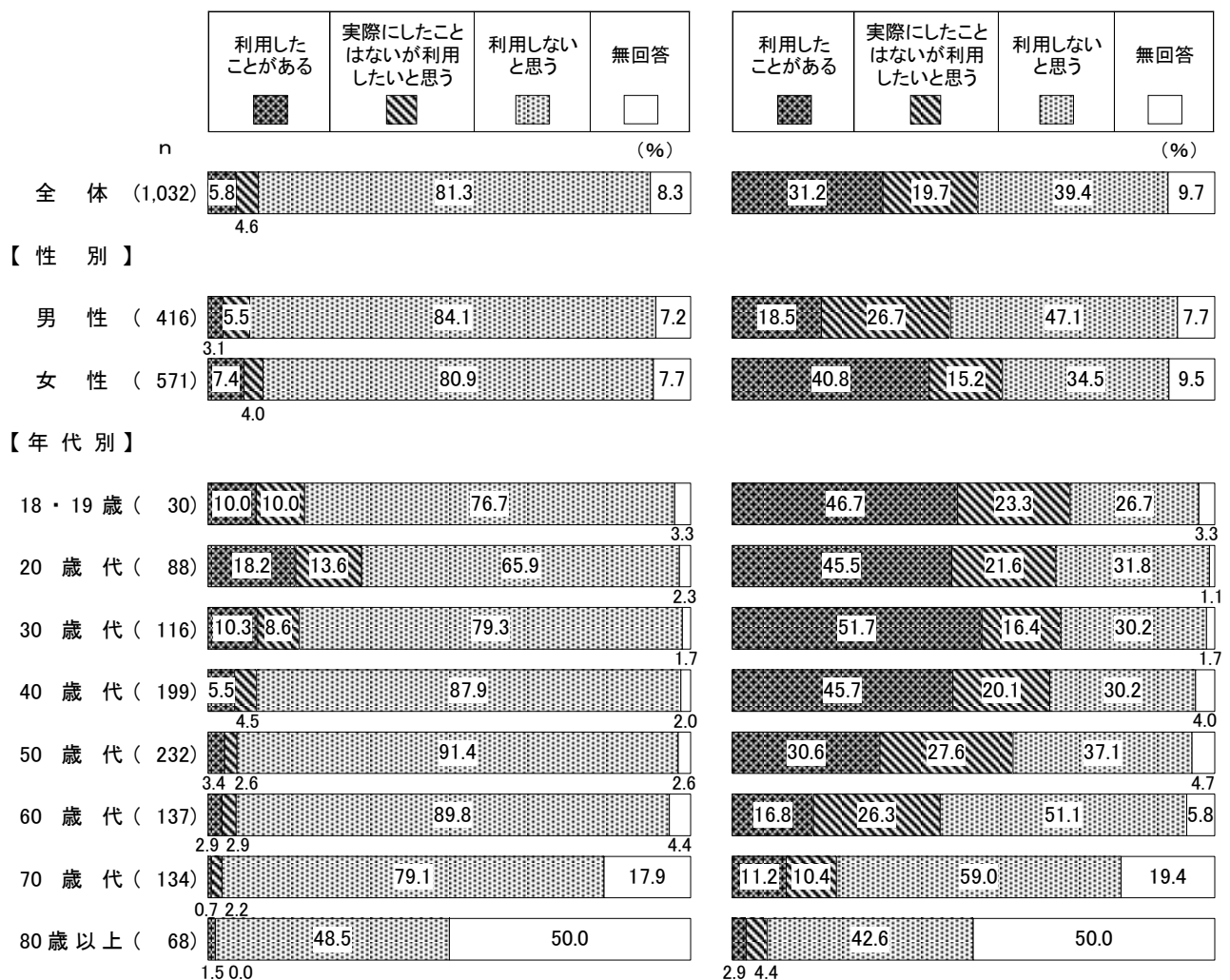
(f) インターネットを利用して解決法を検索する

性別でみると、「利用したことがある」は女性（40.8%）が男性（18.5%）より22.3ポイント高くなっている。一方、「利用しないと思う」は男性（47.1%）が女性（34.5%）より12.6ポイント、「実際にしたことはないが利用したいと思う」は男性（26.7%）が女性（15.2%）より11.5ポイント、それぞれ高くなっている。

年代別でみると、「利用したことがある」は30歳代で51.7%と高くなっている。一方、「利用しないと思う」は70歳代で59.0%と高くなっている。

(e) 不特定の人に見てもらえるようにインターネットやSNSに投稿する

(f) インターネットを利用して解決法を検索する



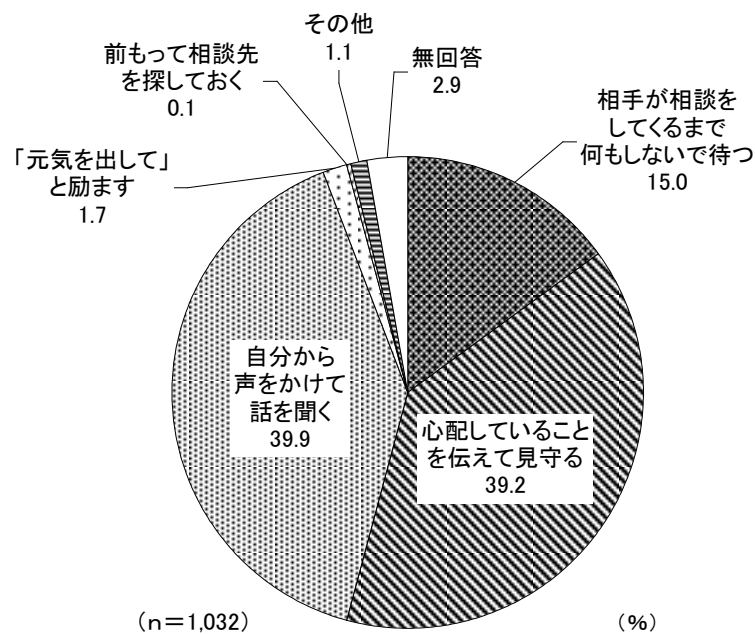
4. 相談を受けることについて

(1) 身近な人がつらそうに見えた時の対応

問14 理由は分からないけれども、身近な人がいつもと違った様子でつらそうに見えた時に、あなたはどのように対応しますか。最も当てはまる対応を教えてください。

(○は1つ)

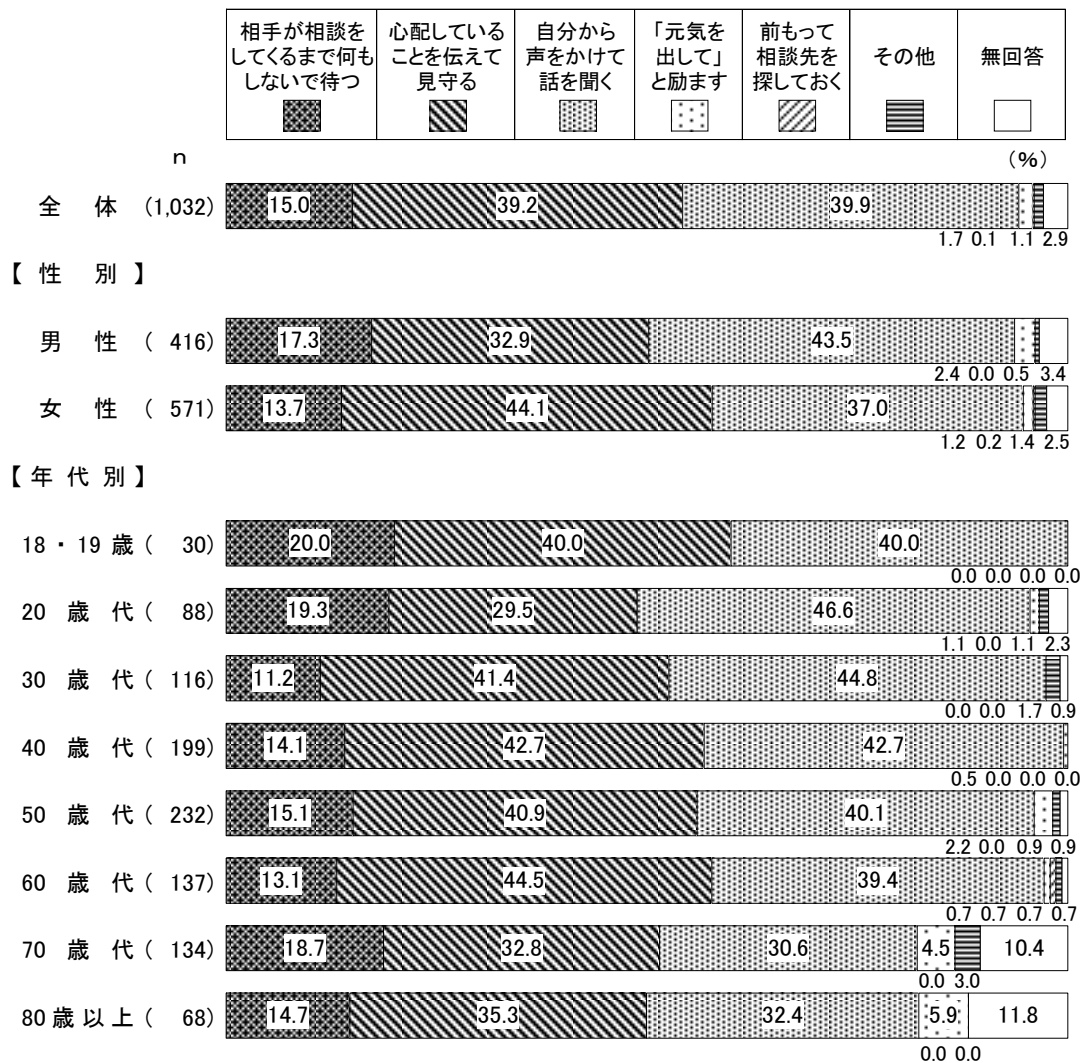
身近な人がつらそうに見えた時の対応は、「自分から声をかけて話を聞く」が39.9%で最も高く、次いで「心配していることを伝えて見守る」(39.2%)、「相手が相談をしてくるまで何もしないで待つ」(15.0%)、「『元気を出して』と励ます」(1.7%)となっている。



【身近な人がつらそうに見えた時の対応（性別、年代別）】

性別でみると、「心配していることを伝えて見守る」は女性（44.1%）が男性（32.9%）より11.2ポイント高くなっている。一方、「自分から声をかけて話を聞く」は男性（43.5%）が女性（37.0%）より6.5ポイント、「相手が相談をしてくるまで何もしないで待つ」は男性（17.3%）が女性（13.7%）より3.6ポイント、それぞれ高くなっている。

年代別でみると、「相手が相談をしてくるまで何もしないで待つ」は18・19歳で20.0%と高くなっている。「心配していることを伝えて見守る」は60歳代で44.5%と高くなっている。「自分から声をかけて話を聞く」は20歳代で46.6%と高くなっている。



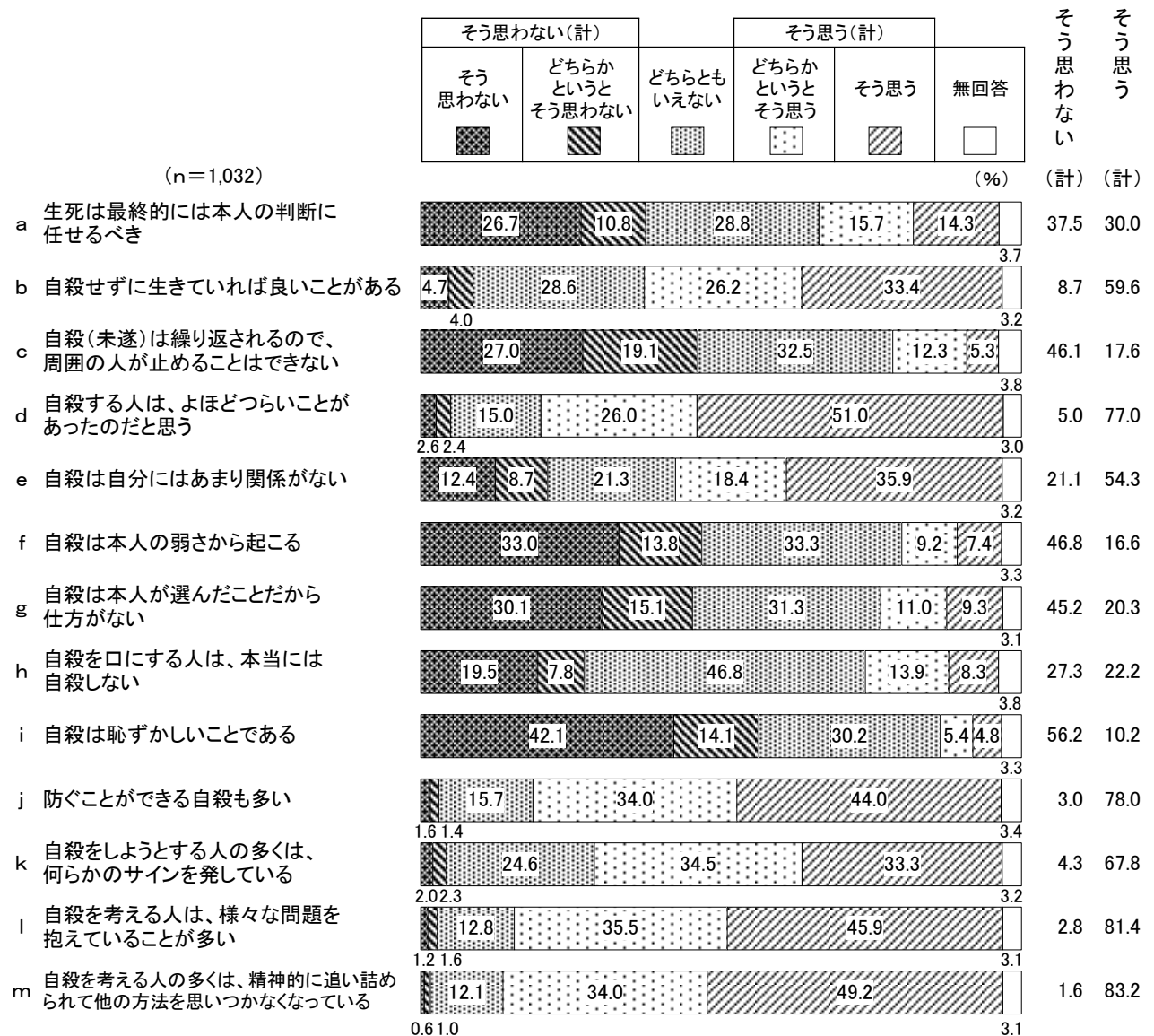
5. 自殺に関する考えについて

(1) 「自殺」について思うこと

問15 あなたは「自殺」についてどのように思いますか。(それぞれに○は1つ)

「自殺」について思うことは、「そう思わない」と「どちらかというと思わない」を合わせた『そう思わない(計)』は、“自殺は恥ずかしいことである”で56.2%と最も高く、次いで“自殺は本人の弱さから起こる”(46.8%)、“自殺(未遂)は繰り返されるので、周囲の人が止めることはできない”(46.1%)となっている。

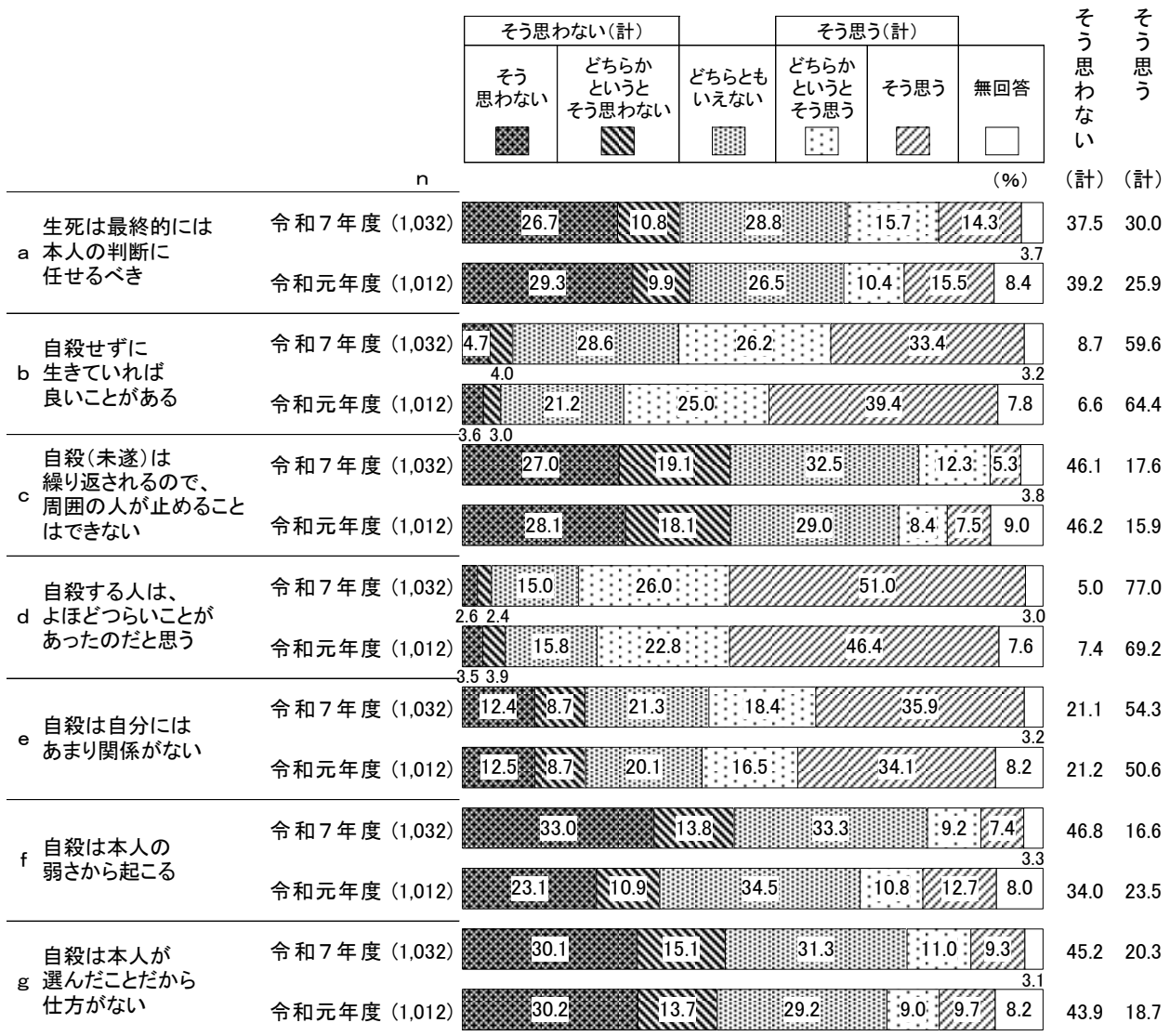
一方、「どちらかというと思おう」と「そう思う」を合わせた『そう思う(計)』は、“自殺を考える人の多くは、精神的に追い詰められて他の方法を思い浮かなくなっている”で83.2%と最も高く、次いで“自殺を考える人は、様々な問題を抱えていることが多い”(81.4%)、“防ぐことができる自殺も多い”(78.0%)となっている。

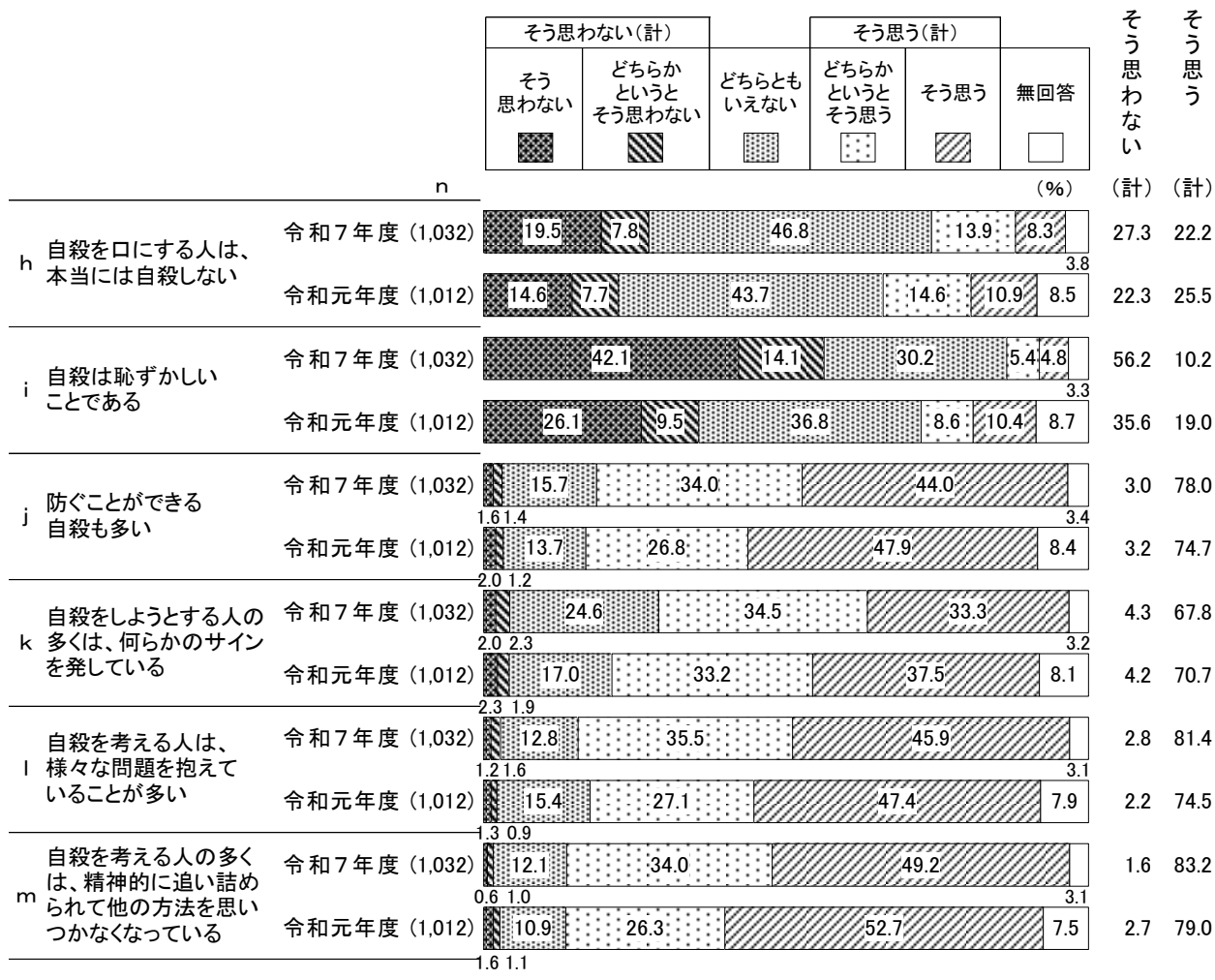


【経年比較】

過去の調査と比較すると、『そう思わない（計）』は“自殺は恥ずかしいことである”で20.6ポイント、“自殺は本人の弱さから起こる”で12.8ポイント、それぞれ令和元年度調査より増加している。

『そう思う（計）』は“自殺する人は、よほどつらいことがあったのだと思う”で7.8ポイント、“自殺を考える人は、様々な問題を抱えていることが多い”で6.9ポイント、それぞれ令和元年度調査より増加している。一方、“自殺は恥ずかしいことである”で8.8ポイント、“自殺は本人の弱さから起こる”で6.9ポイント、それぞれ令和元年度調査より減少している。



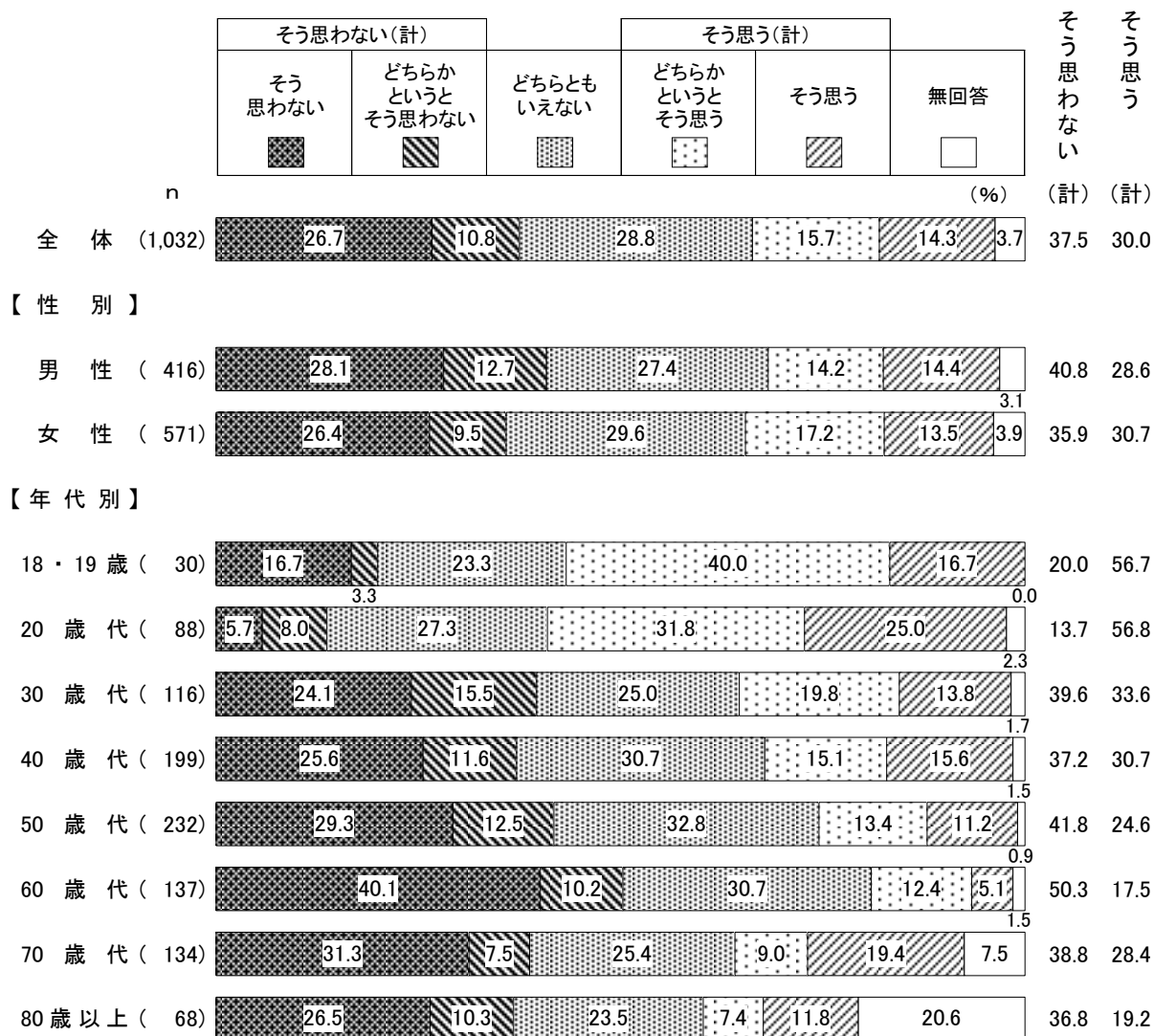


【「自殺」について思うこと（性別、年代別）】

(a) 生死は最終的には本人の判断に任せるべき

性別で見ると、『そう思わない（計）』は男性（40.8%）が女性（35.9%）より4.9ポイント高くなっている。

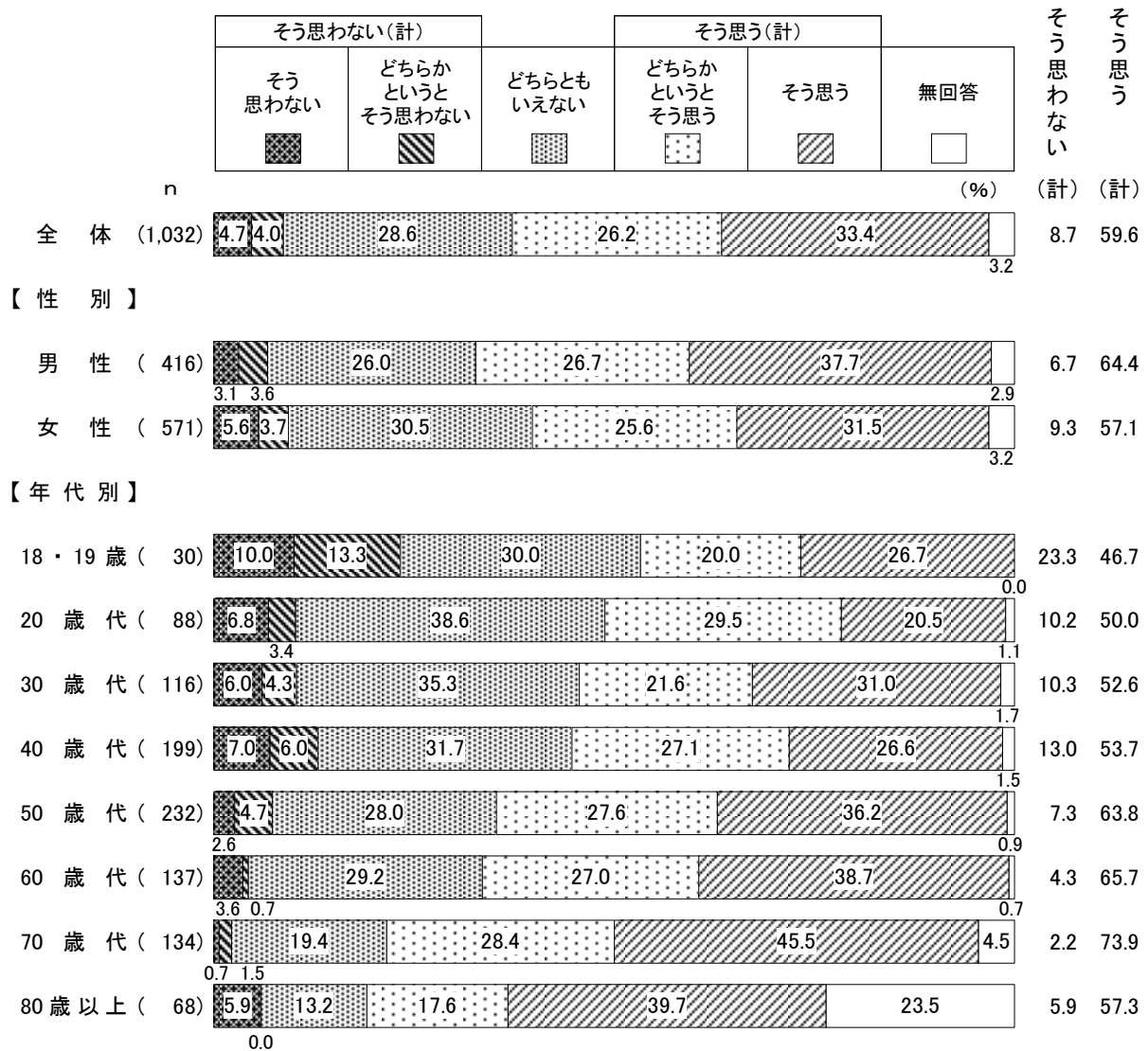
年代別で見ると、『そう思わない（計）』は60歳代で50.3%と高くなっている。一方、『そう思う（計）』は20歳代で56.8%、18・19歳で56.7%と高くなっている。



(b) 自殺せずに生きていれば良いことがある

性別でみると、『そう思う（計）』は男性（64.4%）が女性（57.1%）より7.3ポイント高くなっている。

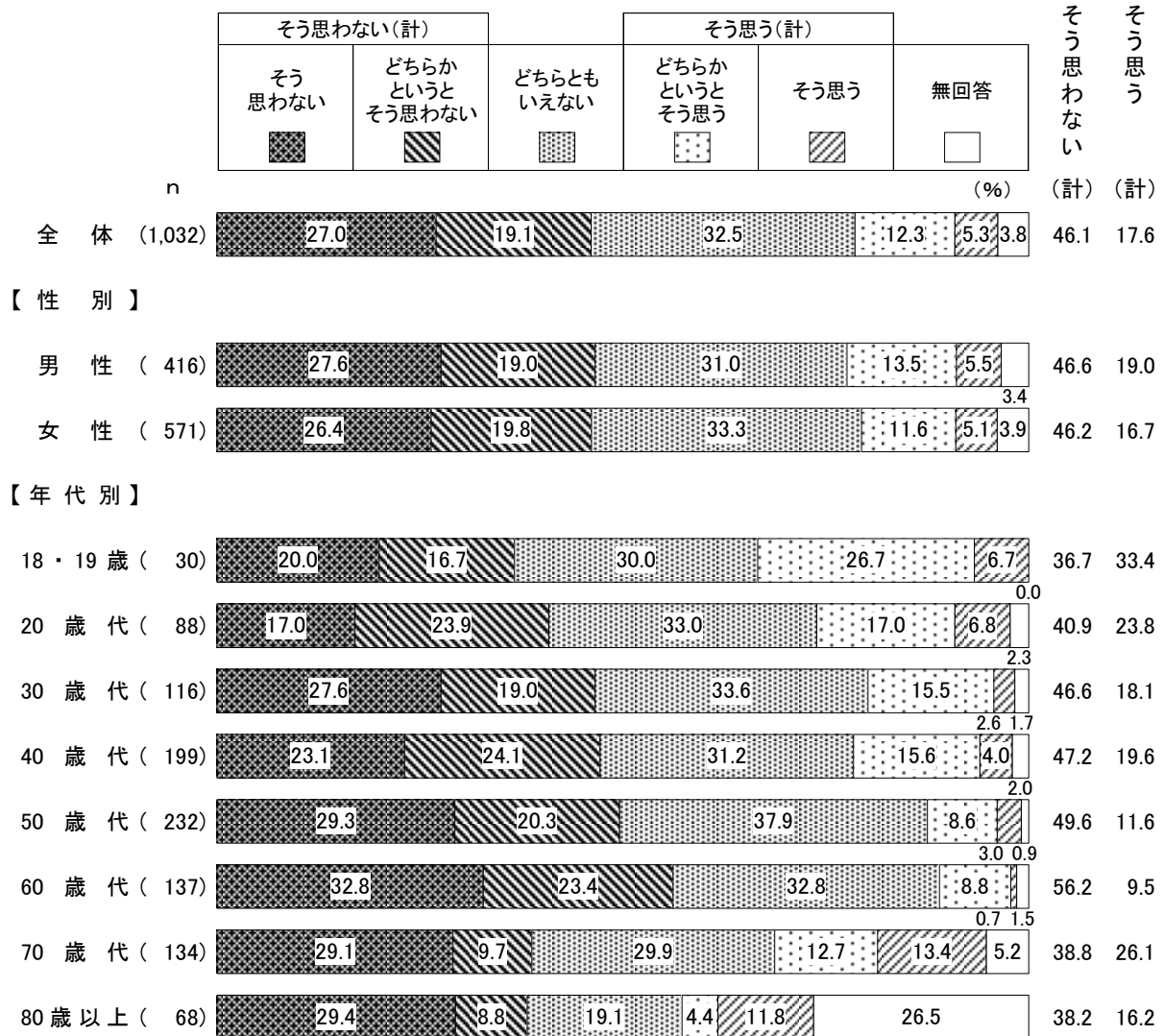
年代別でみると、『そう思わない（計）』は18・19歳で23.3%と高くなっている。一方、『そう思う（計）』はおおむね年代が上がるほど割合が高くなっており、70歳代で73.9%と高くなっている。



(c) 自殺（未遂）は繰り返されるので、周囲の人が止めることはできない

性別でみると、大きな違いはみられない。

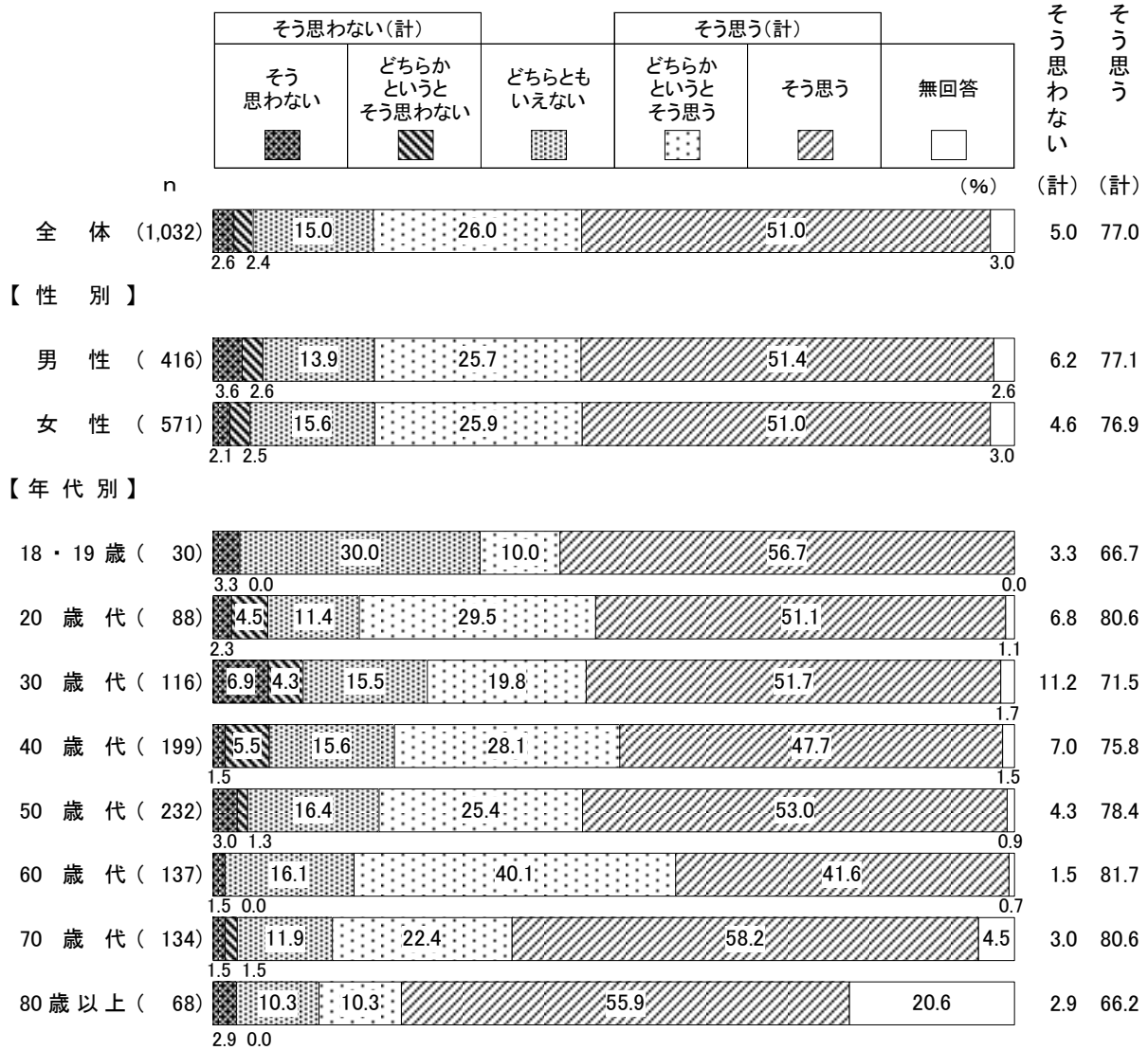
年代別でみると、『そう思わない（計）』は60歳代で56.2%と高くなっている。一方、『そう思う（計）』は18・19歳で33.4%と高くなっている。



(d) 自殺する人は、よほどつらいことがあったのだと思う

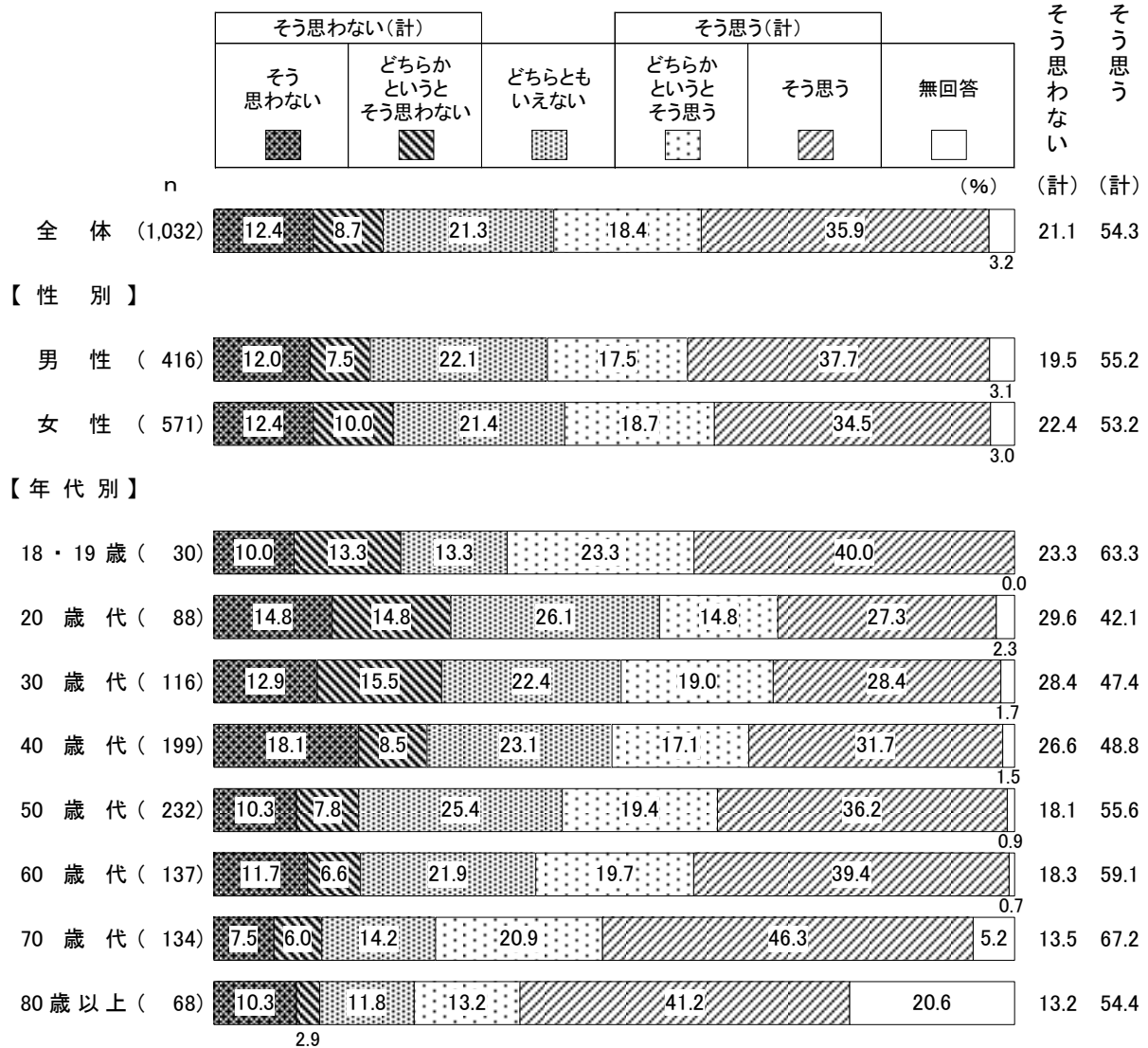
性別でみると、大きな違いはみられない。

年代別でみると、『そう思う（計）』は60歳代で81.7%と高くなっている。



(e) 自殺は自分にはあまり関係がない

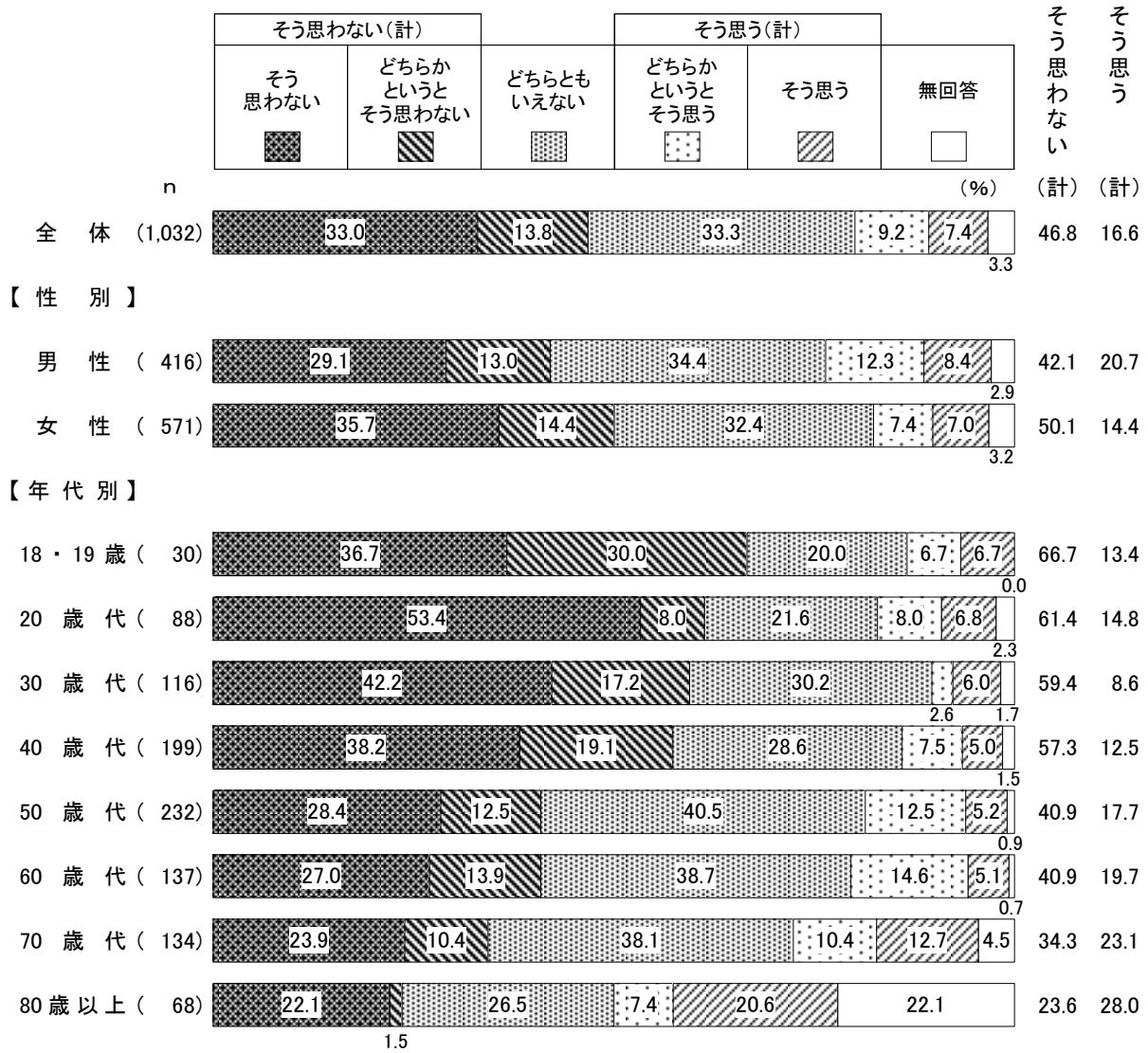
性別でみると、「そう思う」は男性 (37.7%) が女性 (34.5%) より3.2ポイント高くなっている。
 年代別でみると、『そう思わない (計)』は20歳代で29.6%と高くなっている。一方、『そう思う (計)』は70歳代で67.2%、18・19歳で63.3%と高くなっている。



(f) 自殺は本人の弱さから起こる

性別でみると、『そう思わない(計)』は女性(50.1%)が男性(42.1%)より8.0ポイント高くなっている。

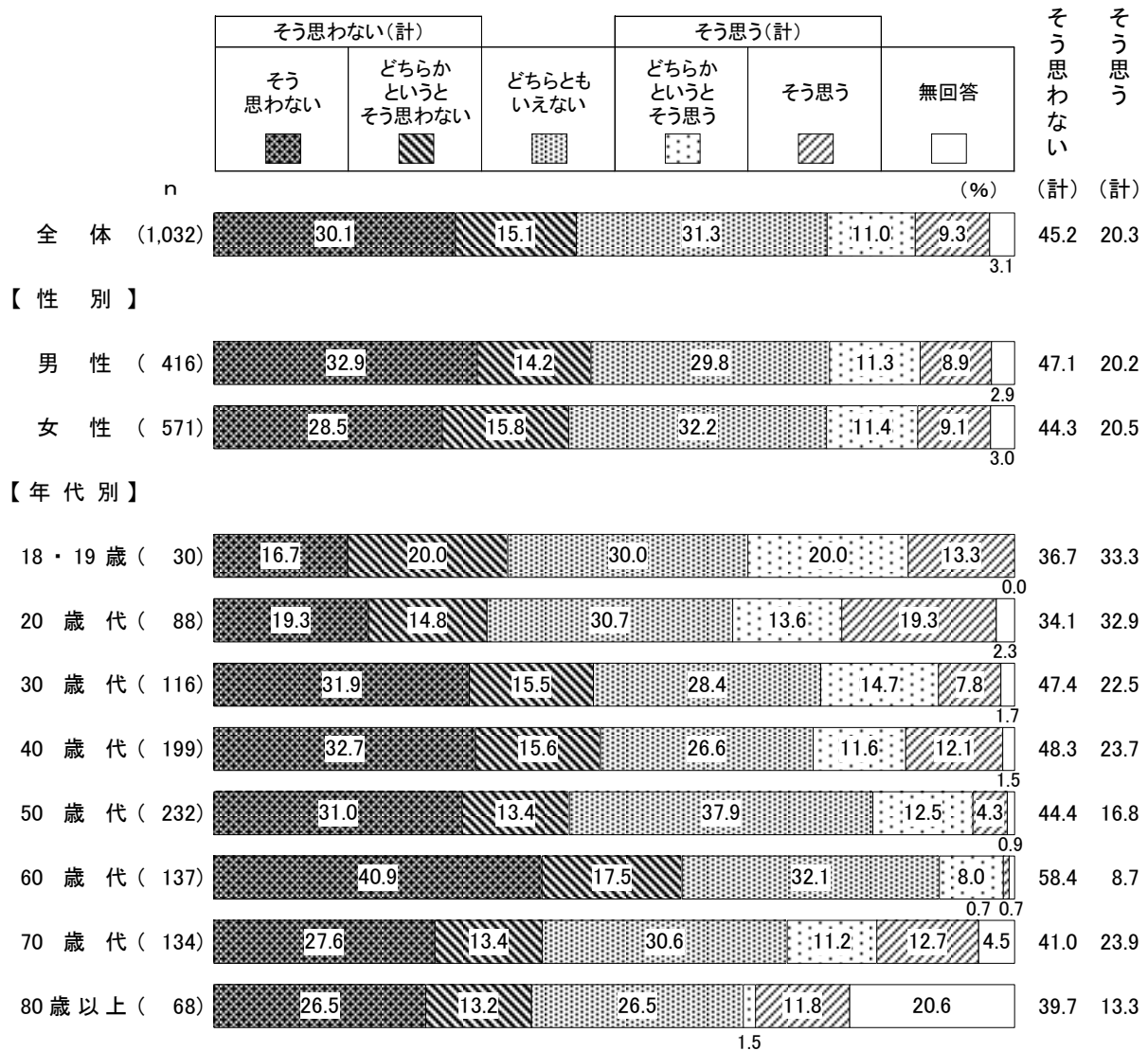
年代別でみると、『そう思わない(計)』はおおむね年代が下がるほど割合が高くなっており、18・19歳で66.7%と高くなっている。一方、『そう思う(計)』は80歳以上で28.0%と高くなっている。



(g) 自殺は本人が選んだことだから仕方がない

性別でみると、「そう思わない」は男性（32.9%）が女性（28.5%）より4.4ポイント高くなっている。

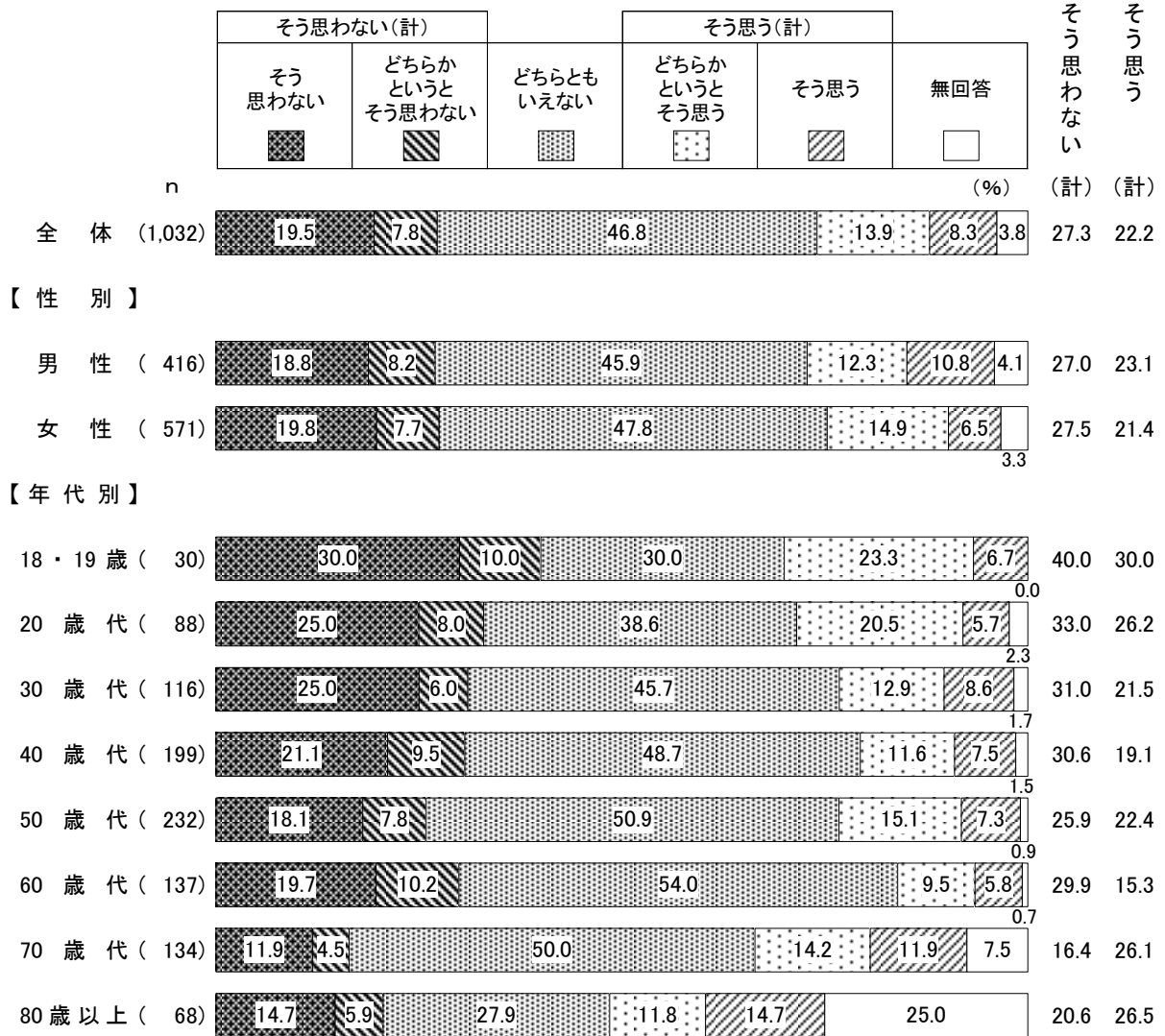
年代別でみると、『そう思わない（計）』は60歳代で58.4%と高くなっている。一方、『そう思う（計）』は18・19歳で33.3%、20歳代で32.9%と高くなっている。



(h) 自殺を口にする人は、本当には自殺しない

性別でみると、「そう思う」は男性（10.8%）が女性（6.5%）より4.3ポイント高くなっている。

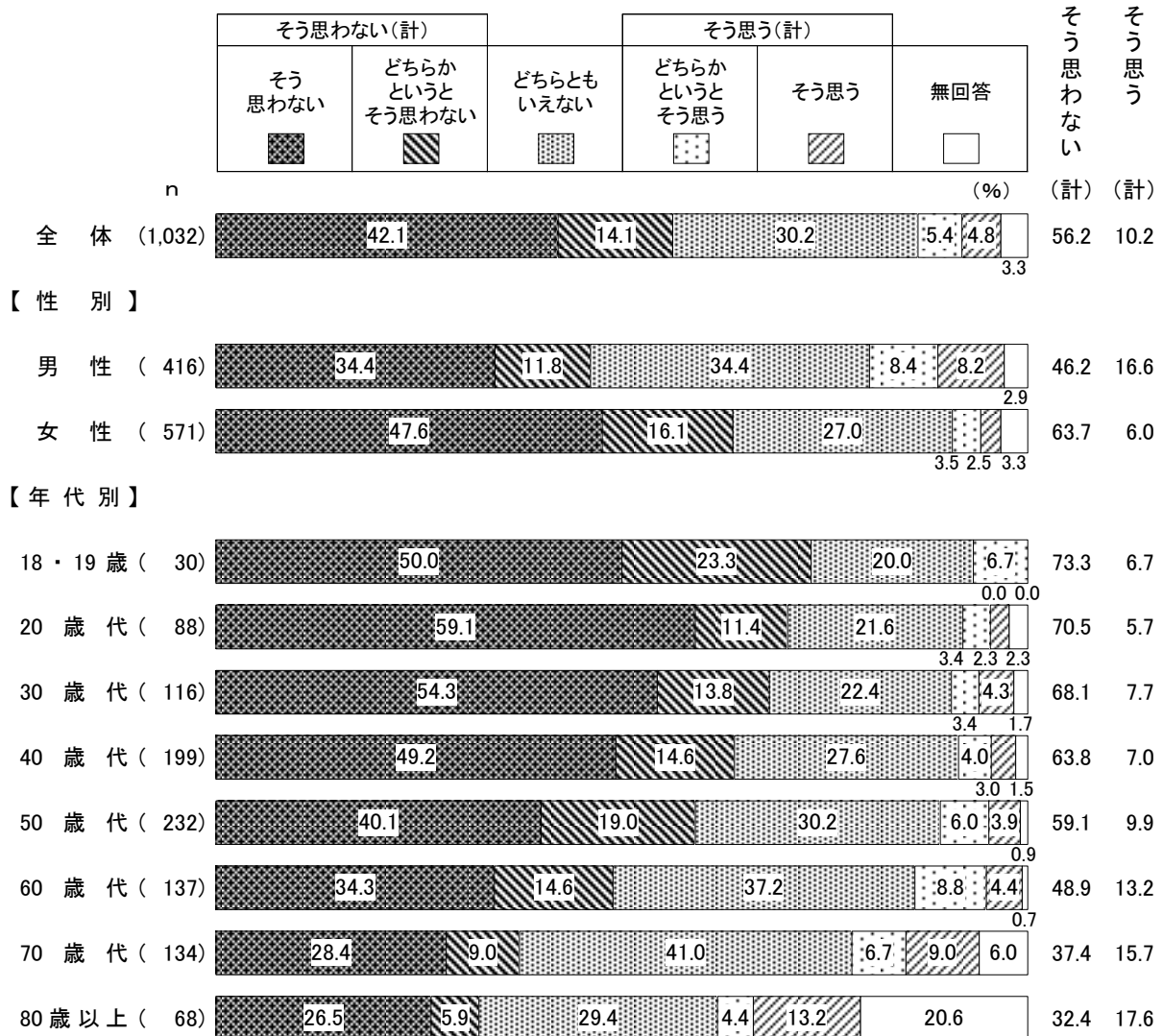
年代別でみると、『そう思わない（計）』は18・19歳で40.0%と高く、『そう思う（計）』でも18・19歳で30.0%と高くなっている。



(i) 自殺は恥ずかしいことである

性別でみると、『そう思わない（計）』は女性（63.7%）が男性（46.2%）より17.5ポイント高くなっている。

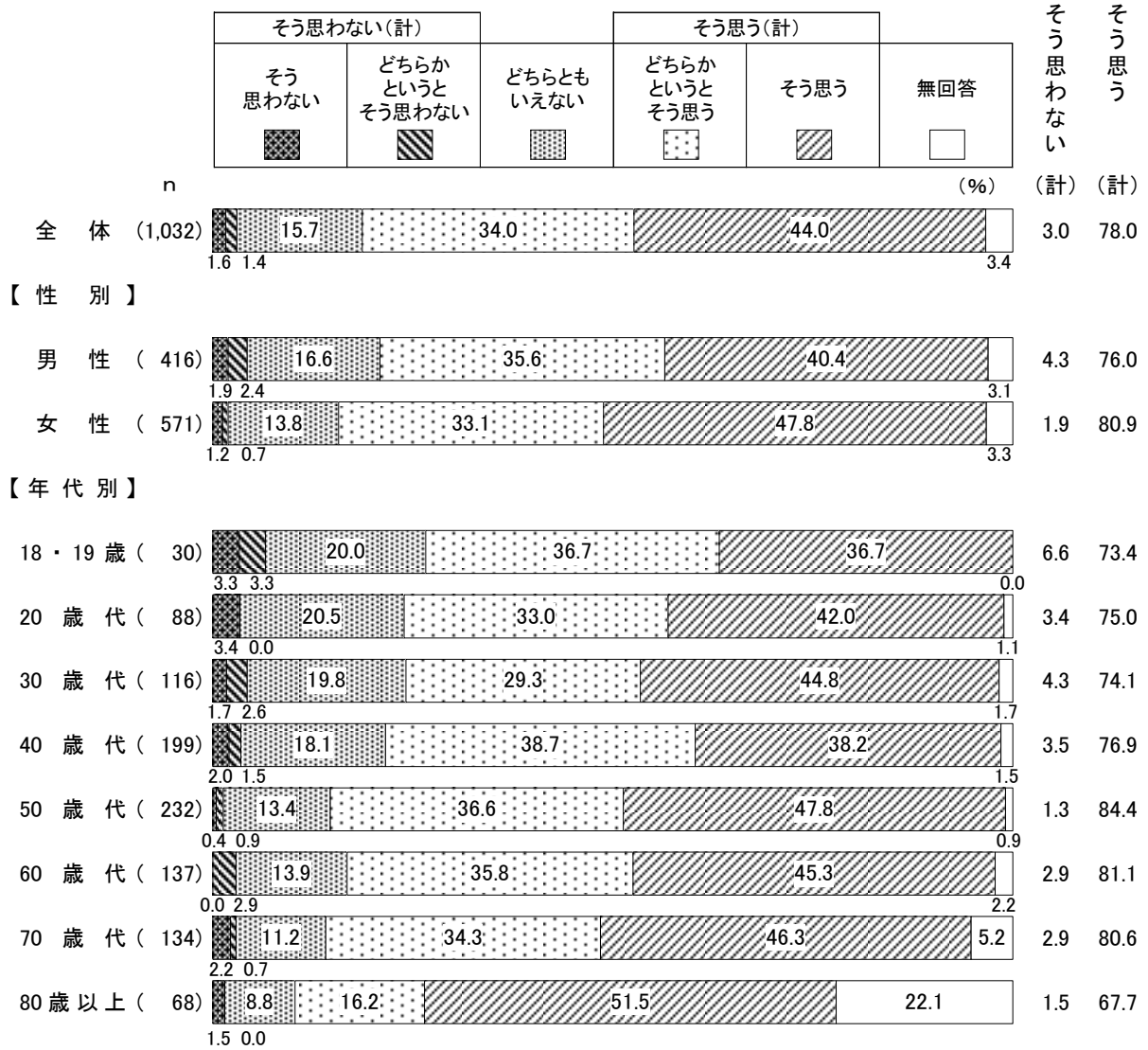
年代別でみると、『そう思わない（計）』は年代が下がるほど割合が高くなっており、18・19歳で73.3%と高くなっている。



(j) 防ぐことができる自殺も多い

性別でみると、『そう思う（計）』は女性（80.9%）が男性（76.0%）より4.9ポイント高くなっている。

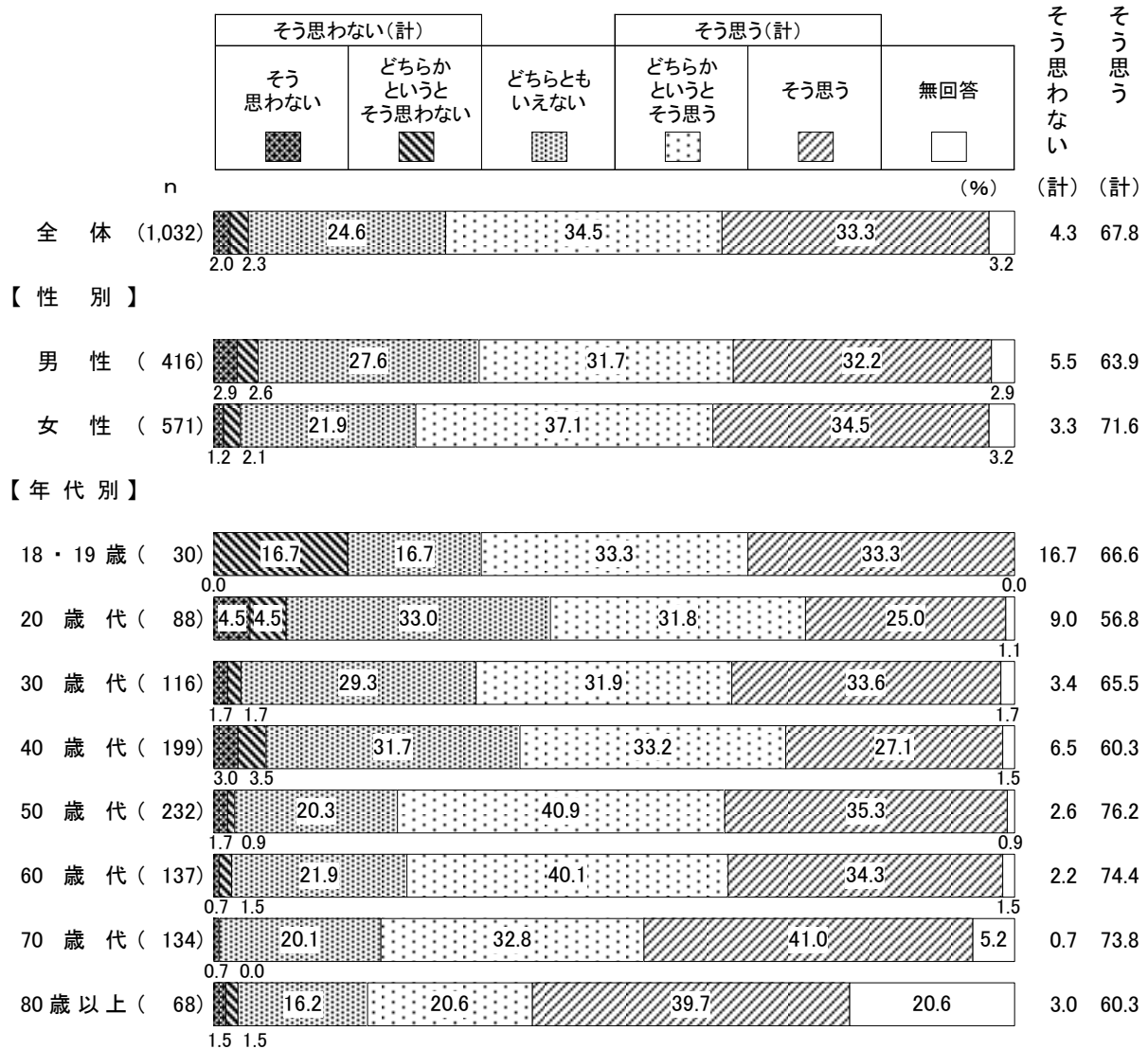
年代別でみると、『そう思う（計）』は50歳代で84.4%と高くなっている。



(k) 自殺をしようとする人の多くは、何らかのサインを発している

性別でみると、『そう思う（計）』は女性（71.6%）が男性（63.9%）より7.7ポイント高くなっている。

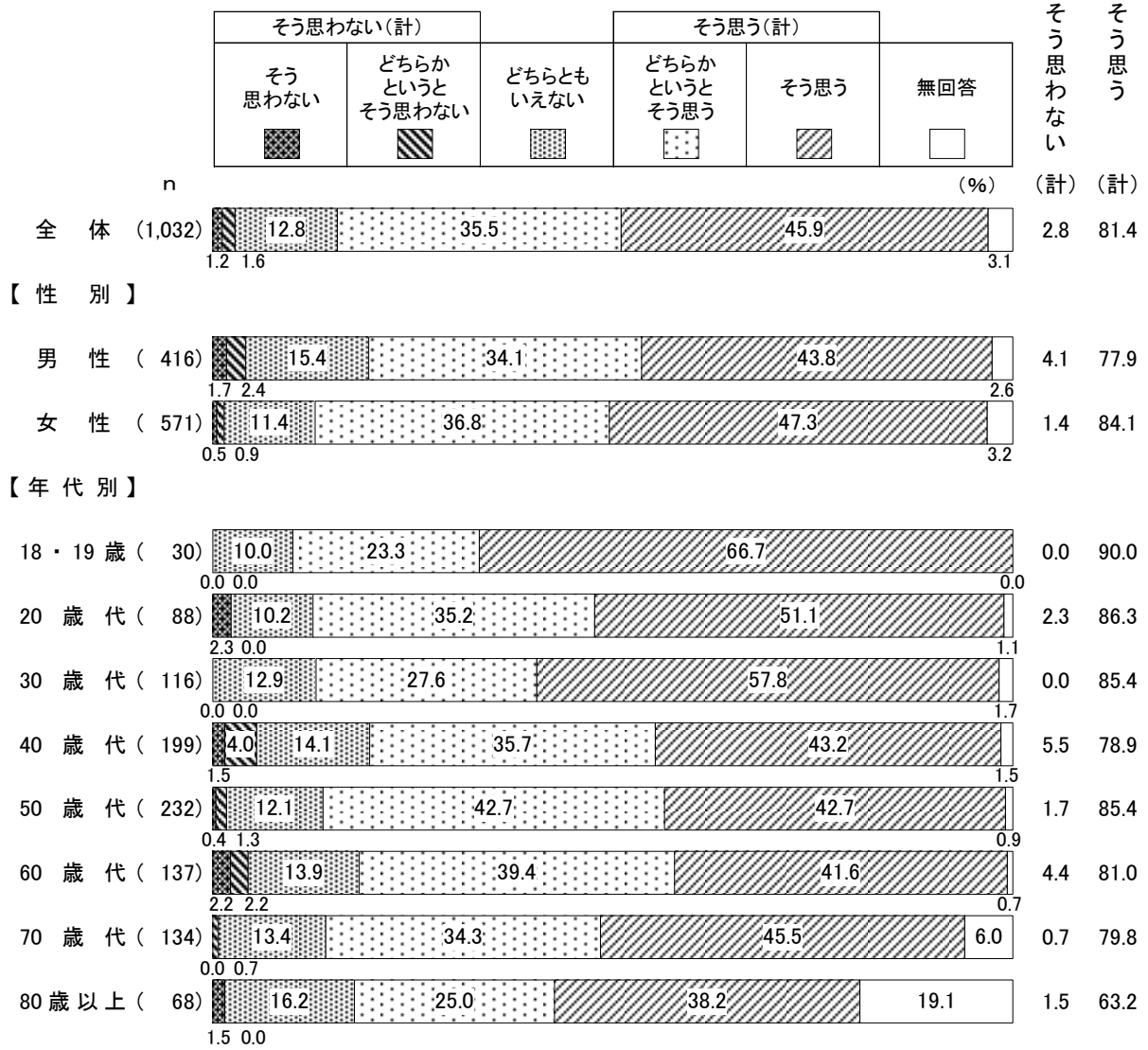
年代別でみると、『そう思う（計）』は50歳代で76.2%、60歳代で74.4%と高くなっている。



(1) 自殺を考える人は、様々な問題を抱えていることが多い

性別でみると、『そう思う（計）』は女性（84.1%）が男性（77.9%）より6.2ポイント高くなっている。

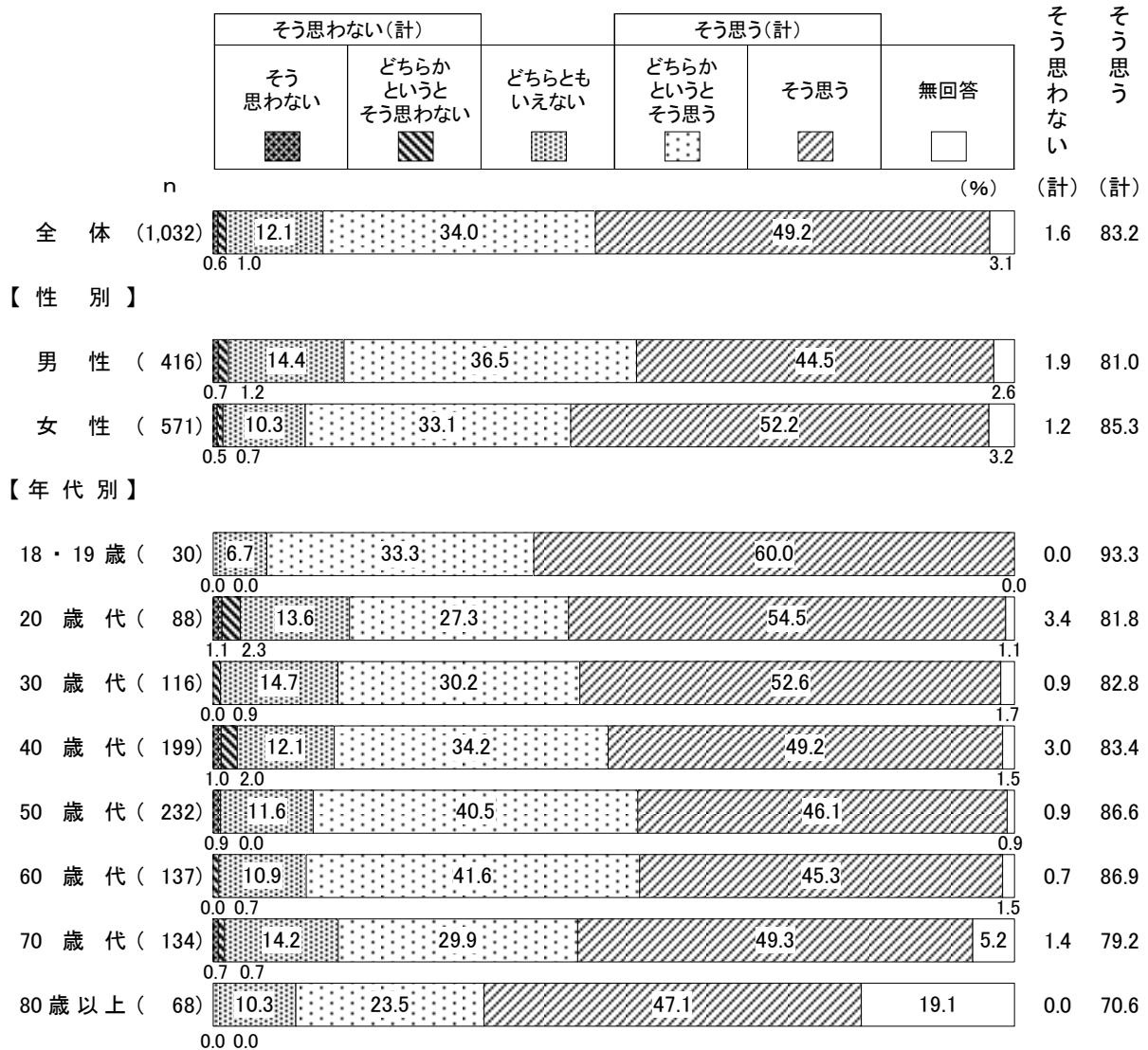
年代別でみると、『そう思う（計）』は18・19歳で90.0%と高くなっている。



(m) 自殺を考える人の多くは、精神的に追い詰められて他の方法を思いつかなくなっている

性別でみると、『そう思う（計）』は女性（85.3%）が男性（81.0%）より4.3ポイント高くなっている。

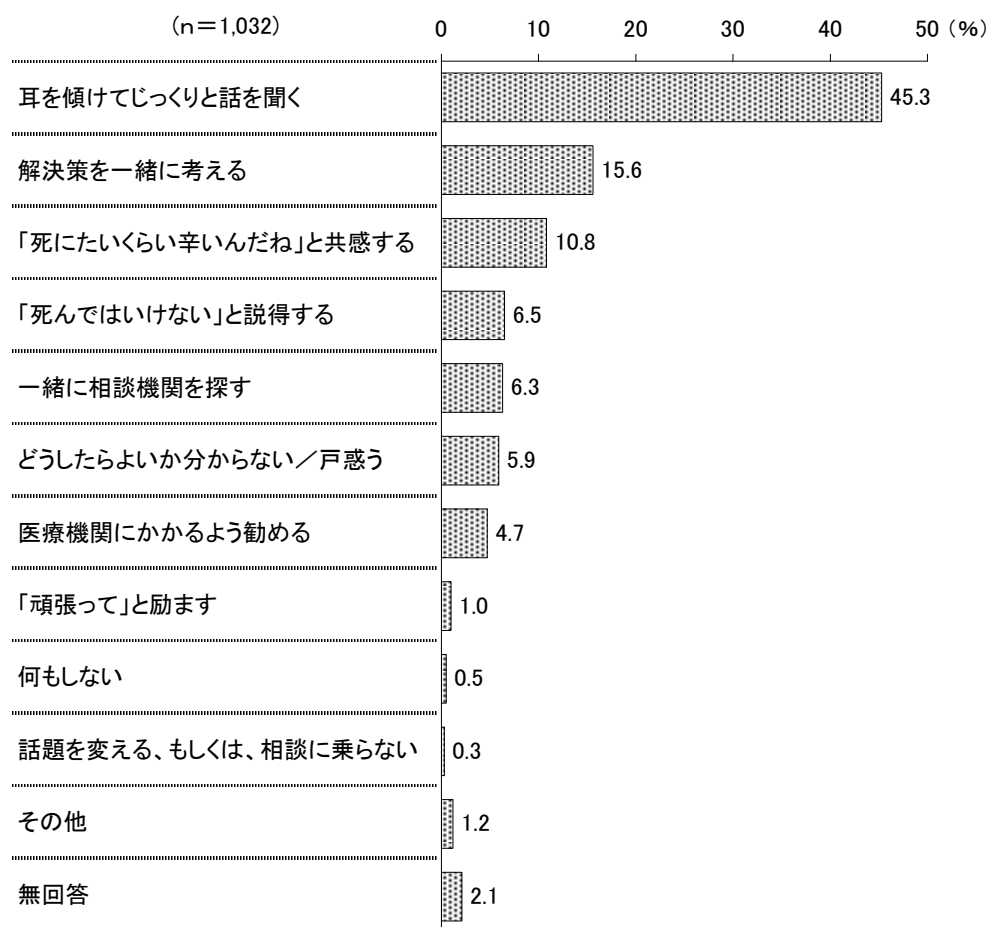
年代別でみると、『そう思う（計）』は18・19歳で93.3%と高くなっている。



(2) 身近な人から「死にたい」と打ち明けられた時の対応

問16 もし身近な人から「死にたい」と打ち明けられた時、あなたはどのように対応しますか。最も当てはまる対応を教えてください。(○は1つ)

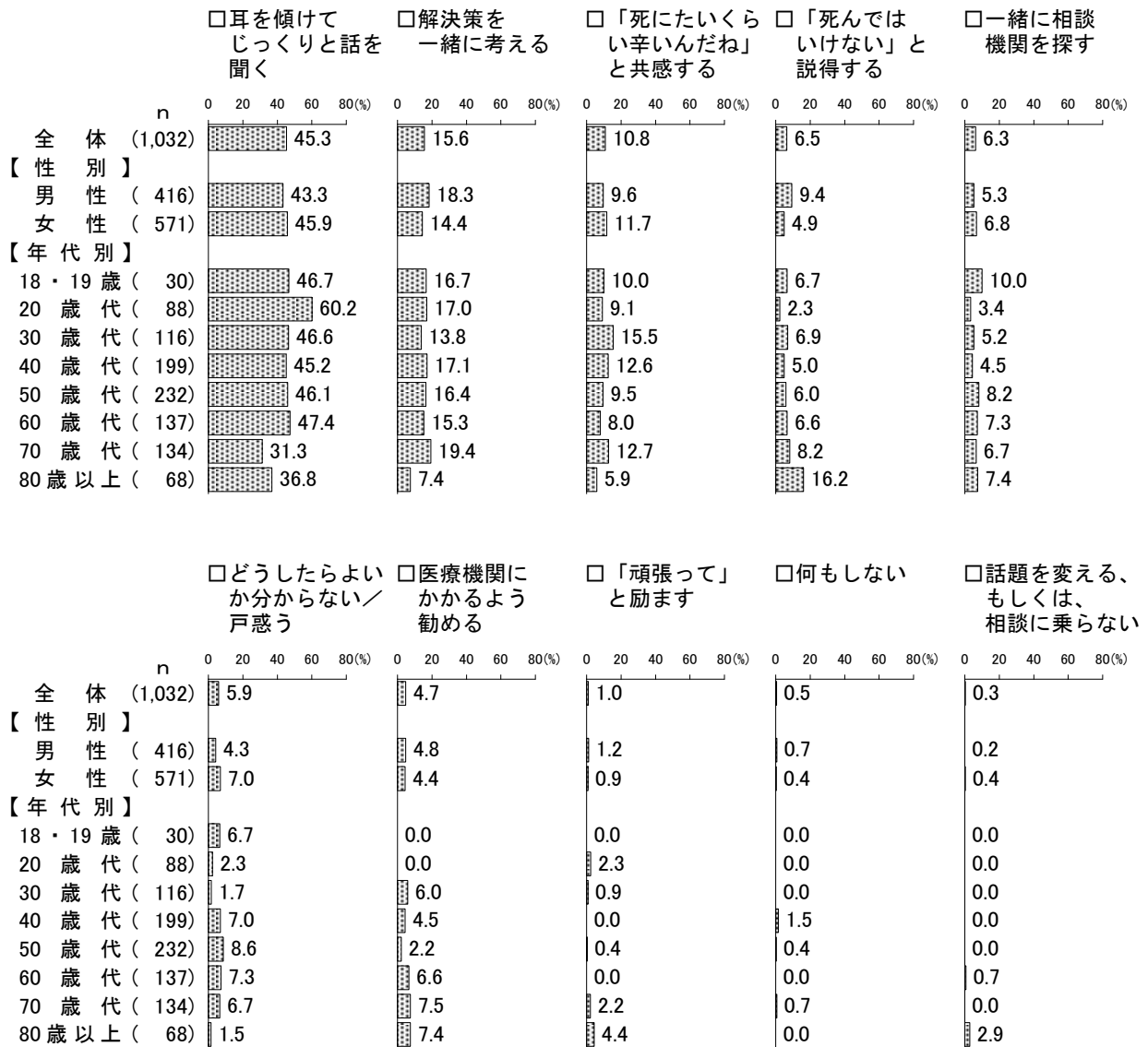
身近な人から「死にたい」と打ち明けられた時の対応は、「耳を傾けてじっくりと話を聞く」が45.3%で最も高く、次いで「解決策と一緒に考える」(15.6%)、「『死にたいくらい辛いんだね』と共感する」(10.8%)、「『死んではいけない』と説得する」(6.5%)、「一緒に相談機関を探す」(6.3%)となっている。



【身近な人から「死にたい」と打ち明けられた時の対応（性別、年代別）】

性別でみると、『死んではいけない』と説得するは男性（9.4%）が女性（4.9%）より4.5ポイント、「解決策を一緒に考える」は男性（18.3%）が女性（14.4%）より3.9ポイント、それぞれ高くなっている。

年代別でみると、「耳を傾けてじっくりと話を聞く」は20歳代で60.2%と高くなっている。

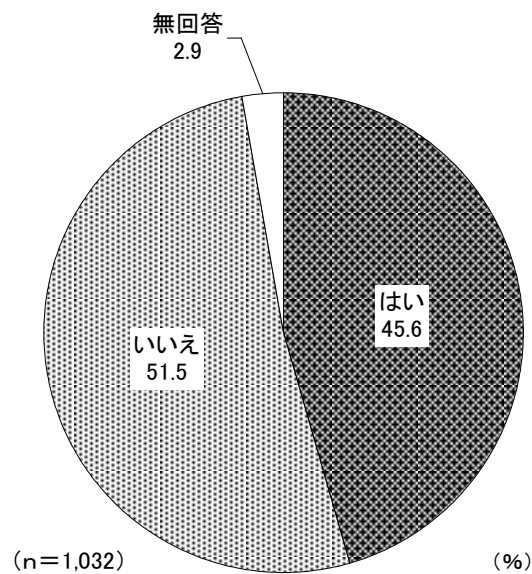


6. 自殺対策・予防等について

(1) 自殺対策に関する啓発物を見聞きしたことの有無

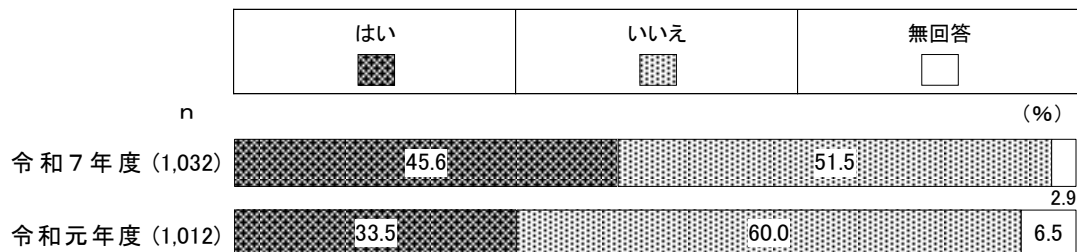
問17 あなたはこれまで自殺対策に関する啓発物を見たり聞いたりしたことがありますか。(○は1つ)

自殺対策に関する啓発物を見聞きしたことの有無は、「はい」が45.6%、「いいえ」は51.5%となっている。



【経年比較】

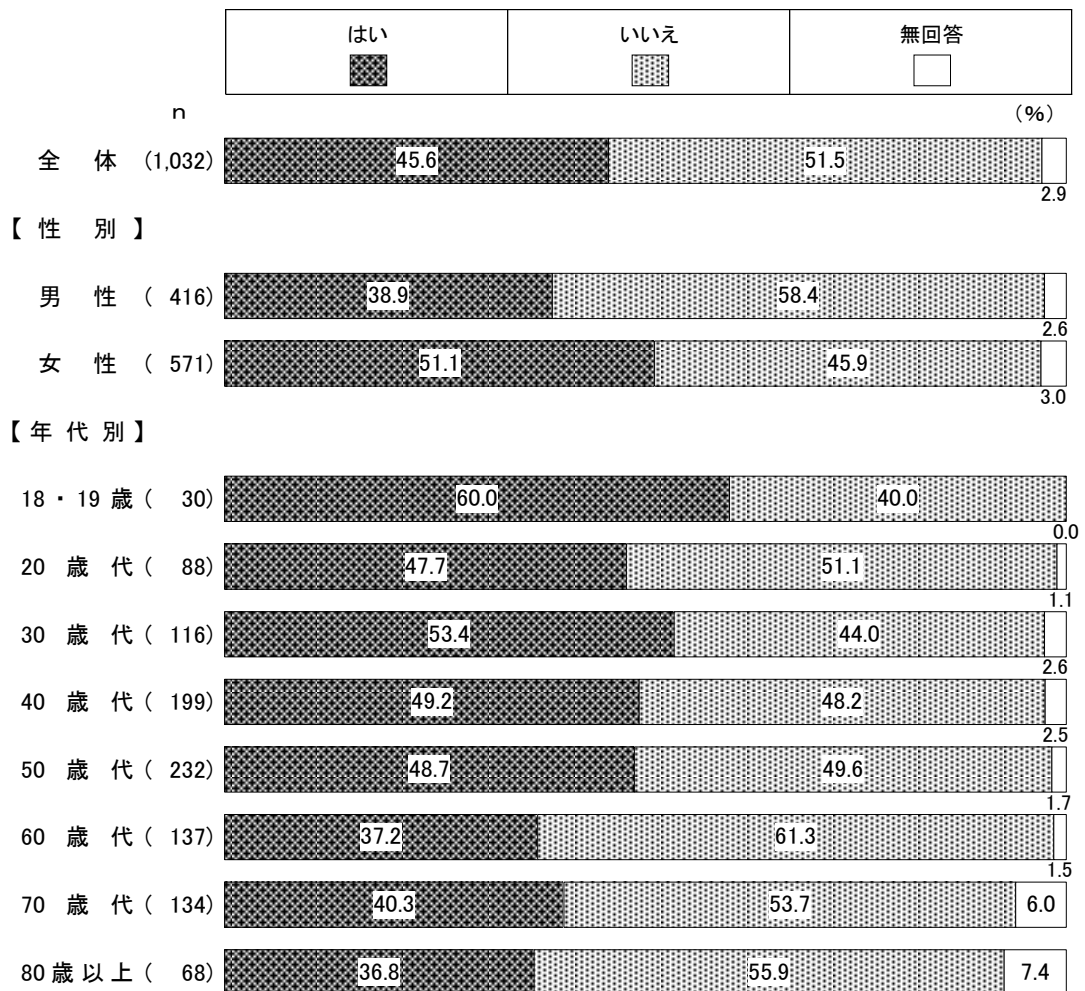
過去の調査と比較すると、「はい」は令和元年度調査より12.1ポイント増加している。



【自殺対策に関する啓発物を見聞きしたことの有無（性別、年代別）】

性別で見ると、「はい」は女性（51.1%）が男性（38.9%）より12.2ポイント高くなっている。

年代別で見ると、「はい」は18・19歳で60.0%と高くなっている。一方、「いいえ」は60歳代で61.3%と高くなっている。

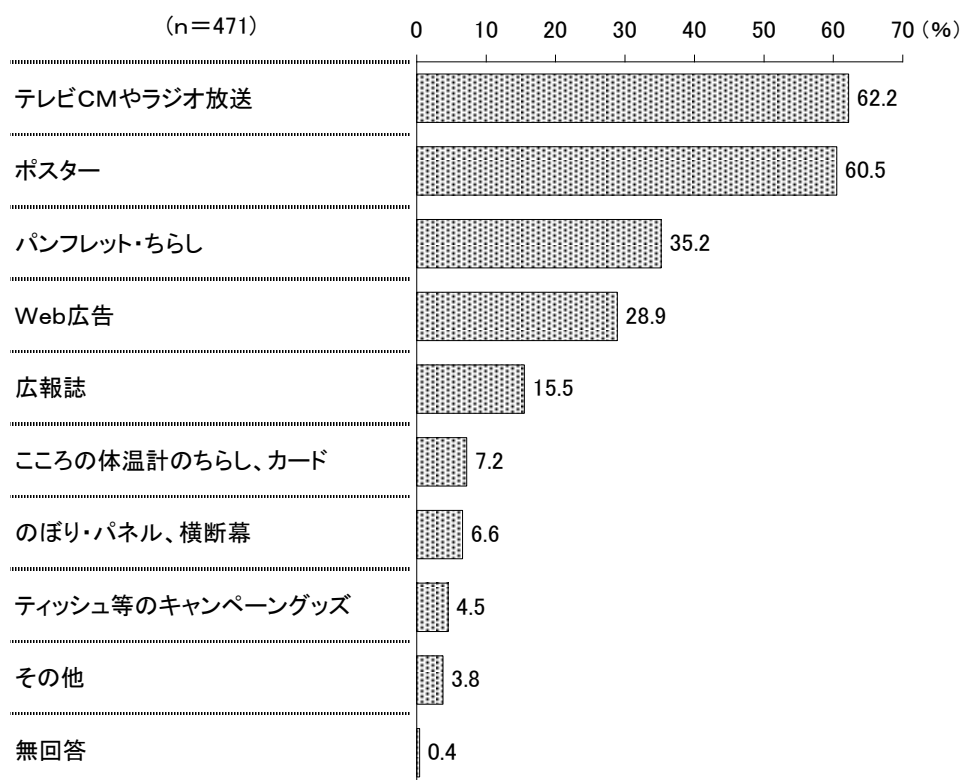


(2) これまで見聞きしたことがある自殺対策に関する啓発物

(問17で「はい(見聞きしたことがある)」に○をつけた方に質問です)

問17-1 あなたがこれまで見たり聞いたりしたことのある自殺対策に関する啓発物は何ですか。(○はいくつでも)

これまで見聞きしたことがある自殺対策に関する啓発物は、「テレビCMやラジオ放送」が62.2%で最も高く、次いで「ポスター」(60.5%)、「パンフレット・ちらし」(35.2%)、「Web広告」(28.9%)、「広報誌」(15.5%)となっている。

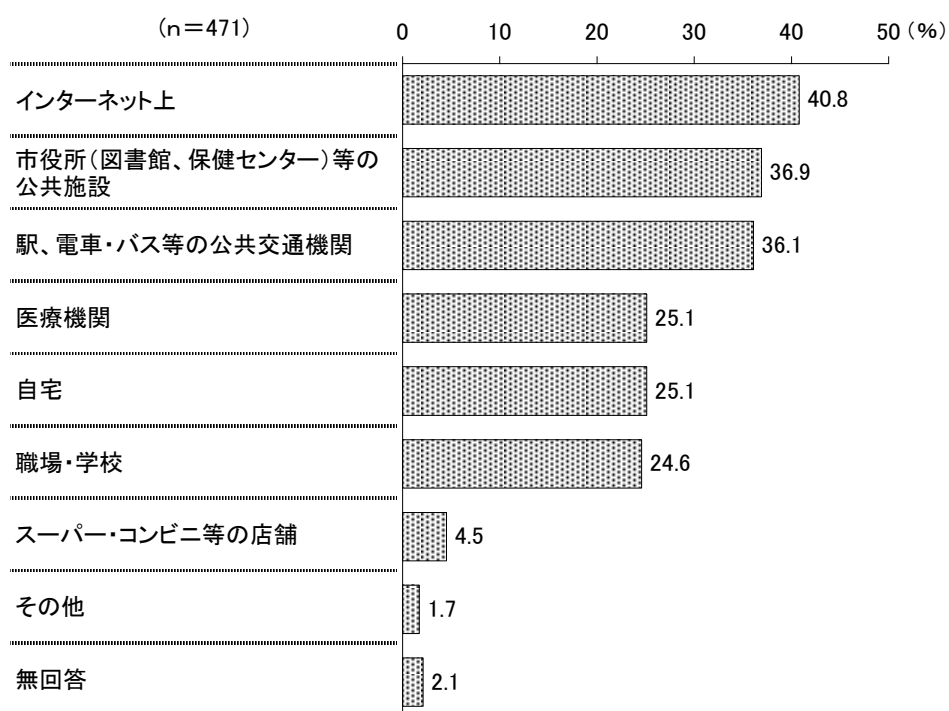


(3) 自殺対策に関する啓発物を見た場所

(問17で「はい(見聞きしたことがある)」に○をつけた方に質問です)

問17-2 その自殺対策に関する啓発物は、どこでご覧になりましたか。(○はいくつでも)

自殺対策に関する啓発物を見た場所は、「インターネット上」が40.8%で最も高く、次いで「市役所(図書館、保健センター)等の公共施設」(36.9%)、「駅、電車・バス等の公共交通機関」(36.1%)、「医療機関」と「自宅」(ともに25.1%)となっている。

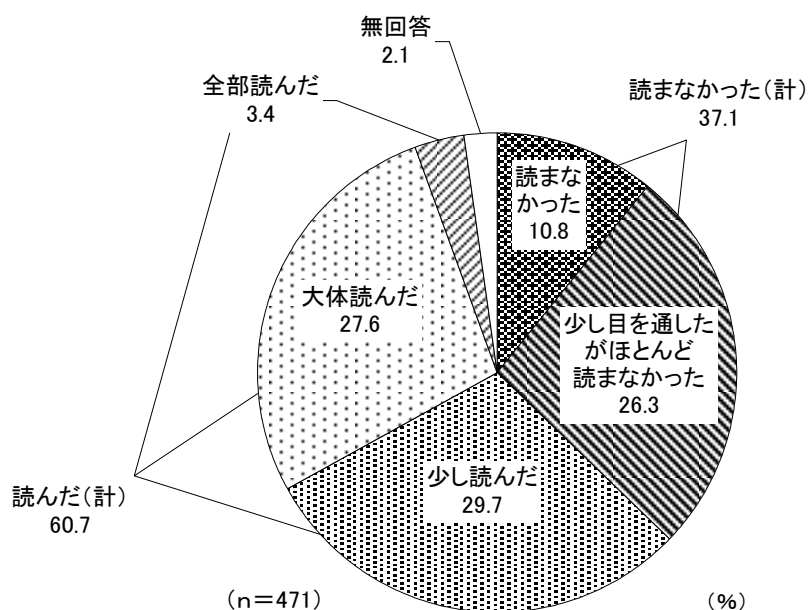


(4) 自殺対策に関する啓発物を見た時の対応

(問17で「はい(見聞きしたことがある)」に○をつけた方に質問です)

問17-3 自殺対策に関する啓発物をご覧になった時、あなたは怎么样了か。(○は1つ)

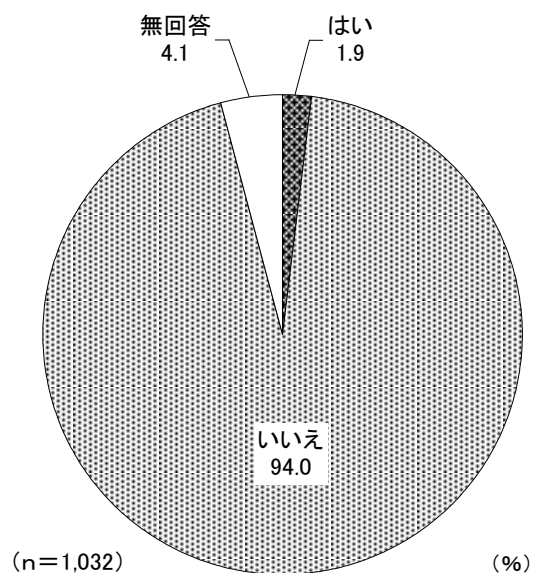
自殺対策に関する啓発物を見た時の対応は、「少し読んだ」(29.7%)、「大体読んだ」(27.6%)、「全部読んだ」(3.4%)の3つを合わせた『読んだ(計)』は60.7%となっている。一方、「読まなかった」(10.8%)と「少し目を通したがほとんど読まなかった」(26.3%)を合わせた『読まなかった(計)』は37.1%となっている。



(5) 講演会や講習会への参加の有無

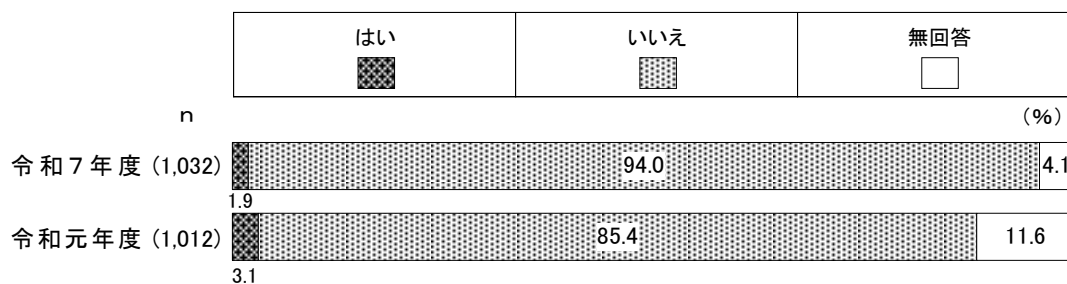
問18 こころの健康づくり講演会など自殺対策に関する講演会や講習会に参加したことがありますか。(○は1つ)

講演会や講習会への参加の有無は、「はい」が1.9%、「いいえ」は94.0%となっている。



【経年比較】

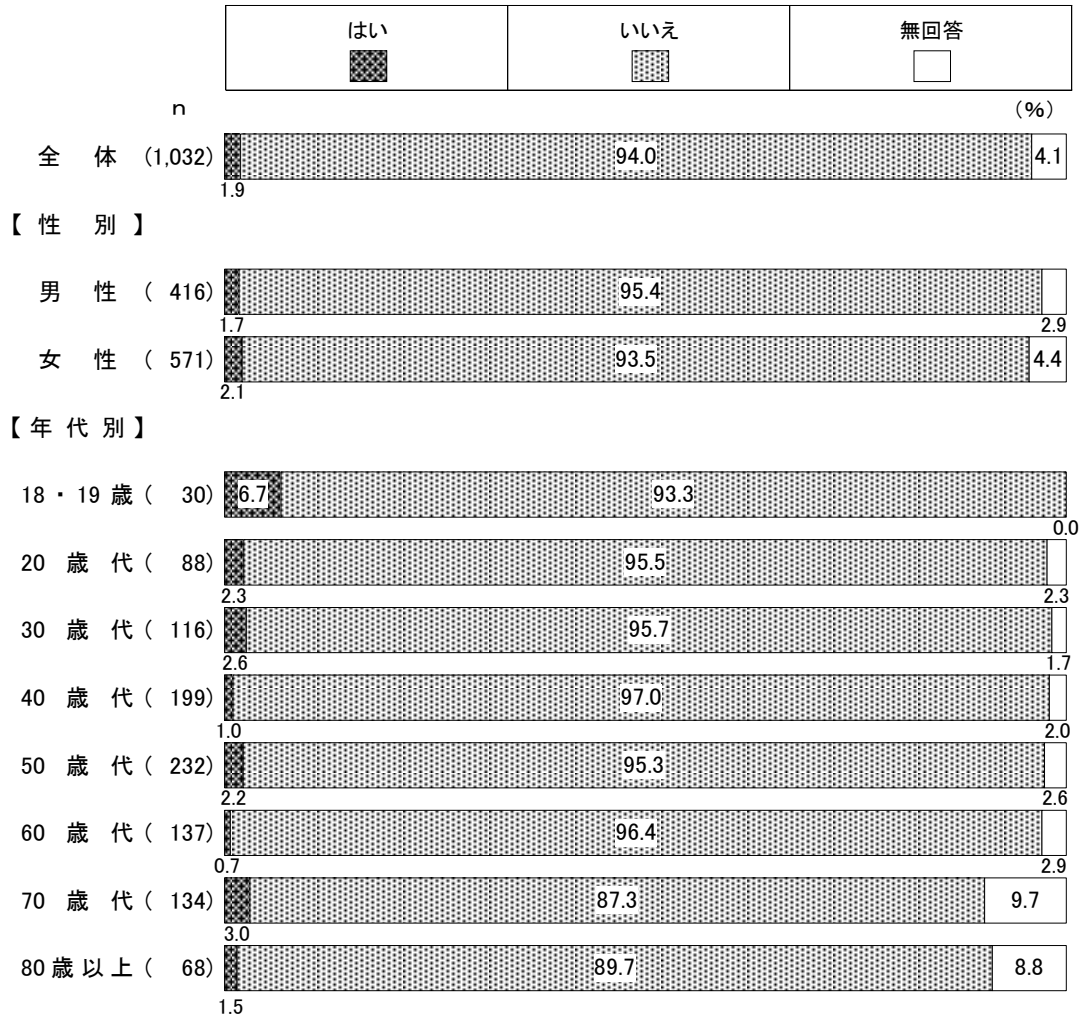
過去の調査と比較すると、「いいえ」は令和元年度調査より8.6ポイント増加している。



【講演会や講習会への参加の有無（性別、年代別）】

性別で見ると、大きな違いはみられない。

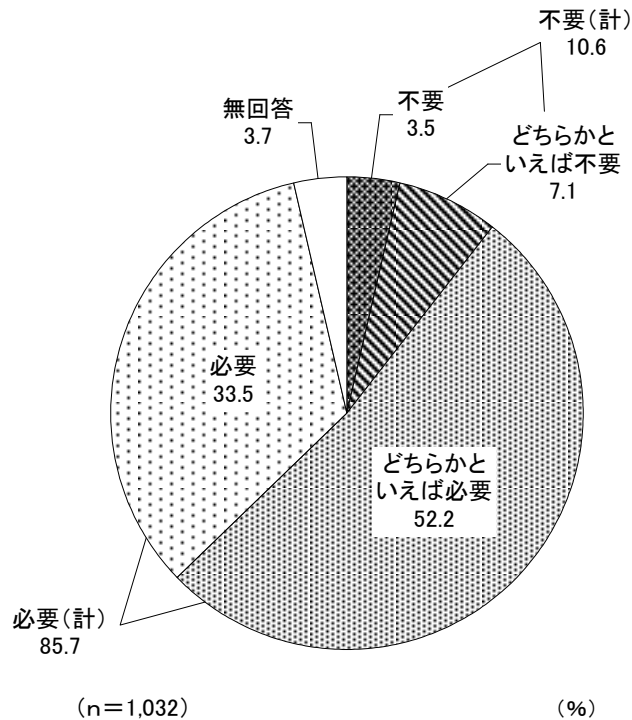
年代別で見ると、「いいえ」は60歳代以下の年代で9割台と高くなっている。



(6) 自殺対策に関するPR活動

問19 自殺対策に関するPR活動（啓発物や講演会など）についてどのように思いますか。
 (○は1つ)

自殺対策に関するPR活動は、「どちらかといえば必要」(52.2%)と「必要」(33.5%)を合わせた『必要(計)』は85.7%となっている。一方、「不要」(3.5%)と「どちらかといえば不要」(7.1%)を合わせた『不要(計)』は10.6%となっている。



【経年比較】

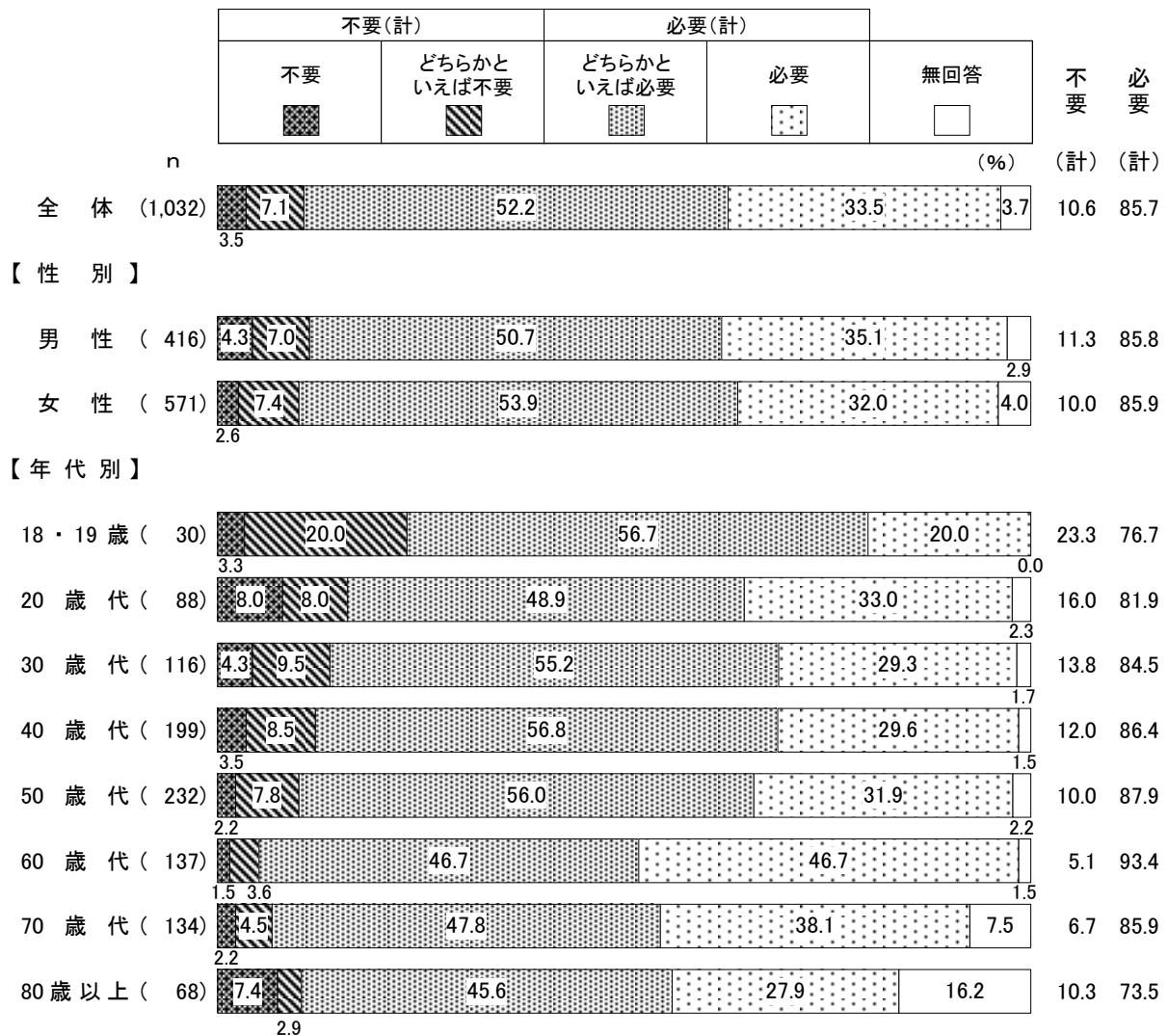
過去の調査と比較すると、『必要(計)』は令和元年度調査より8.1ポイント増加している。

	不要(計)		必要(計)		無回答	不要(計)	必要(計)
	不要	どちらかといえば不要	どちらかといえば必要	必要			
令和7年度 (1,032)	7.1	3.5	52.2	33.5	3.7	10.6	85.7
令和元年度 (1,012)	3.9	8.6	47.4	30.2	9.9	12.5	77.6

【自殺対策に関するPR活動（性別、年代別）】

性別でみると、「どちらかといえば必要」は女性（53.9%）が男性（50.7%）より3.2ポイント高くなっている。一方、「必要」は男性（35.1%）が女性（32.0%）より3.1ポイント高くなっている。

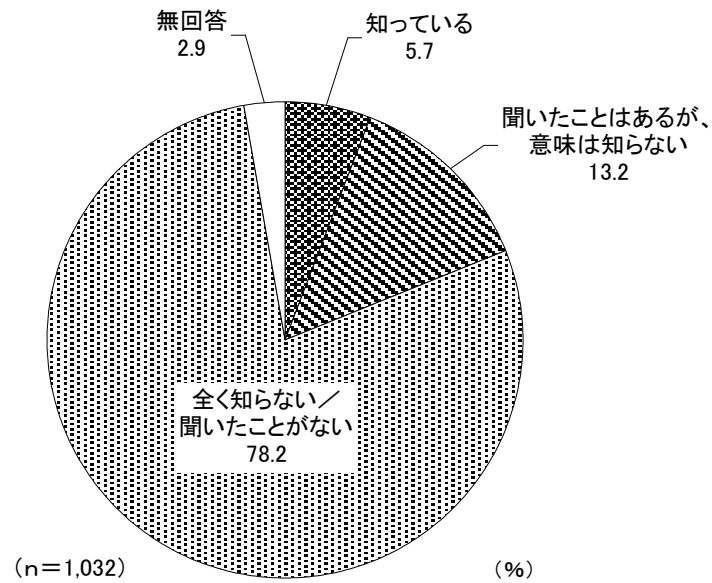
年代別でみると、『不要（計）』は18・19歳で23.3%と高くなっている。一方、『必要（計）』は60歳代で93.4%と高くなっている。



(7) ゲートキーパー（命の門番）の認知度

問20 あなたは、ゲートキーパー（命の門番）についてご存知ですか。（〇は1つ）

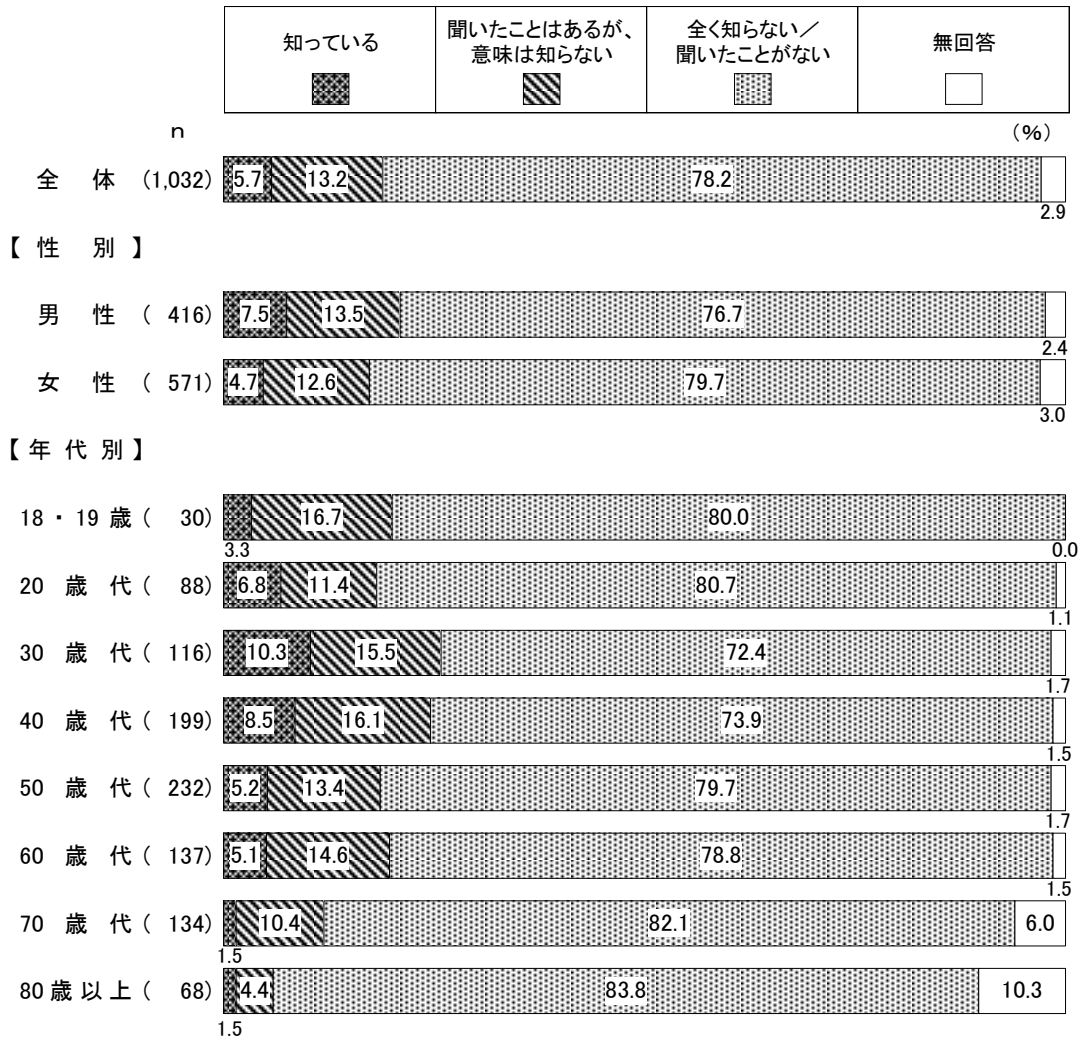
ゲートキーパー（命の門番）の認知度は、「知っている」が5.7%、「聞いたことはあるが、意味は知らない」は13.2%となっている。一方、「全く知らない／聞いたことがない」は78.2%となっている。



【ゲートキーパー（命の門番）の認知度（性別、年代別）】

性別で見ると、「全く知らない／聞いたことがない」は女性（79.7%）が男性（76.7%）より3.0ポイント高くなっている。

年代別で見ると、「全く知らない／聞いたことがない」は80歳以上で83.8%、70歳代で82.1%と高くなっている。

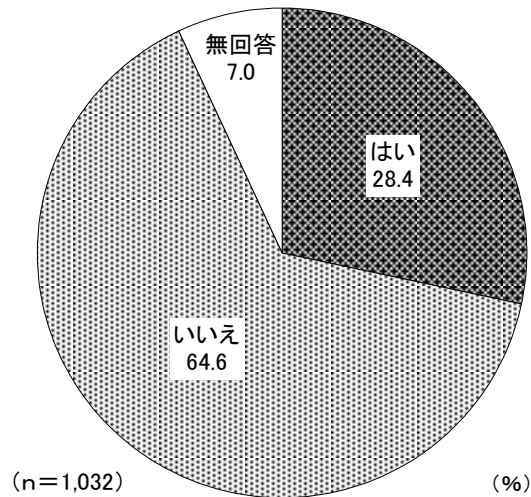


7. 自死遺族への支援について

(1) 周りで自殺（自死）した人の有無

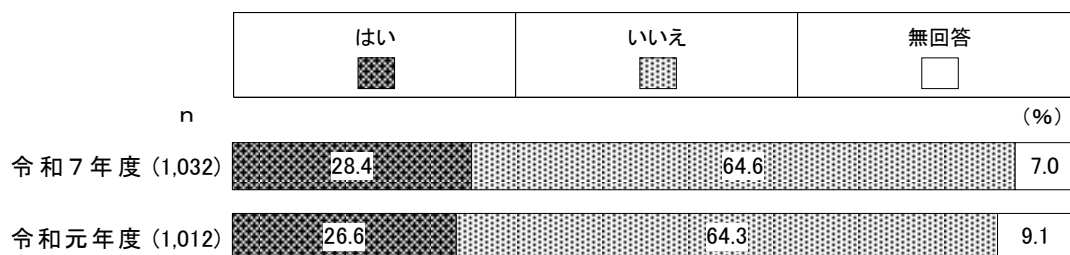
問21 あなたの周りで自殺（自死）をした方はいらっしゃいますか。（○は1つ）

周りで自殺（自死）した人の有無は、「はい」が28.4%、「いいえ」は64.6%となっている。



【経年比較】

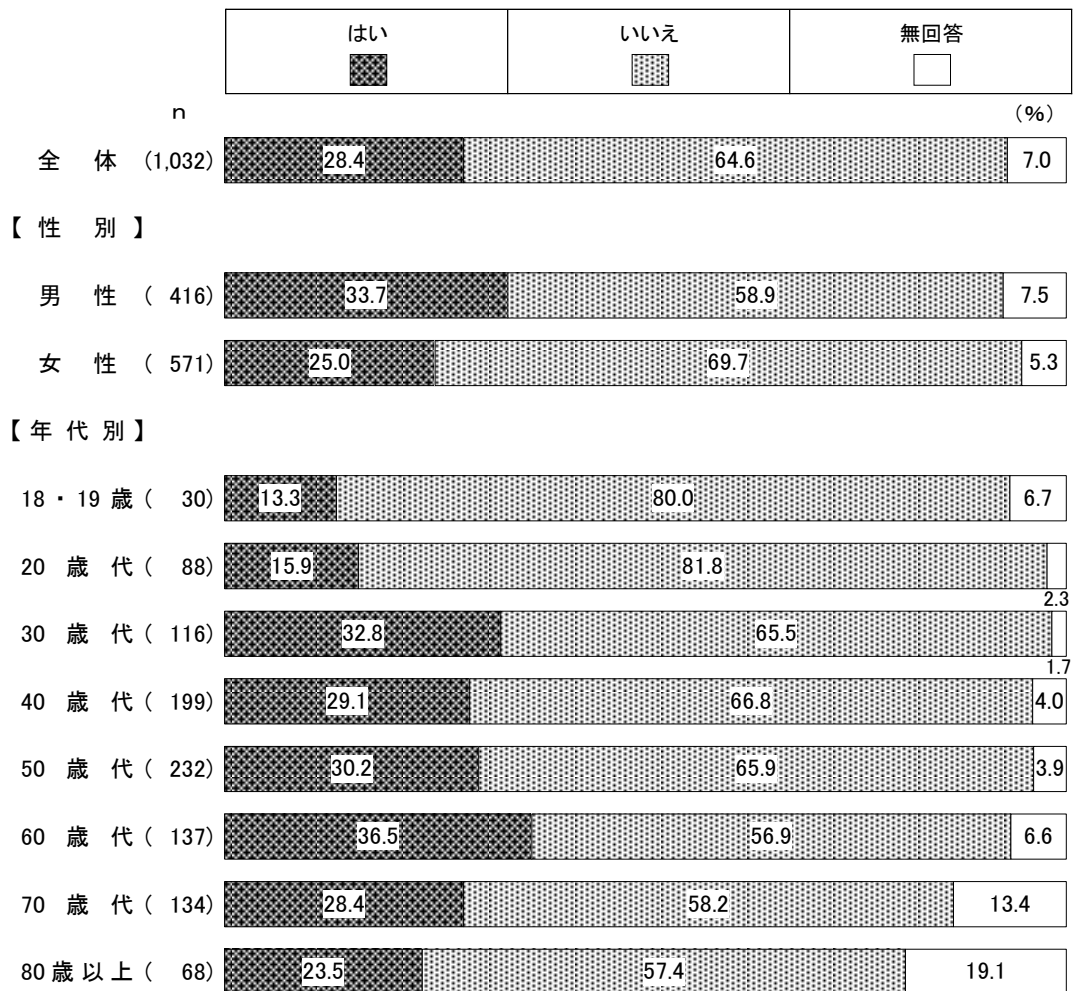
過去の調査と比較すると、令和元年度調査から大きな変化はみられない。



【周りで自殺（自死）した人の有無（性別、年代別）】

性別で見ると、「はい」は男性（33.7%）が女性（25.0%）より8.7ポイント高くなっている。

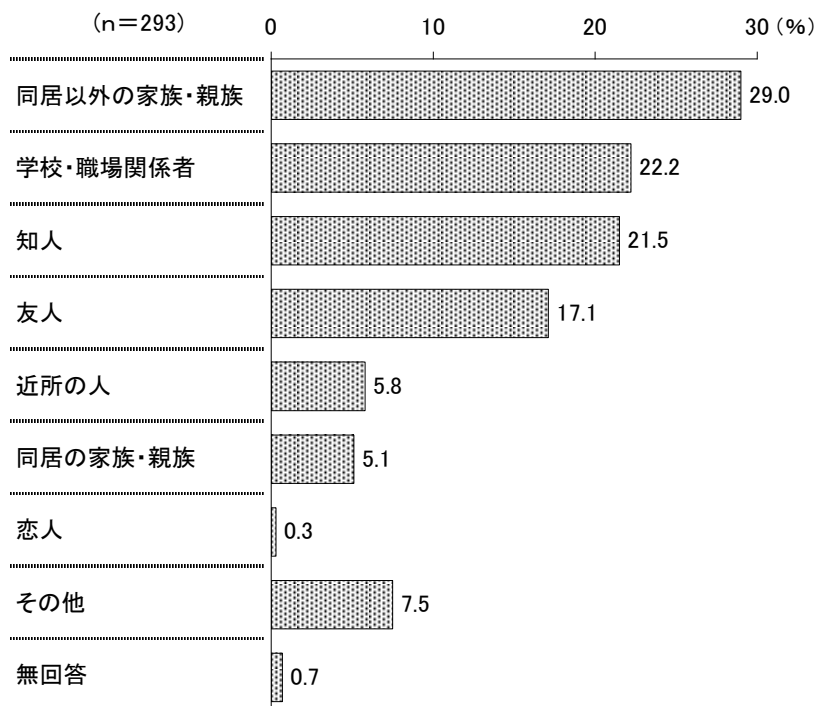
年代別で見ると、「はい」は60歳代で36.5%と高くなっている。一方、「いいえ」は20歳代で81.8%、18・19歳で80.0%と高くなっている。



(2) 周りで自殺（自死）した人との関係

(問21で「はい（周りで自殺（自死）をした方がいる）」に○をつけた方に質問です)
問21-1 あなたの周りで自殺（自死）をした方はどなたですか。(○はいくつでも)

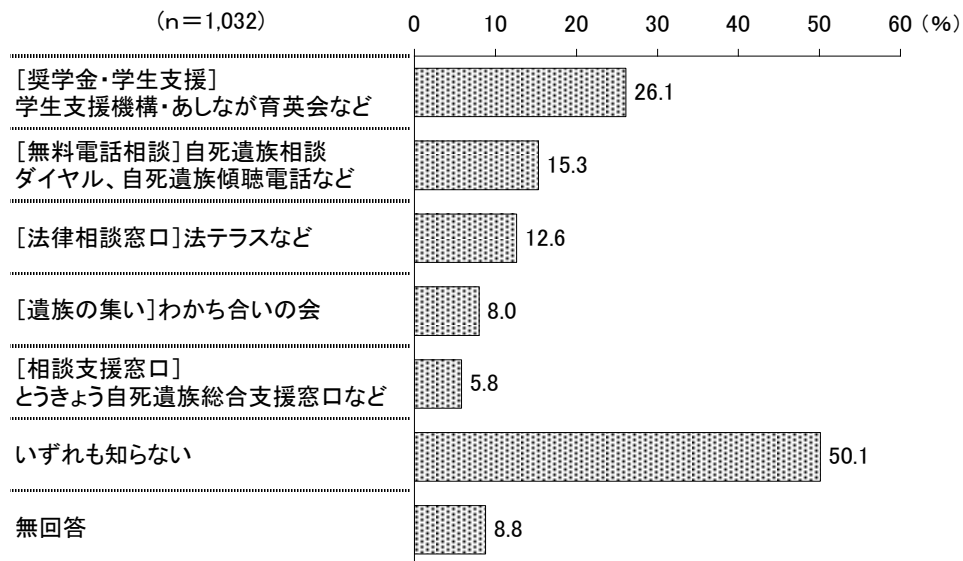
周りで自殺（自死）した人との関係は、「同居以外の家族・親族」が29.0%で最も高く、次いで「学校・職場関係者」(22.2%)、「知人」(21.5%)、「友人」(17.1%)となっている。



(3) 自死遺族の支援について知っていること

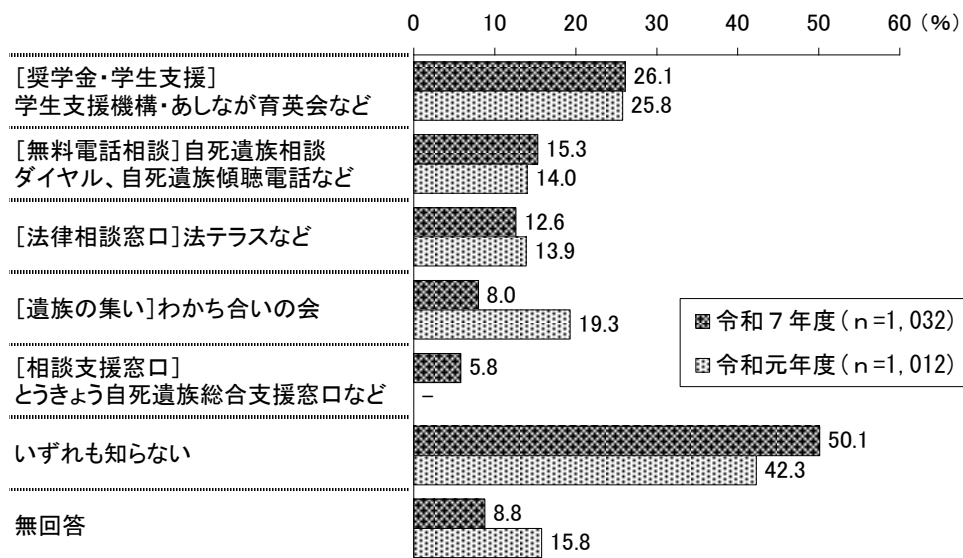
問22 自死遺族の支援について、ご存知のものはありますか。(〇はいくつでも)

自死遺族の支援について知っていることは、「[奨学金・学生支援] 学生支援機構・あしなが育英会など」が26.1%で最も高く、次いで「[無料電話相談] 自死遺族相談ダイヤル、自死遺族傾聴電話など」(15.3%)、「[法律相談窓口] 法テラスなど」(12.6%)、「[遺族の集い] わかち合いの会」(8.0%)となっている。一方、「いずれも知らない」は50.1%となっている。



【経年比較】

過去の調査と比較すると、「いずれも知らない」は令和元年度調査より7.8ポイント増加している。一方、「[遺族の集い] わかち合いの会」は令和元年度調査より11.3ポイント減少している。

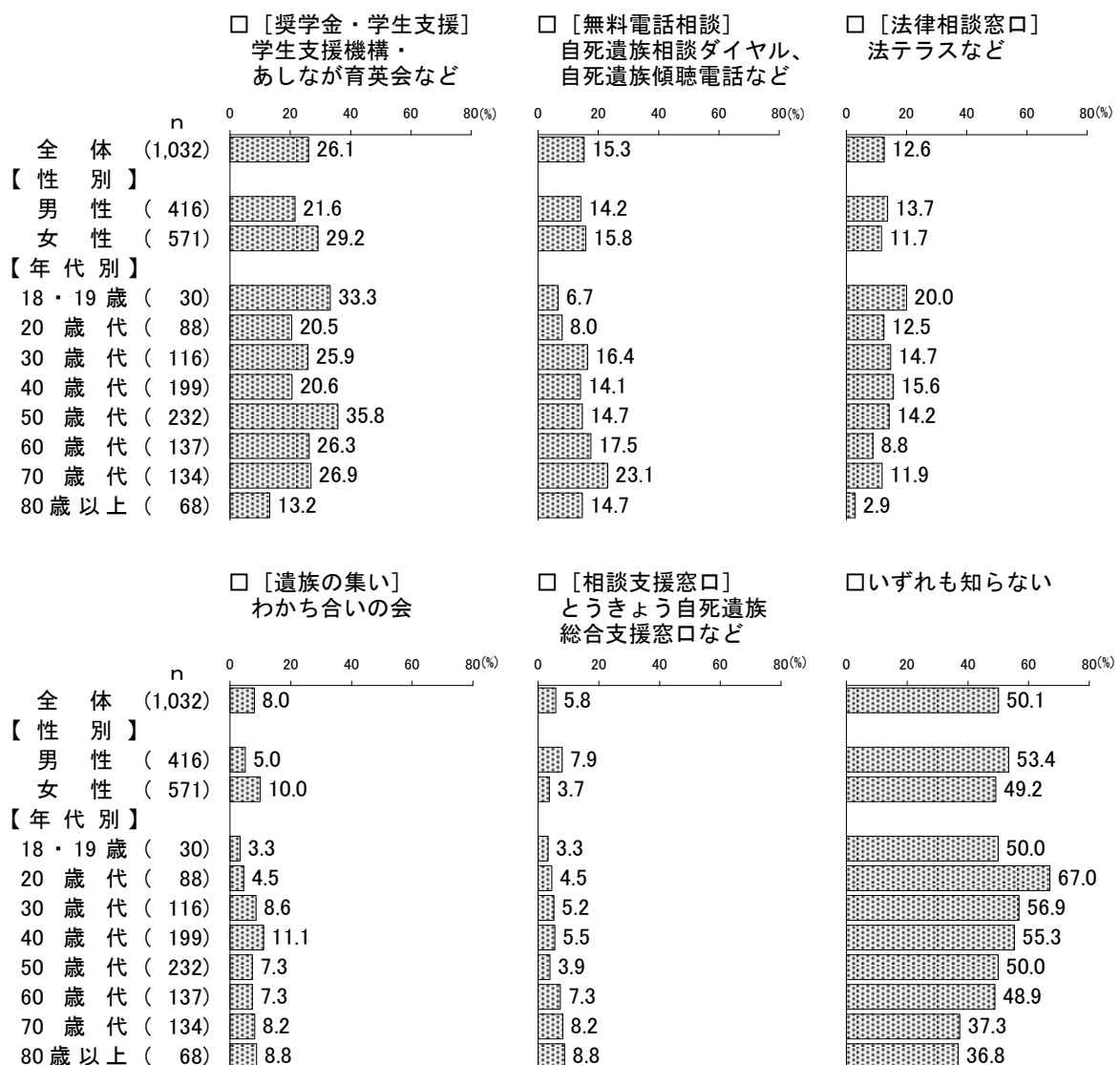


※ 「[相談支援窓口] とうきょう自死遺族総合支援窓口など」は令和7年度調査から追加された選択肢

【自死遺族の支援について知っていること（性別、年代別）】

性別でみると、「[奨学金・学生支援] 学生支援機構・あしなが育英会など」は女性（29.2%）が男性（21.6%）より7.6ポイント、「[遺族の集い] わかち合いの会」は女性（10.0%）が男性（5.0%）より5.0ポイント、それぞれ高くなっている。一方、「[相談支援窓口] とうきょう自死遺族総合支援窓口など」は男性（7.9%）が女性（3.7%）より4.2ポイント、「いずれも知らない」は男性（53.4%）が女性（49.2%）より4.2ポイント、それぞれ高くなっている。

年代別でみると、「[奨学金・学生支援] 学生支援機構・あしなが育英会など」は50歳代で35.8%、18・19歳で33.3%と高くなっている。「[無料電話相談] 自死遺族相談ダイヤル、自死遺族傾聴電話など」は70歳代で23.1%と高くなっている。「いずれも知らない」は20歳代で67.0%と高くなっている。

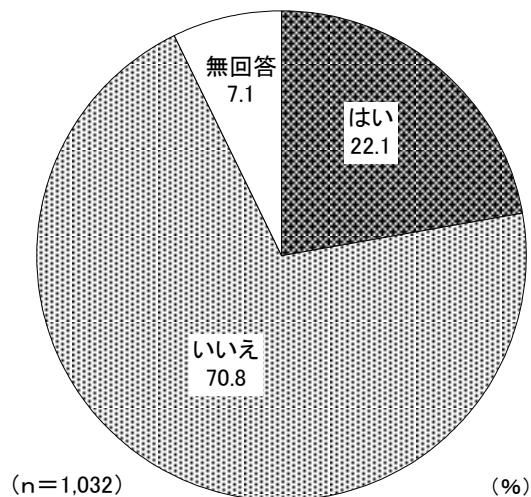


8. 自分自身が自殺を考えたことについて

(1) 自殺をしたいと考えたことの有無

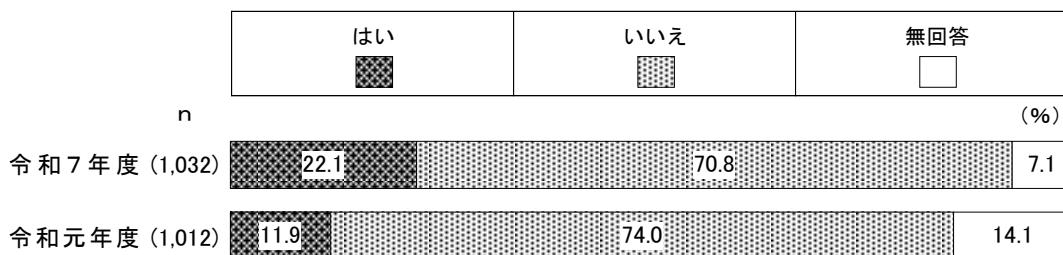
問23 あなたはこれまでに、自殺をしたいと考えたことはありますか。(〇は1つ)

自殺をしたいと考えたことの有無は、「はい」が22.1%、「いいえ」は70.8%となっている。



【経年比較】

過去の調査と比較すると、「はい」は令和元年度調査より10.2ポイント増加している。



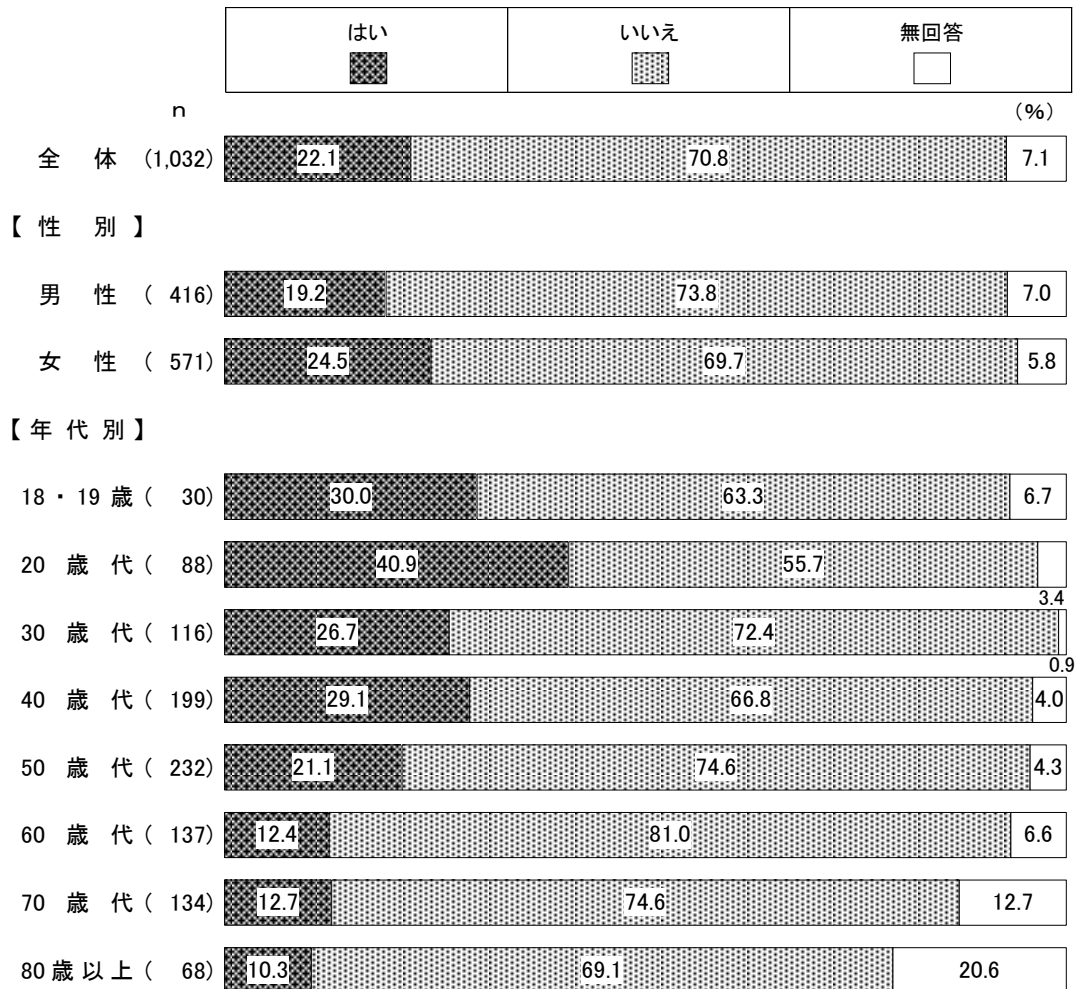
※令和元年度調査の「はい」の値は、「この1年以内に本気で自殺をしたいと考えたことがある (1.6%)」、「ここ5年くらいの間本気で自殺をしたいと考えたことがある (1.9%)」、「5年～10年前に本気で自殺をしたいと考えたことがある (2.0%)」、「10年以上前に本気で自殺をしたいと考えたことがある (6.4%)」の4つを合わせた値

※「いいえ」は、令和元年度調査では「これまでに本気で自殺をしたいと考えたことはない」の値

【自殺をしたいと考えたことの有無（性別、年代別）】

性別で見ると、「はい」は女性（24.5%）が男性（19.2%）より5.3ポイント高くなっている。

年代別で見ると、「はい」は20歳代で40.9%と高くなっている。一方、「いいえ」は60歳代で81.0%と高くなっている。

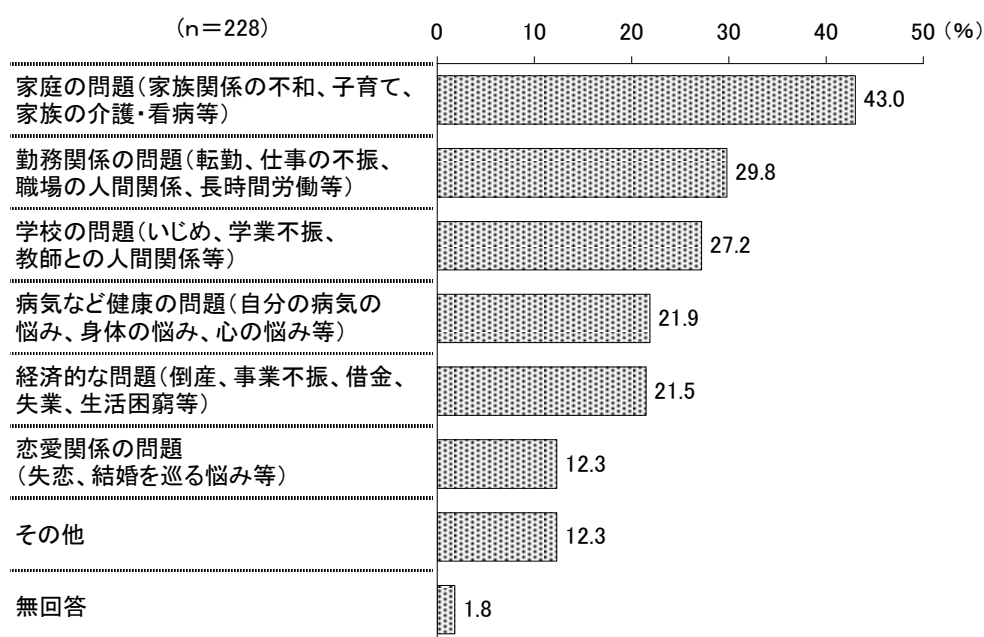


(2) 自殺をしたいと考えた理由や原因

(問23で「はい(自殺をしたいと考えたことがある)」に○をつけた方に質問です)

問23-1 自殺をしたいと考えた理由や原因はどのようなことでしたか。(○はいくつでも)

自殺をしたいと考えた理由や原因は、「家庭の問題(家族関係の不和、子育て、家族の介護・看病等)」が43.0%で最も高く、次いで「勤務関係の問題(転勤、仕事の不振、職場の人間関係、長時間労働等)」(29.8%)、「学校の問題(いじめ、学業不振、教師との人間関係等)」(27.2%)、「病気など健康の問題(自分の病気の悩み、身体の悩み、心の悩み等)」(21.9%)となっている。



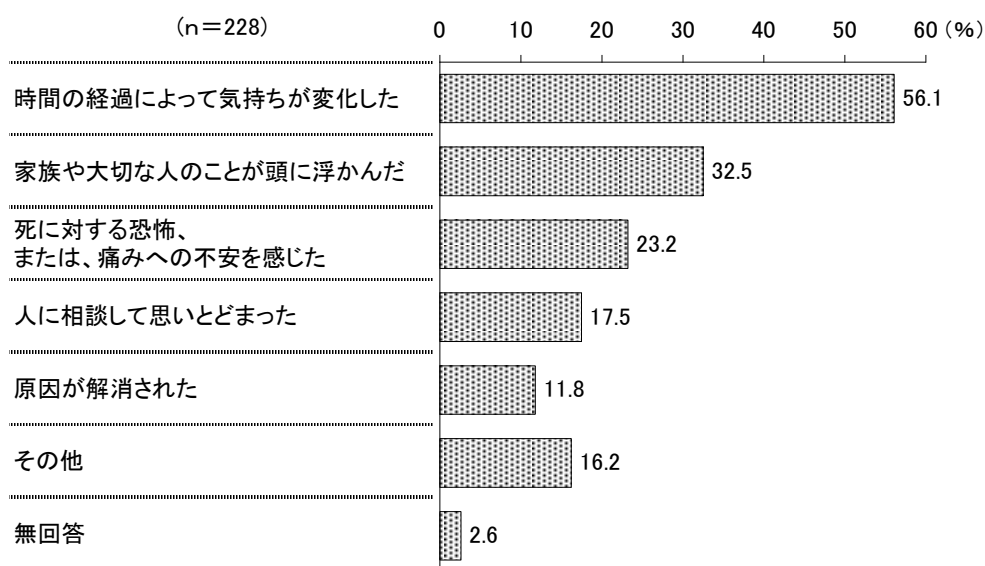
(3) 自殺を思いとどまった理由

(問23で「はい(自殺をしたいと考えたことがある)」に○をつけた方に質問です)

問23-2 自殺をしたいという考えを思いとどまったのはどのようなことからですか。

(○はいくつでも)

自殺を思いとどまった理由は、「時間の経過によって気持ちが変わった」が56.1%で最も高く、次いで「家族や大切な人のことが頭に浮かんだ」(32.5%)、「死に対する恐怖、または、痛みへの不安を感じた」(23.2%)、「人に相談して思いとどまった」(17.5%)となっている。

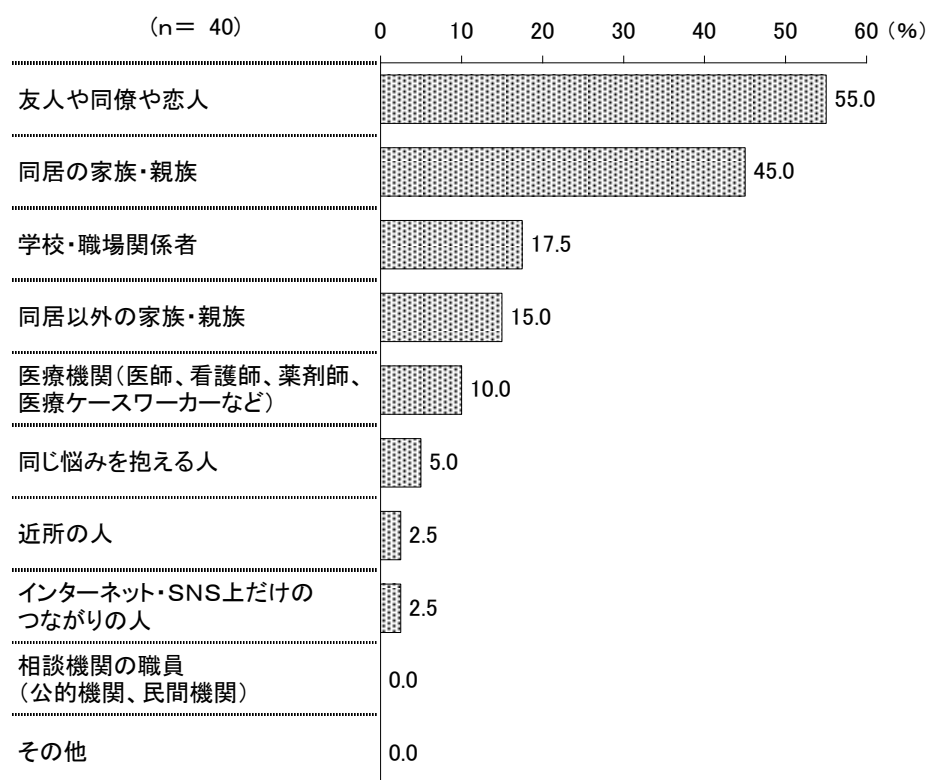


(4) 自殺をしたいと思った時の相談相手

(問23-2で「人に相談して思いとどまった」に○をつけた方に質問です)

問23-3 相談した相手の方はどこなりましたか。(○はいくつでも)

自殺をしたいと思った時の相談相手は、「友人や同僚や恋人」が55.0%で最も高く、次いで「同居の家族・親族」(45.0%)、「学校・職場関係者」(17.5%)、「同居以外の家族・親族」(15.0%)、「医療機関(医師、看護師、薬剤師、医療ケースワーカーなど)」(10.0%)となっている。



こころの健康に関する市民アンケート調査

【調査ご協力をお願い】

日頃から市政にご理解とご協力をいただき、厚くお礼申し上げます。
さて、今回、皆様をお願いするアンケート調査は、市民の皆様が心身ともに健康に暮らしていけるように支援していくための基礎資料とするものです。

調査にあたり、市内にお住まいの18歳以上の方から3,000人を無作為に抽出し、本調査票を送付させていただきました。

このアンケートは無記名のため、個人が特定されることはありません。また、調査結果はすべて統計的な数値として取りまとめますので、プライバシーに関わる内容が公表されることはありません。

ご多忙のところお手数をおかけしますが、調査の趣旨をご理解いただき、アンケート調査にご協力いただきますようお願い申し上げます。

令和7年10月

東大和市長 和地 仁美

ご記入にあたってのお願い

- あなたご自身のお考えや、日ごろお感じになっていることを率直にご回答ください。
- ご回答にあたり、特に説明のない限り当てはまる項目を選び、その番号を○で囲んでください。
- 設問には(○は1つ)、(それぞれに○は1つ)、(○はいくつでも)と書いてありますので、それにしたがってお答えください。
- ご回答が「その他」に当てはまる場合は、()内になるべく具体的に内容をご記入ください。
- 一部の方だけにお答えいただく設問もありますので、その場合は矢印(⇒)等にしたがってお答えください。

回答期限

2025(令和7)年11月7日(金)まで [消印有効]

回答方法

① 郵送

- 紙の調査票へご記入後、同封の返信用封筒でご返送ください。切手は貼付不要です。

② WEB フォーム

- 下記 URL からご回答ください。(通信料はご負担ください)
- 1問目に下記入力番号(6桁)を必ずご入力ください。

WEB フォーム URL ・インターネットでご回答いただく場合の入力番号

(この番号はランダムで付与されており、個人を特定するものではありません)

WEB フォーム URL:

<https://logoform.jp/f/5paRJ>



【問合せ】 東大和市 健福祉部 健康推進課 庶務係
〒207-0015 東大和中央 3-918-1 東大和市長保健センター
電話:042(565)5211 FAX:042(561)0711 |

I はじめに、あなた自身のことについておたずねします

問1 あなたの性別を教えてください。(○は1つ)

1 男性	2 女性	3 その他	4 答えたくない
------	------	-------	----------

問2 あなたの年齢(令和7年10月1日現在)を教えてください。(○は1つ)

1 18・19歳	4 40歳代	7 70歳代
2 20歳代	5 50歳代	8 80歳以上
3 30歳代	6 60歳代	

問3 あなたがお住まいの地区を教えてください。(○は1つ)

1 多摩湖	6 高木	11 立野	16 清原
2 芋窪	7 狭山	12 中央	17 新堀
3 蔵敷	8 清水	13 南街	
4 奈良橋	9 上北台	14 仲原	
5 湖畔	10 桜が丘	15 向原	

問4 東大和市での居住年数はどのくらいですか。(○は1つ)

1 5年未満	4 20年以上
2 5年以上	5 30年以上
3 10年以上	

問5 あなたの家の世帯構成を教えてください。(○は1つ)

1 単身世帯	4 親と子と孫(3世代)
2 夫婦のみ	5 その他
3 親と子(2世代)	(具体的に_____)

問6 あなたの主たる職業を教えてください。(○は1つ)

1 自営業(事業経営・個人商店など)	5 無職
2 会社員・公務員(常勤)	6 学生
3 契約社員・派遣社員(非正規雇用)	7 その他
4 パート・アルバイト	(具体的に_____)

問7 ご家庭の家計の余裕はどの程度ありますか。(○は1つ)

1 全く余裕がない	4 ある程度余裕がある
2 あまり余裕がない	5 かなり余裕がある
3 どちらともいえない	6 分からない

問 11 あなたは日常生活の悩みや苦勞、ストレス、不満を解消するために、次のことをどのくらいしますか。(それぞれに○は1つ)

設 問		全くしない	あまりしない	時々する	よくする
a	運動する	1	2	3	4
b	お酒を飲む	1	2	3	4
c	睡眠をとる	1	2	3	4
d	人に話を聞いてもらう	1	2	3	4
e	趣味やレジャーを楽しむ	1	2	3	4
f	我慢して時間が経つのを待つ	1	2	3	4
g	その他(具体的に_____)				

III 人に相談することについておたずねします

問 12 あなたは悩みがある時やストレスを感じた時に、どう考えますか。(○は1つ)

- | | | |
|---|---------------|-------------|
| 1 | 誰かに相談したいと思う | ⇒問 12-1 へ |
| 2 | 誰にも相談したいと思わない | ⇒問 12-2、3 へ |

問 12-1 [問 12 で「1 誰かに相談したいと思う」に○をつけた方に質問です]

あなたが相談したい人、または実際に相談したことがある人はどなたですか。
(○はいくつでも)

1	家族や親族
2	友人や同僚や恋人
3	職場の上司
4	近所の人
5	先生・恩師
6	医療機関の職員(医師、看護師、薬剤師、医療ケースワーカーなど)
7	公的な相談機関(市役所、保健所、教育相談室など)の職員
8	市等が開催する各種相談の専門相談員(法律などの市民相談、消費生活相談など)
9	社会福祉法人や民間の相談機関の相談員 (社会福祉協議会、そえる、高齢者ほっと支援センター、高齢者見守りぼっくす、総合福祉センターは〜とふる、地域生活支援センターウエルカムなど)
10	同じ悩みを抱える人
11	インターネット・SNS 上だけのつながりの人
12	その他(具体的に_____)

問 12-2 [問 12 で「2 誰にも相談したいと思わない」に○をつけた方に質問です]
相談したいと思わない理由はなんですか。(○はいくつでも)

- 1 誰かに相談することは恥ずかしい
- 2 悩みやストレスを感じていることを、他人に知られたくない
- 3 誰かに悩みを相談することは、弱い人のすることだと思う
- 4 悩みや問題は、自分ひとりで解決すべきだと思う
- 5 自分の気持ちを表現することが苦手で、うまく言葉にできない
- 6 相談窓口や相談方法がわからない
- 7 その他(具体的に_____)

問 12-3 [問 12 で「2 誰にも相談したいと思わない」に○をつけた方に質問です]
あなたが過去に相談したことがある人はいますか。(○はいくつでも)

- 1 家族や親族
- 2 友人や同僚や恋人
- 3 職場の上司
- 4 近所の人
- 5 先生・恩師
- 6 医療機関の職員(医師、看護師、薬剤師、医療ケースワーカーなど)
- 7 公的な相談機関(市役所、保健所、教育相談室など)の職員
- 8 市等が開催する各種相談の専門相談員(法律などの市民相談、消費生活相談など)
- 9 社会福祉法人や民間の相談機関の相談員
(社会福祉協議会、そえる、高齢者ほっと支援センター、高齢者見守りぼっくす、総合福祉センターは〜とふる、地域生活支援センターウエルカムなど)
- 10 同じ悩みを抱える人
- 11 インターネット・SNS 上だけのつながりの人
- 12 その他(具体的に_____)

問 13 あなたは悩みやストレスを感じた時に、以下 a～f の方法を利用したことがありますか。または、利用したいと思いますか。(それぞれに○は1つ)

設 問		利用したことがある	実際にしたことはないが 利用したいと思う	利用しないと思う
a	直接会って相談する（訪問相談を含む）	1	2	3
b	電話で相談する	1	2	3
c	メールで相談する	1	2	3
d	個人間のやりとりができる SNS を利用して相談する（例：LINE など）	1	2	3
e	不特定の人に見てもらえるようにインターネットや SNS に投稿する（例：X (Twitter)、掲示板など）	1	2	3
f	インターネットを利用して解決法を検索する	1	2	3
g	その他（具体的に_____）			

IV 相談を受けることについておたずねします

問 14 理由は分からないけれども、身近な人がいつもと違った様子でつらそうに見えた時に、あなたはどのように対応しますか。最も当てはまる対応を教えてください。(○は1つ)

1	相手が相談をしてくるまで何もしないで待つ
2	心配していることを伝えて見守る
3	自分から声をかけて話を聞く
4	「元気を出して」と励ます
5	前もって相談先を探しておく
6	その他（具体的に_____）

V 自殺に関するお考えについておたずねします

問 15 あなたは「自殺」についてどのように思いますか。(それぞれに○は1つ)

設 問	そう 思わ ない	ど ち ら か と い う と そ う 思 わ な い	ど ち ら と も い え な い	ど ち ら か と い う と そ う 思 う	そ う 思 う
a 生死は最終的には本人の判断に任せるべき	1	2	3	4	5
b 自殺せずに生きていれば良いことがある	1	2	3	4	5
c 自殺(未遂)は繰り返されるので、周囲の人が止めることはできない	1	2	3	4	5
d 自殺する人は、よほどつらいことがあったのだと思う	1	2	3	4	5
e 自殺は自分にはあまり関係がない	1	2	3	4	5
f 自殺は本人の弱さから起こる	1	2	3	4	5
g 自殺は本人が選んだことだから仕方がない	1	2	3	4	5
h 自殺を口にする人は、本当には自殺しない	1	2	3	4	5
i 自殺は恥ずかしいことである	1	2	3	4	5
j 防ぐことができる自殺も多い	1	2	3	4	5
k 自殺をしようとする人の多くは、何らかのサインを発している	1	2	3	4	5
l 自殺を考える人は、様々な問題を抱えていることが多い	1	2	3	4	5
m 自殺を考える人の多くは、精神的に追い詰められて他の方法を思いつかなくなっている	1	2	3	4	5

問 16 もし身近な人から「死にたい」と打ち明けられた時、あなたはどのように対応しますか。最も当てはまる対応を教えてください。(○は1つ)

1 「頑張って」と励ます	7 解決策と一緒に考える
2 「死んではいけない」と説得する	8 一緒に相談機関を探す
3 「死にたいくらい辛いんだね」と共感する	9 医療機関にかかるよう勧める
4 耳を傾けてじっくりと話を聞く	10 何もしない
5 どうしたらよいか分からない／戸惑う	11 その他
6 話題を変える、もしくは、相談に乗らない	()

VI 自殺対策・予防等についておたずねします

問 17 あなたはこれまで自殺対策に関する啓発物を見たり聞いたりしたことがありますか。
(○は1つ)

- | | |
|--------------------|---------------|
| 1 はい ⇒問 17-1、2、3 へ | 2 いいえ ⇒問 18 へ |
|--------------------|---------------|

問 17-1 あなたがこれまで見たり聞いたりしたことのある自殺対策に関する啓発物は何ですか。
(○はいくつでも)

- | | |
|----------------------|--------------------|
| 1 こころの体温計(※)のちらし、カード | 6 のぼり・パネル、横断幕 |
| 2 ポスター | 7 Web 広告 |
| 3パンフレット・ちらし | 8 ティッシュ等のキャンペーングッズ |
| 4 広報誌 | 9 その他 |
| 5 テレビCMやラジオ放送 | (_____) |

※「こころの体温計」は、パソコンやスマホなどの端末から、ストレスや落ち込み度を気軽にセルフチェックできるツールです。東大和市公式ホームページからアクセスできます。
URL: <http://fishbowlindex.jp/higashiyam/>



問 17-2 その自殺対策に関する啓発物は、どこでご覧になりましたか。(○はいくつでも)

- | | |
|-----------------------------|------------|
| 1 市役所(図書館、保健センター)等の
公共施設 | 5 自宅 |
| 2 医療機関 | 6 職場・学校 |
| 3 駅、電車・バス等の公共交通機関 | 7 インターネット上 |
| 4 スーパー・コンビニ等の店舗 | 8 その他 |
| | (_____) |

問 17-3 自殺対策に関する啓発物をご覧になった時、あなたはどうしましたか。(○は1つ)

- | | |
|----------------------|---------|
| 1 読まなかった | 4 大体読んだ |
| 2 少し目を通したがほとんど読まなかった | 5 全部読んだ |
| 3 少し読んだ | |

問 18 こころの健康づくり講演会など自殺対策に関する講演会や講習会に参加したことがありますか。(○は1つ)

- | | |
|------|-------|
| 1 はい | 2 いいえ |
|------|-------|

問 19 自殺対策に関するPR活動(啓発物や講演会など)についてどのように思いますか。
(○は1つ)

- | | |
|--------------|--------------|
| 1 不要 | 3 どちらかといえば必要 |
| 2 どちらかといえば不要 | 4 必要 |

問 20 あなたは、ゲートキーパー(命の門番)についてご存知ですか。(○は1つ)

- | | |
|---------------------|-------------------|
| 1 知っている | 3 全く知らない/聞いたことがない |
| 2 聞いたことはあるが、意味は知らない | |

VII 自死遺族への支援についておたずねします

「自殺」は遺されたご家族や身近な人に深い心の傷を残します。その心情に配慮し、「自殺」という言葉を使わず、「自死」という言葉を使うことがあり、そのご遺族を「自死遺族」といいます。

問 21 あなたの周りで自殺（自死）をした方はいらっしゃいますか。（○は1つ）

- | | |
|------------------|---------------|
| 1 はい ⇒問 21-1 へ ※ | 2 いいえ ⇒問 22 へ |
|------------------|---------------|

※次の設問は、問 21 でお答えいただいた方のおたずねしますが、ご気分を悪くされるなどお答えになりたくない場合はご無理なさらず、できる範囲でお答えください。

問 21-1 あなたの周りで自殺（自死）をした方はどなたですか。（○はいくつでも）

- | | |
|--------------|------------|
| 1 同居の家族・親族 | 5 学校・職場関係者 |
| 2 同居以外の家族・親族 | 6 近所の人 |
| 3 友人 | 7 知人 |
| 4 恋人 | 8 その他 |

問 22 自死遺族の支援について、ご存知のものがありますか。（○はいくつでも）

- | |
|----------------------------------|
| 1 [遺族の集い] わかち合いの会 |
| 2 [無料電話相談] 自死遺族相談ダイヤル、自死遺族傾聴電話など |
| 3 [相談支援窓口] とうきょう自死遺族総合支援窓口など |
| 4 [法律相談窓口] 法テラス(※)など |
| 5 [奨学金・学生支援] 学生支援機構・あしなが育英会など |
| 6 いずれも知らない |

※法テラス：正式名称は「日本司法支援センター」で、法的トラブル解決のための支援を行うために国が設立した機関。

第2章

「東大和市自殺対策計画」策定のための 事業者等アンケート調査

I 調査概要

1. 調査の目的

東大和市では、「第2次東大和市自殺対策計画」の策定にあたり、市民と関わりのある組織・団体等に調査を実施し、市民をはじめすべての人々が心身ともに健康に暮らしていけるように支援していくための基礎資料とするために調査を実施した。

2. 調査の方法

- (1) 調査地域 東大和市全域
- (2) 調査対象 行政、企業、学校、医療機関、支援機関、関連専門職など
- (3) 標本数 25団体
- (4) 調査方法 郵送配布、郵送回収及び電子申請によるインターネット回収
- (5) 調査期間 令和7年10月24日（金）～令和7年11月7日（金）

3. 回収結果

- (1) 標本数 25件
- (2) 有効回収数 25件（郵送回収8件、インターネット回収17件）
- (3) 有効回収率 100.0%

4. 調査の内容

- (1) 「自殺するのではないか」と感じる相談を受けたことの有無とその対応について
- (2) 自殺予防の対策・活動について
- (3) 自殺予防対策の問題点、課題について
- (4) 自殺予防対策についての関係機関との連携体制について
- (5) 自殺予防対策についての市への意見・要望

5. 報告書の見方

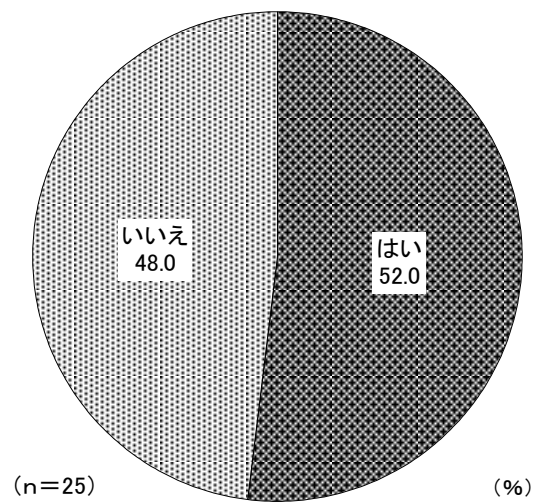
- (1) 比率はすべて百分比で表し、小数点以下第2位を四捨五入して算出した。このために、百分比の合計が100.0%にならないことがある。
- (2) 基数となるべき実数は（n）として掲載した。その比率は件数を100.0%として算出した。
- (3) 1人の回答者が複数回答で行う設問では、その比率の合計が100.0%を上回ることがある。
- (4) クロス集計では、分析軸の「無回答」を掲載していないため、分析軸における各項目の（n）の合計値と全体の数値が合わない場合がある。

Ⅱ 調査結果

(1) 自殺を疑うような相談を受けたことの有無

問1 あなたは、「自殺するのではないか」と感じる相談を受けたことがありますか。(相談は受けていなくても、行動や会話の中でそのように感じた場合も含みます。)(○は1つ)

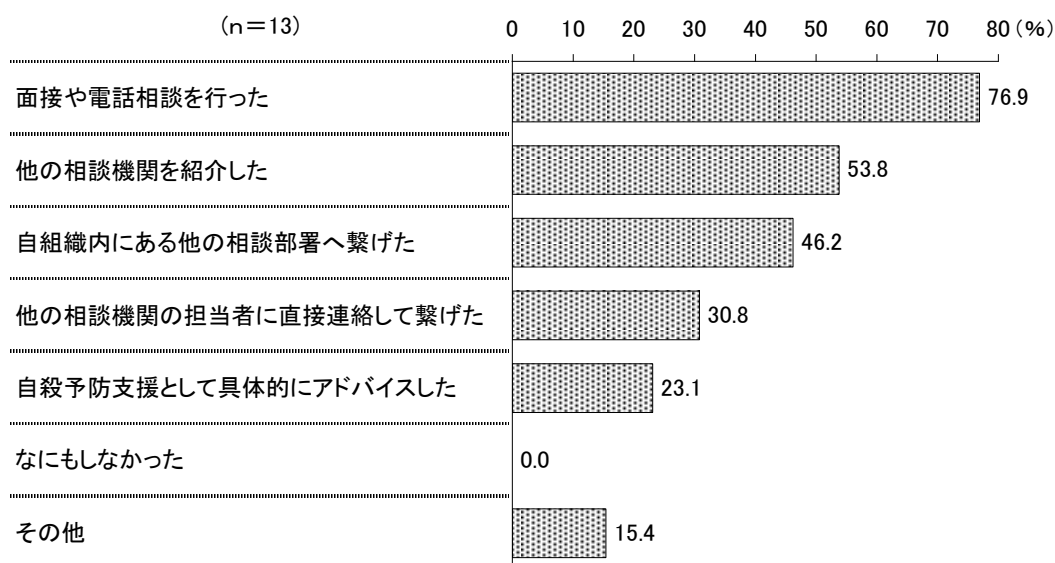
自殺を疑うような相談を受けたことの有無は、「はい」が52.0% (13団体)、「いいえ」は48.0% (12団体) となっている。



(2) 自殺を疑うような相談を受けた時の具体的な対応

(問1において「はい(相談を受けたことがある)」を選択した方にお伺いします)
問2 その時になにか具体的に対応はしましたか。(〇はいくつでも)

自殺を疑うような相談を受けた時の具体的な対応は、「面接や電話相談を行った」が76.9% (10団体) で最も高く、次いで「他の相談機関を紹介した」(53.8%・7団体)、「自組織内にある他の相談部署へ繋げた」(46.2%・6団体)、「他の相談機関の担当者に直接連絡して繋げた」(30.8%・4団体) となっている。

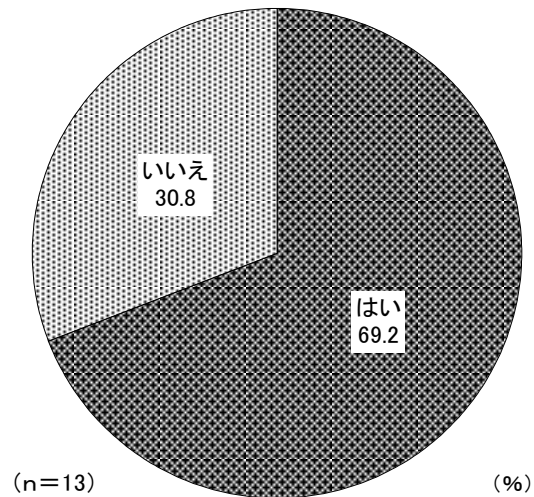


(3) 相談者との継続的な関わり

(問1において「はい(相談を受けたことがある)」を選択した方にお伺いします)

問3 その相談者とは、それ以降継続して関わっていますか。(〇は1つ)

相談者との継続的な関わりは、「はい」が69.2% (9団体)、「いいえ」は30.8% (4団体) となっている。



(4) 自殺予防対策・活動の取組みおよび取組みたい、取組む予定

問4 貴施設、貴機関、貴団体において自殺予防の対策・活動に取り組んでいますか。
また今後、新たに取組みたい、取組む予定の対策・活動はありますか。

自殺予防の対策・活動について、「実際に行っている取組み」を自由に回答してもらったところ、20団体から20件の回答が寄せられたので、回答を分類し、代表的な意見を抜粋して掲載する。

また、「今後、取組みたい、取組む予定の対策・活動」を自由に回答してもらったところ、9団体から9件の回答が寄せられたので、全て掲載する。

【実際に行っている取組み】

■学校での予防教育・啓発、相談環境整備（8件）

- ・ 長期休業前後に自殺防止にかかる指導や相談機関の周知を行っています。校内の相談室を人目につきにくい場所に移動し、校内に誰でも何でも相談箱を設置しました。
- ・ SOSの出し方教育や生命尊重の道徳授業。スクールカウンセラーとの連携。
- ・ 人権教育・いじめ防止教育・心の健康教育・心の相談ダイヤル等リーフレット配布。長期休み明けの悩みアンケートにて困りごとがある児童に直接聞き取りし、問題を一緒に解決する。

■相談支援・つなぎ支援（ゲートキーパー機能を含む）（4件）

- ・ リスクが高そうな方には、いのちの電話などについて案内している。
- ・ 相談の際、自死の危険性を感じた場合は、家計や生活状況、あるいは疾患のことなどを丁寧に聞き取り、それぞれの課題が解決できることを示しながら、相談者が危機的な状況を脱することができるように対応している。また、電話やSNSを利用して、相談できる機関を紹介している（夜間に利用できる相談窓口として）。相談者それぞれが抱える課題に応じて、丸投げにならないよう、当相談窓口でも相談に応じながら（相談に応じることができることを伝えながら）、より専門性の高い相談窓口を案内・紹介している。ケースによっては、アウトリーチを行い、相談者との関係構築に努めている。精神疾患の発症や罹患を感じた際は、医療機関への相談・受診、保健所などへの相談を促している。

■職員のメンタルヘルス対策（3件）

- ・ 厚生労働省の「こころの耳」の周知。
- ・ メンタルヘルス相談などを実施しており、職員が利用できる環境が整っている。

■地域での孤立防止・見守り活動（3件）

- ・ ケアラー支援事業。認知症・障害のある家族をケアし、孤立させないようサポートを行う。
- ・ 住み慣れた地域でだれもが支え合いながら安心して暮らすことのできる地域づくりを目指している。直接的な自殺予防対策ではないが、孤立や孤独を防ぐための地域づくりを進めている。例えば見守り・声かけ活動の推進、サロン活動、ボランティア養成など。

■その他（2件）

- ・ 外来・入院問わず、患者・家族の言動には職員1人1人が気をつけており、心配なことがあれば、連絡・共有するような環境はあります。

【今後、取組みたい、取組む予定の対策・活動】

- ・ 現在の取り組みを継続して推進。
- ・ 明るく風通しの良い職場環境を醸成。衛生的な環境づくり。
- ・ 児童のタブレットに相談機関のアイコンをつくり、必要な時に児童自らが相談しやすい環境をつくれます。
- ・ 性教育の体験授業を全学年実施していますが、保護者向けにも実施していきたいです。命の尊さを繰り返し伝え、悩みを相談しやすい環境をさらに作っていきます。
- ・ 学校として、いつも組織的に対応していきたいと思っている。
- ・ 定期的に関連した研修を行いたい。
- ・ 市民が住み慣れた地域で、いつまでも自分らしく安心して暮らせる地域社会をつくることを目的としています。地域共生社会の実現に向けた包括的支援体制を推進して、孤立・孤独対策や地域のつながり、支え合いの拡大・充実をさらに進めていく必要があると考えています。
- ・ 職員それぞれが、ゲートキーパーとしての役割を果たすことができるように、研修などへの参加で自殺対策の知識を深めたい。
- ・ ゲートキーパー養成研修への職員の参加。

(5) 自殺予防対策の問題点や課題

問5 自殺予防対策には、どのような問題点や課題があると思いますか。考えをお聞かせください。

自殺予防対策の問題点や課題を自由に回答してもらったところ、24団体から29件の回答が寄せられたので、回答を分類し、代表的な意見を抜粋して掲載する。

■現場の対応力・専門性の課題（8件）

- ・ 相談やつぶやきが届いた時の教職員の対応に理解不足な面があります。年次研修などで必ず研修できるようにするとよいと思います。
- ・ 対応の仕方が人それぞれだと思うので、慎重かつ迅速な対応が必要と思う。
- ・ アウトリーチなど具体的な支援が可能な専門の相談員配置がない。
- ・ ゲートキーパーの講習会の実施や相談体制の構築がされていてよいが、それらのさらなる充実が課題である。

■支援体制・連携の不足（8件）

- ・ 24時間体制で相談を受けることができる機関の設置。また、対象者を速やかに医療へ引き継げる体制が必要。
- ・ 未遂に終わった事案について、関係機関間で相互に情報共有が図れると、既遂の未然防止につながると考える。
- ・ 自殺予防という視点で横断的、横串を刺す、連携の場がない。

■社会・職場・学校環境の課題（5件）

- ・ 家庭内の問題に、どれだけ介入できるかが課題と感じている。
- ・ 自殺予防は、専門機関、専門職における取り組みに加え、社会全体がどれほど自殺予防に関心を持つことができるかが大切であると思う。地道に自殺予防の啓発活動を続けていきたい。
- ・ 不調の訴えをすることによる人事評価、出世への影響。

■早期発見の困難さ・プライバシーとの両立（4件）

- ・ 過労や人間関係などによるストレスをどのように把握するか。
- ・ 早期発見・介入が難しいと考えております。個人のプライバシー保護との兼ね合いもあり、予兆に気づけないことが多いことが課題だと思っております。

■相談しづらさ・孤立の問題（2件）

- ・ 気軽に相談できる人が身近にいないこと。話ができれば少し気持ちが軽くなると思います。知らない人に話すのは勇気がいるので。

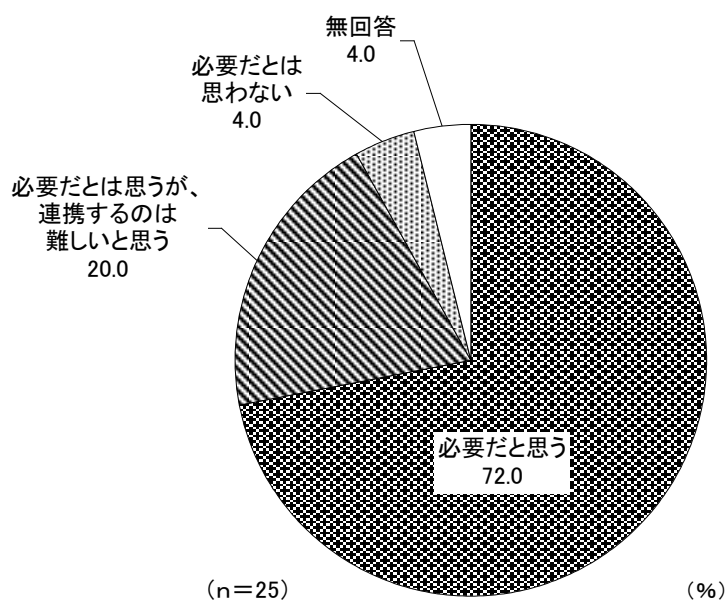
■その他（2件）

- ・ 支援や相談に対応する職員に対するストレスケアやスーパービジョン、フォロー体制が未整備。

(6) 自殺予防対策としての関係機関の連携体制の必要性

問6 自殺予防対策として、関係機関が連携する体制が必要だと思いますか。(〇は1つ)

自殺予防対策としての関係機関の連携体制の必要性は、「必要だと思う」が72.0% (18団体)、「必要だとは思いますが、連携するのは難しいと思う」は20.0% (5団体) となっている。一方、「必要だとは思わない」は4.0% (1団体) となっている。



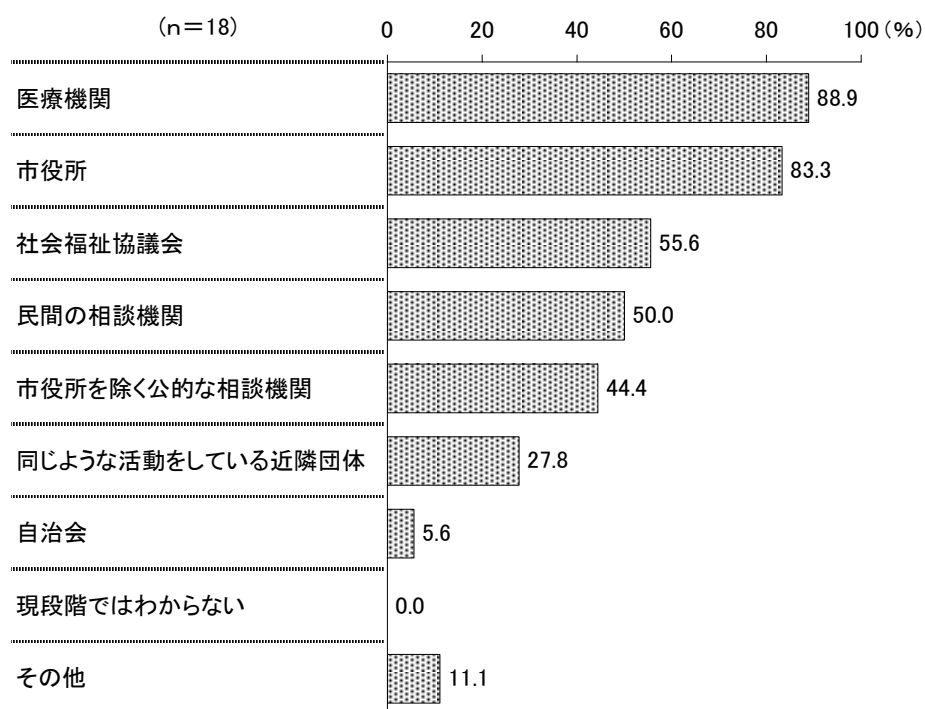
(7) 連携先

(問6において「必要だと思う」を選択した方にお伺いします)

問7 自殺予防対策はどのような施設、機関、団体等との連携が必要だと思いますか。

(○はいくつでも)

自殺予防対策はどのような施設、機関、団体等との連携が必要かについては、「医療機関」が88.9% (16団体) で最も高く、次いで「市役所」(83.3%・15団体)、「社会福祉協議会」(55.6%・10団体)、「民間の相談機関」(50.0%・9団体)、「市役所を除く公的な相談機関」(44.4%・8団体)となっている。

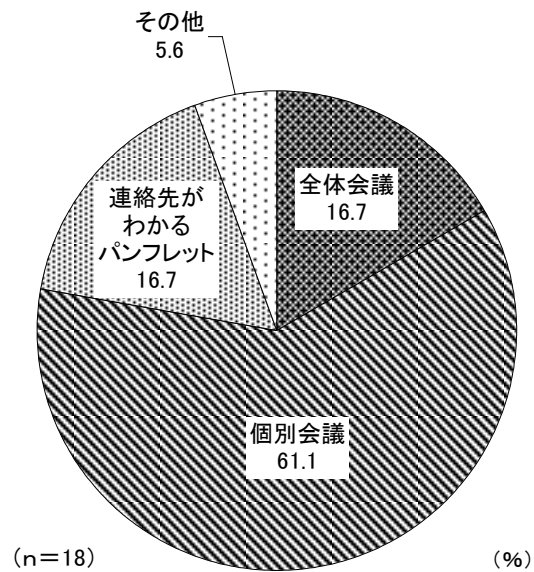


(8) 具体的な連携方法

(問6において「必要だと思う」を選択した方にお伺いします)

問8 具体的に必要と思われる連携方法を記載してください。(〇は1つ)

具体的に必要と思われる連携方法は、「個別会議」が61.1% (11団体) で最も高く、次いで「全体会議」と「連絡先がわかるパンフレット」(ともに16.7%・3団体) となっている。



(9) 連携することの難しい理由

(問6において「必要だとは思いますが、連携するのは難しいと思う」を選択した方にお伺いします)

問9 連携することが難しい理由についてお聞かせください。

自殺予防対策として、関係機関が連携する体制が必要だと思うが、連携することは難しい理由を自由に回答してもらったところ、5団体から5件の回答が寄せられたので、全て掲載する。

- ・ 自殺を問題提起すること自体、困難ではないかと思う。
- ・ 各団体で受けるストレスが異なる。どのような体系が正解かが見えない中で、たらい回しとなって、根治に至るまでの時間が余計にかかる可能性が高く、本人のためになるか疑問である。また、連携には個人情報の共有が必要なため。
- ・ デリケートな内容なので個人情報の面でも難しいと思います。
- ・ それぞれの機関の自殺に対する対応や考え方が違うと思うから。
- ・ 必須とされていないならば、なかなかどの機関とどのように連携したらよいか分からない。担当者も分からないので、どのように連絡調整してよいか分からないので、連携に躊躇する。何か指針となるようなものがあればよい。そして、東大和市内で具体的な連絡先やどのような時に相談すべきかを明示してくださるとよい。

(10) 東大和市への意見・要望

問10 自殺予防対策について、東大和市への意見・要望はありますか。

自殺予防対策について、東大和市への意見・要望を自由に回答してもらったところ、10団体から11件の回答が寄せられたので、回答を分類し、代表的な意見を抜粋して掲載する。

■子ども・家庭への支援強化（3件）

- ・ 市民向けに、月1（要予約、人数限定）で無料弁護士相談の場をつくり、自殺抑止を図ってもらいたい。
- ・ 未然に防ぐためにも児童・生徒をとりまく家庭をまるごとサポートする機関の働きかけをしていくことが大切です。

■相談窓口・相談手段の拡充（3件）

- ・ 学校は、さわやか相談室と連携しやすいので助かります。一方で、公的な相談機関を避ける方に紹介できる、医療機関や民間の相談機関も分かると助かります。
- ・ 自殺防止をクローズアップし過ぎずに、些細な悩み事や困り事を相談できる窓口にLINEなどを活用して気軽に利用できるようにしてはどうか。寄り添って話を聴くことで信頼関係を築いていき、深刻な悩みにならないようにすることで自殺予防になるのではと考える。

■情報提供・周知の改善（2件）

- ・ 市民の誰もが入れるアプリで、市の催しや窓口の企画などの情報を知ることができるというのでは。歩数計付きで毎日見てもらえるようにしてほしい。
- ・ 中小企業におけるメンタルヘルス対策やハラスメント防止研修への支援。商工会を通じたメンタルヘルス啓発資料の提供、相談制度周知。

■支援者（教員・相談員・支援担当者）へのサポート（1件）

- ・ 精神疾患を抱える利用者を担当する支援担当者に対するサポート体制の充実（支援者の心理的負担を減らす）。スーパーバイズ機能の強化（支援の質の向上、職員の精神的安全性を図る）。また、利用者が自殺に至った際の支援担当者へのフォロー体制の明確化（支援担当者が抱く強いショックや自責感、後悔など）に対する第三者の専門家を派遣し、心理的ケアやグリーフケアを行う仕組み、体制整備。

■その他（2件）

- ・ より広い視点で対応していくことが、とても大切だと思っている。
- ・ 今後も、自殺予防対策の一助を担っていければと思います。

『東大和市自殺対策計画』策定のための 事業者等アンケート調査

【調査ご協力のお願い】

日頃より市政にご理解とご協力をいただき、厚くお礼申し上げます。
さて、このたび本市では、『東大和市自殺対策計画』を策定することになりました。
自殺対策は個人だけでできるものではなく、行政、企業、学校、医療機関、支援機
関、関連専門職など、多くの組織・団体が連携・協力して取り組むことが必要です。
今回、計画策定に当たり市民に関わられている組織・団体等の方に調査を実施し、
市民をはじめすべての人々が心身ともに健康に暮らしていけるように支援してい
くための基礎資料とするものです。

ご回答いただきました調査票は、統計的に処理し、本調査の目的以外に使用する
ことはありません。また、貴施設、貴機関、貴団体にご迷惑をおかけすることは一切
ありません。

ご多忙のところお手数をおかけしますが、調査の趣旨をご理解いただき、アンケ
ー調査にご協力いただきますようお願い申し上げます。

令和7年10月

東大和市長 和地 仁美

ご記入にあたってのお願い

- 設問には、(○は1つ)、(○はいくつでも)などと書いてありますので、それにしたがって
ご回答ください。
- ご回答が「その他」に当てはまる場合は、()内になるべく具体的に内容をご記入く
ださい。
- 選択肢のない設問は、記述式になりますので、わかる範囲でご回答ください。
- この調査についてのお問合せは、下記までお願いいたします。

ご回答期限

2025(令和7)年11月7日(金)まで [消印有効]

回答方法

① 郵送

● 紙の調査票へご記入後、同封の返信用封筒でご返送ください。(切手不要)

② WEB フォーム

● 下記 URL または QR コードからアクセスしてご回答ください。
(通信料はご負担ください)
<https://logoform.jp/f/6GSJU>



【問合せ】東大和市 健幸福祉部 健康推進課 庶務係
〒207-0015 東大和市中心 3-918-1 東大和市立保健センター
電話:042(565)5211 FAX:042(565)5212

■ 貴施設、貴機関、貴団体名をご記入ください。

--

問1 あなたは、「自殺するのではないか」と感じる相談を受けたことがありますか。
(相談は受けていなくても、行動や会話の中でそのように感じた場合も含まれます。)
(○は1つ)

1 はい ⇒【問2以降へ】

2 いいえ ⇒【問4以降へ】

問2 【問1において「1.」を選択した方にお伺いします】

その時になにか具体的に対応はしましたか。(○はいくつでも)

1 なにもしなかった

2 面接や電話相談を行った

3 自組織内にある他の相談部署へ繋げた

4 他の相談機関を紹介した

5 他の相談機関の担当者に直接連絡して繋げた

6 自殺予防支援として具体的にアドバイスした

7 その他 (具体的に_____)

問3 【問1において「1.」を選択した方にお伺いします】

その相談者とは、それ以降継続して関わっていますか。(○は1つ)

1 はい

2 いいえ

問4 貴施設、貴機関、貴団体において自殺予防の対策・活動に取り組んでいますか。

また今後、新たに取組みたい、取組む予定の対策・活動はありますか。

実際にしている 取組み	
今後、取組みたい、 取組む予定の対策・ 活動	

問5 自殺予防対策には、どのような問題点や課題があると思いますか。

考えをお聞かせください。

--

問6 自殺予防対策として、関係機関が連携する体制が必要だと思いますか。(○は1つ)

1 必要だと思う ⇒【問7、8へ】 2 必要だとは思いますが、連携するのは難しいと思う ⇒【問9へ】 3 必要だとは思わない ⇒【問10へ】
--

こころの健康に関する市民アンケート調査
「東大和市自殺対策計画」策定のための事業者等アンケート調査
報告書

令和8年3月発行

発行 東大和市 健福祉部健康推進課
東京都東大和市中心3-918-1
電話 042-565-5211（直通）